おおいなる　おおうち　おおかた　おおがら　おおきい　おおきな　おおきに　おおくち　おおげさ　おおごえ　おおごと　おおさじ　おおさら　おおしい　おおじか　おおじょ　おおすじ　おおぜい　おおぞら　おおだい　おおだて　おおだま　おおつぶ　おおどか　おおどり　おおなた　おおなみ　おおにし　おおぬき　おおのり　おおばこ　おおばん　おおびき　おおぶり　おおぶろ　おおまか　おおまた　おおみず　おおめ　おおもと　おおもの　おおやけ　おおやま　おおよそ　おおらか　おおわく　おおわざ　おおわた　おおわら　おおわれ　おおんな　おかあさ　おかあさ　おかあさ

おもたし[重し]（形シク）おもさが多い。
おもだち[面立]（名）顔だち。
おもだつ[重立]（自タ四）主となる。かしら。
おもちゃ[玩具]（名）「もてあそびもの」の略。小児の玩具であるような物。（玩物）
——や[玩具屋]（名）おもちゃを売る店。
おもつぼ[錘頂]（名）「おもがいの古名。
おもて[面]（名）❶顔面。❷かお。つら。体面。❸おんぼく。——をおこす 人の不機嫌をも解う。——をおとす 顔をおとす。又は顔を伏せる。——をおよがす 人の不機嫌をも解う。——をかく 外部（外面）をとりつくろう。——をふせる 顔を伏せる。——をやぶる 面目を失う。
おもて[表]（名）❶外部。外面。そとがわ。うわべの部。❷屋敷の中にて、客に接するところ。「しらっしゃい」❸❹❺はやり。「沙汰」❻ところ。「西洋一」❼たて。
おもて-で[面手]（名）おもてだって、ふうぶんをすること。「一を貰う」（百姓）「目もる歌」
おもて-うた[表歌]（名）人に贈答せられて、面目をほどこすこと。
おもて-おこし[面起]（名）名誉となりて、面目をほどこすこと。
おもて-がた[面形]（名）かお。顔面。
おもて-がえ[表換]（名）畳のおもてを取り換ふること。
おもて-ぐち[表口]（名）おもてにあたる入り口。
おもて-げしょう[表化粧]（名）顔にする化粧。
おもて-ざた[表沙汰]（名）❶政府に訴訟すること。❷おおやけざた。おもてむき。
おもて-だうぐ[面道具]（名）目・口・眉など、ことさらに顔に属する身体の部分。
おもて-だつ[表立]（自タ四）❶公事沙汰となる。裁判沙汰となる。❷世におおうはれて公然となる。
おもて-つき[表附]（名）下戸にたしみをつけた。そそぐこと。其下略。
おもて-どおり[表通]（名）両側の表にあたる大通路。うちうちとはりの対。「なし」
おもて-はづかしい[面羞]（形シク）面目ありの対。
おもて-はんでおし[表判押]（名）劇場にありて、種々の用部をうつしむる保存のもの。
おもて-ぶせ[面伏]（名）はずかしくて面をあげうること。（不面目）
おもて-まち[面貌]（名）❶外面のみにて判断すること。❷おもてとはさること。
おもて-むき[表向]（名）❶おもてだつこと。公然となること。❷公事。裁判。❸うわべ。おもては。公道。
おもて-もん[表門]（名）屋のおもてむきにある「門」。うちもんの対。（正門）
おもて-よわし[面弱]（形シク）人と対面して強く言動をなすこと能はず。
おもな[高年青]（名）【植】百合科に属する草。葉は革質緑色にして根茎より叢生す。花は穂状花序に排列し花蓋は広く上部にて濃紫色を帯ぶ。実は一つごとに似たる種を結ぶ。観賞用として栽培せらる。
おもはく[思]（名）❶おもうところ。❷かんがえ。❸利害を標準として見たる所。（思慮）——が外れる 利害を標準として見込みが違う。
おもはくぶかい[思慮深い]（形）❶思慮に富む。❷慎重にて容易に事を行はず。
おもはし[思]（名）❶おもうこと。おもう所。かんがえ。❷思慮。❸うれしいこと。めでたいこと。❹すきずき。そうそう。❺恋慕。
おもはしい[思]（形シク）❶思慮に富む。❷慎重にて容易に事を行はず。
おもはしがる[思]（他ラ四）かんがえる。思慮する。
おもはしげ[思]（形動）❶思慮に富むさま。❷慎重にて容易に事を行はざるさま。
おもはしさ[思]（名）❶思慮に富むこと。❷慎重にて容易に事を行はざること。
おもはしそう[思]（形動）❶思慮に富むさま。❷慎重にて容易に事を行はざるさま。
おもはす[思]（他サ四）❶おもう。❷恋慕する。
おもはせぶり[思]（名）思慮を以て示しまたは行為をなすこと。
おもはせる[思]（他サ下一）❶おもわせる。❷恋慕せしむ。
おもはぬ[思]（連体）❶思いがけない。❷不思議な。
おもはぬこと[思]（名）❶思いがけないこと。❷不思議なこと。
おもはぬでき[思]（名）思いがけない出来事。
おもはぬほか[思]（副）思いがけなく。
おもはぬもの[思]（名）❶思いがけないもの。❷不思議なもの。
おもはれる[思]（自ラ下一）❶おもわれる。❷恋慕される。
おもはれる[思]（他ラ下一）❶おもわれる。❷恋慕される。
おもはん[思]（名）❶おもうこと。❷恋慕すること。
おもはんがく[思]（名）❶おもうこと。❷恋慕すること。
おもはんがくしゃ

おもう【思う】(動)(五)(他)
おもえる【思える】(動)(下一)(他)
おもおもしい【重重しい】(形)
おもかげ【面影】(名)
おもくるしい【重苦しい】(形)
おもさ【重さ】(名)
おもし【重し】(名)
おもしろい【面白い】(形)
おもしろがる【面白がる】(動)(五)(他)
おもしろさ【面白さ】(名)
おもしろみ【面白み】(名)
おもたい【重たい】(形)
おもだか【面高】(名)
おもだつ【面立つ】(動)(五)(自)
おもちゃ【玩具】(名)
おもて【表】(名)
おもてがき【表書き】(名)
おもてぐち【表口】(名)
おもてげんかん【表玄関】(名)
おもてざしき【表座敷】(名)
おもてどおり【表通り】(名)
おもてむき【表向き】(名)
おもてもり【面守】(名)
おもな【主な】(形)
おもに【主に】(副)
おもねる【阿る】(動)(五)(自)
おもはゆい【面映い】(形)
おもみ【重み】(名)
おもむき【趣】(名)
おもむく【赴く】(動)(五)(自)
おもむろに【徐に】(副)
おもや【母屋】(名)
おもやつれ【面やつれ】(名)
おもり【重り】(名)
おもり【錘】(名)
おもりがち【重りがち】(形)
おもわく【思わく】(名)
おもわしい【思わしい】(形)
おもわず【思わず】(副)
おもわせぶり【思わせぶり】(名)
おもんじる【重んじる】(動)(上一)(他)
おもんずる【重んずる】(動)(サ変)(他)
おもんばかる【慮る】(動)(五)(他)
おもんみる【顧みる】(動)(上一)(他)
およぎ【泳ぎ】(名)
およぐ【泳ぐ】(動)(五)(自)
およそ【凡そ】(副)
およぼす【及ぼす】(動)(五)(他)
およぼす【及ぼす】(動)(五)(他)
およぼす【及ぼす】(動)(五)(他

おやこ-どん【親子丼】〔同〕(形ナリ)「おやこ」の轉「心ーまでおみとおされた」

おや-ぞめ【親染】(名)【地】琉球の「ニオホッ」地に起リ、我國の北海道及び樺太州の漁村に流ひて流行ス、染液。

おや-しらず【不知親】(名)❶子供の時に人に從はれ又は孤兒となりて父母の顏を見ざりしこと。「おやまうらはの略言」❷淡うちあはなどの植物にて他種となる所。——**こ**【不知親子】(名)❶三十三枚の中四枚。❷互に生(ゆ)ゆるもの。

おや-だま【親玉】(名)❶かしらだつ人。かしら人を尊稱していふ語。(五寸程)❷遊戲などの切なるもの。

おや-ぢ【親父】(名)❶父(ち)の略。❷他人に對して、我父の稱。(蔑父)❸老人。❹自「親方」。——**ごころ**【親父樣】(名)他人の父の敬稱。ごぜんぢ。

おや-どり【親鳥】(名)鳥の親。子鳥の對。

おや-なし【親無】(名)幼兒の親をうしなひたること又人。——**こ**【親無子】(名)親を失ひたる子。みなしご。(孤兒)

おや-の-すねかじり【親脛齧】(名)親に從ひて生活し、しかも遊惰なるものをあざけりていふ語。「ですねかじり」

オルゴル(名)《オランダ語Orgel》❶オルガンに同じ。❷西洋音樂の一種の機械、匣中にせんまいを裝置ありて、それにより回轉する「シリンドル」の刺が、他の櫛狀の鋼板に觸れて音を發す。(自鳴琴)

おれ【己】(代)「おのれ」の略言。❶おのれに下等社會の用ふる自稱の代名詞。われ。おら。❷相應の親の對稱の代名詞。「一さんが、何をする」

おや-ばち【親撥】(名)【地】琉球の三絃の一種、撥の一種。

おや-ばな【親潮】(名)【地】琉球の「ニオホッ」地に起リ、我國の北海道及び樺太州の東岸に沿ひて流るゝ寒流。

おや-ぶん【親分】(名)❶數人の徒黨にて、其中に親として、すべての物部を統括する頭目(カシラ)の稱。ぶんの對。❷職人又は遊人などの社會にて、其中に親として、すべての物部を依托する頭目(カシラ)の稱。ぶんの對。❸職人又は遊人の共人の指導する人の稱。

おや-ぼお【親棒】(名)國の生石のはしに各一枚づつ

つある棒。そえぼう。(國語)。

おや-もさ【親詐】(名)ぬすびと「一く引きとる」

おや-ゆづり【親讓】(名)親より傳りうけたる「の慣語」

おや-ゆび【親指】(名)❶おほゆび(俗)。❷足の主

おや-わん【親椀】(名)大なる飯椀。

およ-ゆび【老】(自「およゐ」)❶よはひの重なる。❷としよりて衰弱す。おとろふ。

およ-ゆびの【御湯殿】(名)❶古昔、宮中にて御茶の湯などをめかけし所。❷精廬の敬稱。

およ-ろく【老】(自)「およゐ」の連言。

およぎ【泳】(名)およぐこと。およぎ術。

およ-ぐ【泳】(自「かが四」)❶水中にて、肢體を動かして行く。❷世に處する官職を得。

およ-すく【老】(自「かす二」)年の進むに從ひて、衰くなる。

およそ【凡】(名)其物事の要領がかりやく。

およそ【凡】(副)❶たがいは。おほかた。ばかり。❷一般に。おしなべて。「ばかりやくは。❸一概にいふ。

およづれ【妖】(名)うつはるゝ。わざ。

およ-ばな【老女】(名)おうな。

およば-ず【及】(他「さ四」)およばしむ。

および【指】(名)ゆび。

および【御呼】(名)おめし。およばれ。

および【及】(名)およぶこと。——**ごし**【及腰】(名)からだをはこばず手のみをさし出だして、ほを行はんとする態をいふ。

および【及】(接)また。ならびに「花一月」

およ-およず【及】(自「は四」)❶到達す。ふたる。❷周遍す。ゆきわたる。「一に」❸周密に、「注意不可一」❹其物事となる。「一ず」

およぼ-す【及】(他「さ四」)およばしむ。およぼしかく。❷其物事となる。「惡びに一」

およ-よる【老】(自「らこ四」)おとろふ。

おら【己】(代)おれに「下等人のつかふ自稱の代名詞。

おらぶ【叫】(自「は四」)さけぶ。よばふ。

おり【織】(名)織ること。織りたるもの。

おり【澱】(名)液體中にある沈澱したる微塵。

オリーブ【阿列布=Olive】(名)【植】「かんらん(橄欖)に同じ。——**ゆ**【阿列布油=Olive-oil】(名)「かんらんゆ(橄欖油)に同じ。

おり-いろ【織色】(名)絲を染めて織りたるおりもの、色。

おり-た-つ【下立】(自「た四」)❶下く行く。❷其事をはじめて行ふ。かゝる。❸貴人の「に」

おり-の-り【下乘】(名)かごと乘ること。

おり-べ【織部】(名)ぎかくの一種、木製金銅又は陶製などにして、膳椀梨地などをはじめとしたる小形のもの、天正の頃、織部重能といふもの、茶道にくはしく、「おりべ」形を作り出だしてより名とす、其大なるものを「おりべ」(古語)。——**つかさ**【織部司】(名)古昔の官名、大藏省の所屬にして、織物の事をつかさどりし所。

おり-もの【織物】(名)❶機(ハタ)にかけて、織りたる反物の總稱。❷機にかけて織りたる絹布の有價物。

おりも-の【下物】(名)❶つきの「月經」❷おりもの。

おり-もと【織元】(名)はたもと。織元。

おりる【下】(自)「おる」の訛。

おりるの-のみかど(名)位をゆづり給ひたる天皇「上皇」「太上皇」

おり-る【下】(自「らり上1」)❶下くだりてくる。❷位をゆづる。

おる【織】(他「ら四」)❶絲を機(ハタ)にかけ、緯(ヨコ)と經(タテ)とを交互に組合せて布帛につくる。❷風雪をしのぐ。

おる【折】(他「ら四」)❶折目をつけて曲げる。❷屈伏す。❸まにに作ぶんたつ。

おる【下】(名)「峰」(自「ら上二」)❶高きより低きにくだる。上にありしものの下にさがる。❷位をさぐ。ゆづる。❸減・退などす。

オルガン[Organ](名)西洋より傳來したる一種の樂器、種々の音(一種或はそれ以上)を發するものにて、これに氣流を吹入るゝときは、氣流は管形の音に變じて管内の氣柱に振動を起さしめ、音を發す、吸氣にて、風琴或は風琴などにこれを發す。ふうきん。「オルゴル」

オルゴル(名)《オランダ語Orgel》❶オルガンに同じ。❷西洋音樂の一種の機械、匣中にせんまいを裝置ありて、それにより回轉する「シリンドル」の刺が、他の櫛狀の鋼板に觸れて音を發す。(自鳴琴)

おれ【己】(代)「おのれ」の略言。❶おのれに下等社會の用ふる自稱の代名詞。われ。おら。❷相應の親の對稱の代名詞。「一さんが、何をする」

おれい【御禮】(名)感謝・恭敬又はふくり物をなすために對して感謝の意を表すること。——**まうし**【御禮參】(名)前條の「かた」なる處の儀禮として參詣すること。

おれおれ【折】(形ナリ)ふかに見ゆ。

おれ-くち【折口】(名)❶言語に從ひてはしかられぬ意をあらはすこと。❷話語に從ひていふことなり。

おれ-くぎ【折釘】(名)❶物を懸けんために、壁に打ちたる釘。❷折れ曲りたる釘。

おれ-くち【折口】(名)❶物を懸けんために、壁に打ちたる釘。❷折れ曲りたる釘。

おれ-まがり【折曲】(名)❶折れ曲ること。❷折れ曲りたる處。

おれ-まげ【折曲】(名)❶折れ曲ること。❷折れ曲りたる處。

おれ-まげる【折曲】(他「げ下一」)❶折れ曲らしむ。❷屈伏す。

おれ-まる【折曲】(自「ら四」)❶折れ曲る。❷屈伏す。

おれ-め【折目】(名)❶折れ曲りたる目。❷折れ曲りたる處。

おれ-もの【折物】(名)❶折れ曲りたる物

感謝に冠して敬意を表はす。「一書」「一拝」。

ねんあい【恩愛】(名) ㊀めぐみいつくしむこと。㊁こまやかなるなさけ。

ねんかい【音階】(名) 元音と共オクターヴとの間に、順次異なる樂音を排列したるもの。現今行はるゝ音階の順次即ち元音に對する音程は、ド(一)・レ(二)・ミ(三)・ファ(四)・ソ(五)・ラ(六)・シ(七)・ド(一)といふ。

ねんがく【音樂】(名) 樂器を使用して、音を整調を成し、歌謡(ウタ)の節に合はせて、以て人心を感ましむるもの、總稱。又、其技術。——か【音樂家】(名) ねんがくに長じたる人。

ねんがへし(エシ)【恩返】(名) 受けたるめぐみをかへすこと。報恩。

ねんきん【恩謹】(名) めぐみ。おほけなみ。(恩幾)。

ねんぎ【音義】(名) ㊀音と意味と。「一を調べる。㊁一字ごとに有する意味。

ねんきふ(キフ)【恩給】(名) ㊀めぐみて給ふこと。にざはすと。㊁政府が多年勤續して一定の條件の下に職務を退りたる判任以上の官吏に、一定の金額を終身給與するとき、在官滿十五年以上にして六十歳を超ゆるか又は疾病傷痍のため、若しくは職官職務のために退官したるもの、在官十五年に滿たざれど、公務のため傷痍を受け疾病に罹り、一肢以上の用を失ふに至りたるもの、乃至滿五年以上國務大臣の職にありたるもの等は、恩給を受くるものとす、軍人には特別なる恩給法ありて、其現役を離れたるものに給與す。——ほうよう【恩給證書】(名) 恩給を受くる權利あることを證明したる證書、內閣これを作成して本人に交付す。

ねんきやう(キヤウ)【音經】(名) ㊀音とひゞきと。㊁音に同じ。——がく【音響學】(名) 音の性質及現象を研究する科學。

ねんきよく(キヨク)【音曲】(名) 鳴りもの即ち琴三味線などの樂器に合はせて、謡(ウタ)ふべきうたひ物の總稱。

ねんぐ【恩遇】(名) なさけをかけて取り扱ふこと。厚待。

ねんけい【恩惠】(名) めぐみ。なさけ。——き【恩惠期日】(名) 債務履行等につき、定期の外に特典として與ふる猶豫期限。

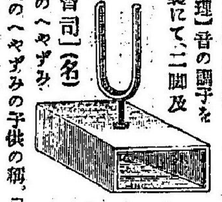
ねんこう(コウ)【恩惠】(名) なさけによりて企圖又は物品を借りたること。又、其借りたる企圖物品。

ねんこと【恩顧】(名) なさけをかけてくれたる人。

ねんごと【御事】(名)【種】「いちねんこと」の一名。

ねんごと【御事】(名) 其人にかゝはる事柄の敬稱。「俊徳さまの一」。

ねんさ【音叉】(名)【理】音の調子を計るに用ふる具、鋼鐵製にて二脚及柄を有し、一定の振動數の音を發し得るもの。



[おんさ]

ねんざう(ザウ)【御曹司】(名) ㊀古昔、堂上家の子息のへやずみの稱。㊁後世、源家嫡流のへやずみの稱。「鞍馬の一」。

ねんし【御師】(名)「おし」に同じ。

ねんじ【恩賜】(名) 古昔、堂上家の子息のへやずみの稱。㊁後世、源家嫡流のへやずみの稱。「鞍馬の一」。

ねんし【恩賜】(名) めぐみたまはること。君主などより賜はること。又、其たまはりたる物。

ねんじ【恩識】(名)【字の異音】飲みものと食ひもの。

ねんじ【音字】(名) 漢字の音。

ねんしき【音式】(名) 音樂の法則。

ねんじつ【恩日】(名) 恩澤ふかき御匠。

ねんしゃう(シヤウ)【音聲】(名) 音とひゞきと。

ねんしゅ【恩主】(名) 恩澤ふかき主人。

ねんしゅう(シウ)【音聲學】(名) 音の性質及現象を研究する科學。

ねんしゅく【恩澤】(名) めぐみ。うるはし。「一に浴す。

ねんしゅつ【音出】(名) 鳴りもの即ち琴三味線などの樂器に合はせて、謡(ウタ)ふべきうたひ物の總稱。

ねんじゅつ【音樂】(名)【生】人類の發するこゑ、咽喉の內にある聲帶が空氣出入の際に振動して發するもの。其大小高低あるは、咽喉の軟骨これに附屬する筋肉と共動して、聲門を擴大にし狹小にし、又、聲帶を弛緩し緊張するが故なり。

ねんしゅつ【音樂】(名) 樂器を使用して、音を整調を成し、歌謡(ウタ)の節に合はせて、以て人心を感ましむるもの、總稱。又、其技術。——か【音樂家】(名) ねんがくに長じたる人。

ねんしゅつ【恩返】(名) 受けたるめぐみをかへすこと。報恩。

ねんしょ【恩書】(名) 恩澤ふかき御匠。

ねんしょ【恩師】(名) 恩義ふかき師匠。

ねんしょく【飲食】(名)【字の異音】飲みものと食ひもの。「百味の一」。

ねんしん【恩赦】(名) なさけによりて、罪をゆるさるゝこと。「一にあふ」(恩免)。

ねんしん【恩賞】(名) 其行爲をほめて物を賜はること。はうび。「一を受けんとすれば」。

ねんしんやう(シンヤウ)【音響】(名)【生】人類の發するこゑ、咽喉の內にある聲帶が空氣出入の際に振動して發するもの。其大小高低あるは、咽喉の軟骨これに附屬する筋肉と共動して、聲門を擴大にし狹小にし、又、聲帶を弛緩し緊張するが故なり。

ねんしんやう(シンヤウ)【音響】(名)【理】音の高低の稱。「一の部屋」。

ねんず【恩不知】(名) 恩をうけて謝ゆることをせざること。又、其人。「ん(者)間。

ねんすい【音信】(名) もとづれ。たより。いんそ。

ねんすゐ【恩人】(名) 恩をかけてくれたる人。

オンス【ヲ】=Ounce】(名) 英米兩國に於ける衡量の單位「アヴォイルデュポイス」衡にては、一「ポンドの十六分の一にして、我國の七匁五分六厘に當る、又、「トロイ衡にては「トロイ、ポンド」の十分の一にして、我國の八匁二分九厘四毛に當る。

ねんせい【音聲】(名)「おんせいろ」に同じ。

ねんせき【恩惜】(名) 神事などの場合に着する服。

ねんそう(サウ)【御衣】(名) ㊀貴顯の人の着する衣服。㊁

ねんそく【恩賜】(名) めぐみ。うるはし。「一に浴す。

ねんそく【音速】(名)【理】音の傳播する速度。

ねんそく【年足】(名) 年數。「一二十年」。

ねんそん【隱田】(名) 隱の出しかた。又、書體。

ねんそん【音訓】(名) 二人以上にて唱(ウタ)などをうたふとき、一人が先づ頭だちて調子を取ること。——ざり【音頭取】(名) ㊀音頭をつとむる人。㊁物事の首唱者。

ねんだい【年代】(名) 年數。「一記」。

ねんだい【年代】(名) 年數。「一記」。

ねんだい【年代】(名) 年數。「一記」

おい [艇] (名) 小さく且つ曲がらず、水を截(き)り分けて、船を進むるに用ふるもの。(艦・艦・艦)。

おい [戒] (名) ❶いましむること。いましむる言。いましめ。❷悪友にて人をいましむるに用ふる文句。❸【仏】非を防ぎ悪を止むること。又、其用。「十一」「五一」。

おい [階] (名) ❶そこなひ。おがりだん。「空(くう)一」。❷失。

おい [神] (名) 「かみ」との略言。

おい [解] (名) ❶意義又は方法のときあかし。解説。❷悪友にて人の疑ひを解くに用ふる文句。

おい [海] (名) うみ。なだ。「一面」(詩)。

おい [介] (名) ❶かいだて。かい。❷すけ。かいぞえ。❸仲人。❹面倒なかたづけ。❺媒酌(なかだち)。

おい [外] (名) ❶上下四方。空間。❷場所。位地。❸記載。なかま。「身(み)一」。❹きかい。かぎり。

おい [下意] (名) えもいはれぬ意味。「一通ず」。

おい [下衣] (名) 上衣の下に着する衣服。ズボン。

おい [納] (名) 「かぶり」の訛。

おいえ [頑頭] 感動をこめるために感動詞に冠する語。「一うるさい」「一えい」。

おいし [語] (名) ❶おほよその。おほひ。❷意味又は趣(おもむき)などがき。❸語彙のふだ。❹[俗]食物調味などの如き嗜好をおほよその。

おいし [幸] (名) ❶そこなひ。さまたげ。さはり。わざはひ。「一利一」。❷[仏]人生の苦悩煩悩。これを分つて「二十五一」とす。「一は物理的にして即ち自然的勢力をいふ。他は精神的にして即ち意をいふ。」

おいし [我意] (名) 我が思ふままのこと。おがまま。

おいし [指] (名) ❶さはり。ちがひ。❷定規に

小さく且つ曲がらず、水を截(き)り分けて、船を進むるに用ふるもの。(艇・艦・艦)。

おいし [戒] (名) ❶いましむること。いましむる言。いましめ。❷悪友にて人をいましむるに用ふる文句。❸【仏】非を防ぎ悪を止むること。又、其用。「十一」「五一」。

おいし [階] (名) ❶そこなひ。おがりだん。「空(くう)一」。❷失。

おいし [神] (名) 「かみ」との略言。

おいし [解] (名) ❶意義又は方法のときあかし。解説。❷悪友にて人の疑ひを解くに用ふる文句。

おいし [海] (名) うみ。なだ。「一面」(詩)。

おいし [介] (名) ❶かいだて。かい。❷すけ。かいぞえ。❸仲人。❹面倒なかたづけ。❺媒酌(なかだち)。

おいし [外] (名) ❶上下四方。空間。❷場所。位地。❸記載。なかま。「身(み)一」。❹きかい。かぎり。

おいし [下意] (名) えもいはれぬ意味。「一通ず」。

おいし [下衣] (名) 上衣の下に着する衣服。ズボン。

おいし [納] (名) 「かぶり」の訛。

おいえ [頑頭] 感動をこめるために感動詞に冠する語。「一うるさい」「一えい」。

おいし [語] (名) ❶おほよその。おほひ。❷意味又は趣(おもむき)などがき。❸語彙のふだ。❹[俗]食物調味などの如き嗜好をおほよその。

おいし [幸] (名) ❶そこなひ。さまたげ。さはり。わざはひ。「一利一」。❷[仏]人生の苦悩煩悩。これを分つて「二十五一」とす。「一は物理的にして即ち自然的勢力をいふ。他は精神的にして即ち意をいふ。」

おいし [我意] (名) 我が思ふままのこと。おがまま。

おいし [指] (名) ❶さはり。ちがひ。❷定規に

おいし [戒] (名) 【仏】戒類の総称。

おいし [茶] (名) 植物の頭(こう)レ即ち嫩葉を以て製包せられたる生産物。

おいし [我] (名) ❶おのれ即ちおのづから人の自由意志。(利我)。❷[仏]自家の私利をはかること。私慾。❸[仏]自家一身は境合なるに、自体なりと執着すること。❹[哲]自家の存在、即ち意識を具にするに従ひて、多数主我等に分つ。❺[心]一切の心的状態の中に於て、最も主観的と感ずるもの、心的状態。

おいし [雅] (名) ❶支那上代に於ける詩の六義の一。風(ふう)・賦・比・興・頌・雅・風雅正しくして徳化の普きものと。「大一」「小一」。❷たしなみ。雅趣。❸たしなみある言語。たしなみある談話。(雅言・雅音)。❹たしなみある言語。たしなみある談話。(雅言・雅音)。❺ふくゆかしきこと。ただかざらず。みやびやか。そとやか。❻[古]古歌にして趣味あるもの。(風雅)。

おい [助] ❶主格を表はす語。「人一笑ふ」。❷関係を表はす語。「東一北」。❸における」の意を表はす語。「官城一原」。❹「といふ」の意を表はす語。「如来一滅」。❺さうしてはおもむき、又はそれからなどの意を表はす語。「称は一如れず」。「レ」。

おい [助] こころねがふ意を表はす語。「ぎ」。「寒れ見て一雁もにほふ」。

カーキー [Khaki] (名) 〔もとは土色の意〕近時あらゆる国軍の平服に用ひらるゝ、黄色ラシャにて作製せる以て雑色とも黄(オウ)色とも訳す。

ガーゼ (名) 〔ドイツ語 Gase〕消毒したる細き木綿、外科用のもの。

カード [Card] (名) ❶厚紙の小片。なだ。❷名刺。——**ぜい** [—式—Card system] (名) 記載法の一にて、各個の口座を各個の「カード」に記載して整理するもの。

かあ [河] (名) 「かわ」の古語。

かあ-かあ [開国] (名) ❶ひらくことゝなること。❷古昔の官名。和歌所、蔵人所、政所などにありて、文書に同じき機関のもの。

かあ-ぼう [冊房] (名) 【生】鳥類の雄の生殖器。睾丸と副生殖腺とにして、若干の動物にありては上記の諸器官に連絡して副部をなすもの。

かあ-ぼう [海岸] (名) 陸地の海に接したる部分。——**えいせい** [—衛生] (名) 海岸又は海上に於ける衛生。——**ぼう** [—防] (名) 海岸に設けたる防禦。——**ぼう** [—砲] (名) 海岸防禦に備置する各種の大砲。——**ぼうえい** [—防衛] (名) 海岸をまもること。又、海岸に設置せる兵備。——**ぼうだい** [—砲台] (名) 海岸防禦のために設けたる砲台。——**ぼうりょく** [—防禦力] (名) 「かいへいりょく」に同じ。

かあ-ぼく [書牘] (名) 「天」「かいぞえよく」に同じ。

かあ-ぼく [開拓] (名) ❶ひらきひらくこと。❷等閑の創立者。寺院の祖。「かいさん」「一は一遍上人」。(開闢・開山)。

かい (名) 伊豆諸島の産かつお類の地方より生産にて産れる魚物の名、甲殻固部内は頭等あり、鰓蓋又は羽鰓の辺などに用ふ。

かい [海気] (名) 海の気。うみべの空気。

かい-ぎ [海技] (名) 海員として必要なる技術。——**しかく** [—資格] (名) 海技免状(めんじょう)。——**めんじょう** [—免状] (名) 海員の技術に合格したものに与ふる証書。海技士が合格者同等と認めたる者の履歴を有し、海軍大臣が合格者同等と認めたるものに与ふる証書。

かあ-かあ [河] (名) 「かわ」の古語。

かあ-かあ [開国] (名) ❶ひらくことゝなること。❷古昔の官名。和歌所、蔵人所、政所などにありて、文書に同じき機関のもの。

かあ-ぼう [冊房] (名) 【生】鳥類の雄の生殖器。睾丸と副生殖腺とにして、若干の動物にありては上記の諸器官に連絡して副部をなすもの。

かあ-ぼう [海岸] (名) 陸地の海に接したる部分。——**えいせい** [—衛生] (名) 海岸又は海上に於ける衛生。——**ぼう** [—防] (名) 海岸に設けたる防禦。——**ぼう** [—砲] (名) 海岸防禦に備置する各種の大砲。——**ぼうえい** [—防衛] (名) 海岸をまもること。又、海岸に設置せる兵備。——**ぼうだい** [—砲台] (名) 海岸防禦のために設けたる砲台。——**ぼうりょく** [—防禦力] (名) 「かいへいりょく」に同じ。

かあ-ぼく [書牘] (名) 「天」「かいぞえよく」に同じ。

かあ-ぼく [開拓] (名) ❶ひらきひらくこと。❷等閑の創立者。寺院の祖。「かいさん」「一は一遍上人」。(開闢・開山)。

かい (名) 伊豆諸島の産かつお類の地方より生産にて産れる魚物の名、甲殻固部内

かい [艇] (名) 小さく且つ曲がらず、水を截(き)り分けて、船を進むるに用ふるもの。(艦・艦・艦)。

かい [戒] (名) ❶いましむること。いましむる言。いましめ。❷悪友にて人をいましむるに用ふる文句。❸【仏】非を防ぎ悪を止むること。又、其用。「十一」「五一」。

かい [階] (名) ❶そこなひ。おがりだん。「空(くう)一」。❷失。

かい [神] (名) 「かみ」との略言。

かい [解] (名) ❶意義又は方法のときあかし。解説。❷悪友にて人の疑ひを解くに用ふる文句。

かい [海] (名) うみ。なだ。「一面」(詩)。

かい [介] (名) ❶かいだて。かい。❷すけ。かいぞえ。❸仲人。❹面倒なかたづけ。❺媒酌(なかだち)。

かい [外] (名) ❶上下四方。空間。❷場所。位地。❸記載。なかま。「身(み)一」。❹きかい。かぎり。

かい [下意] (名) えもいはれぬ意味。「一通ず」。

かい [下衣] (名) 上衣の下に着する衣服。ズボン。

かい [納] (名) 「かぶり」の訛。

かいえ [頑頭] 感動をこめるために感動詞に冠する語。「一うるさい」「一えい」。

かい [語] (名) ❶おほよその。おほひ。❷意味又は趣(おもむき)などがき。❸語彙のふだ。❹[俗]食物調味などの如き嗜好をおほよその。

かい [幸] (名) ❶そこなひ。さまたげ。さはり。わざはひ。「一利一」。❷[仏]人生の苦悩煩悩。これを分つて「二十五一」とす。「一は物理的にして即ち自然的勢力をいふ。他は精神的にして即ち意をいふ。」

かい [我意] (名) 我が思ふままのこと。おがまま。

かい [指] (名) ❶さはり。ちがひ。❷定規に

かい [艇] (名) 小さく且つ曲がらず、水を截(き)り分けて、船を進むるに用ふるもの。(艦・艦・艦)。

かい [戒] (名) ❶いましむること。いましむる言。いましめ。❷悪友にて人をいましむるに用ふる文句。❸【仏】非を防ぎ悪を止むること。又、其用。「十一」「五一」。

かい [階] (名) ❶そこなひ。おがりだん。「空(くう)一」。❷失。

かい [神] (名) 「かみ」との略言。

かい [解] (名) ❶意義又は方法のときあかし。解説。❷悪友にて人の疑ひを解くに用ふる文句。

かい [海] (名) うみ。なだ。「一面」(詩)。

かい [介] (名) ❶かいだて。かい。❷すけ。かいぞえ。❸仲人。❹面倒なかたづけ。❺媒酌(なかだち)。

かい [外] (名) ❶上下四方。空間。❷場所。位地。❸記載。なかま。「身(み)一」。❹きかい。かぎり。

かい [下意] (名) えもいはれぬ意味。「一通ず」。

かい [下衣] (名) 上衣の下に着する衣服。ズボン。

かい [納] (名) 「かぶり」の訛。

かいえ [頑頭] 感動をこめるために感動詞に冠する語。「一うるさい」「一えい」。

かい [語] (名) ❶おほよその。おほひ。❷意味又は趣(おもむき)などがき。❸語彙のふだ。❹[俗]食物調味などの如き嗜好をおほよその。

かい [幸] (名) ❶そこなひ。さまたげ。さはり。わざはひ。「一利一」。❷[仏]人生の苦悩煩悩。これを分つて「二十五一」とす。「一は物理的にして即ち自然的勢力をいふ。他は精神的にして即ち意をいふ。」

かい [我意] (名) 我が思ふままのこと。おがまま。

かい [指] (名) ❶さはり。ちがひ。❷定規に

にして、諸国名産に産額割合を定めたるもの。「一帳」。

かい [医気] (名) 医(い)を信ずる気。「一あり」。

かい-いん [医員] (名) 【官】官立病院に於て医業に従事する官吏。

かい-いん [会員] (名) 会に加入したる人。

かい-いん [改印] (名) 印形(インギョウ)を改めかふること。

かい-いん [海印] (名) 【仏】聖者の智の印、其所証を印可して一定不変なるを海の波瀾をうつすにたとへいふ。

かい-いん [海員] (名) 船内に乗組む船員。

かい-いん [海軍] (名) 「かいぐん」に同じ。

かい-いん [海運] (名) 船舶により海上を運輸すること。——**ぎょう** [—業] (名) 運賃を以て貨物又は旅客を運送することを目的とする業。

かい-いん [海員] (名) 船員。水夫。——**かんとく** [—監督] (名) 船員に関する監督。又、船員による運送の指揮。

かい-えん [概要] (名) あらまし。およそ。

かい-えき [改易] (名) 徳川時代に武士に科せし刑の一。其家禄を没収して、平民と利を奪ひ、又は遊客御免

にして、諸国名産に産額割合を定めたるもの。「一帳」。

かい [医気] (名) 医(い)を信ずる気。「一あり」。

かい-い [医員] (名) 【官】官立病院に於て医業に従事する官吏。

かい-いん [会員] (名) 会に加入したる人。

かい-いん [改印] (名) 印形(インギョウ)を改めかふること。

かい-いん [海印] (名) 【仏】聖者の智の印、其所証を印可して一定不変なるを海の波瀾をうつすにたとへいふ。

かい-いん [海員] (名) 船内に乗組む船員。

かい-いん [海軍] (名) 「かいぐん」に同じ。

かい-いん [海運] (名) 船舶により海上を運輸すること。——**ぎょう** [—業] (名) 運賃を以て貨物又は旅客を運送することを目的とする業。

かい-いん [海員] (名) 船内に乗組む船員。水夫。——**かんとく** [—監督] (名) 船員に関する監督。又、船員による運送の指揮。

かい-えん [概要] (名) あらまし。およそ。

かい-えき [改易] (名) 徳川時代に武士に科せし刑の一。其家禄を没収して、平民と利を奪ひ、又は遊客御免

にして、諸国名産に産額割合を定めたるもの。「一帳」。

かい [医気] (名) 医(い)を信ずる気。「一あり」。

かい-い [医員] (名) 【官】官立病院に於て医業に従事する官吏。

かい-いん [会員] (名) 会に加入したる人。

かい-いん [改印] (名) 印形(インギョウ)を改めかふること。

かい-いん [海印] (名) 【仏】聖者の智の印、其所証を印可して一定不変なるを海の波瀾をうつすにたとへいふ。

かい-いん [海員] (名) 船内に乗組む船員。

かい-いん [海軍] (名) 「かいぐん」に同じ。

かい-いん [海運] (名) 船舶により海上を運輸すること。——**ぎょう** [—業] (名) 運賃を以て貨物又は旅客を運送することを目的とする業。

かい-いん [海員] (名) 船内に乗組む船員。水夫。——**かんとく** [—監督] (名) 船員に関する監督。又、船員による運送の指揮。

かい-えん [概要] (名) あらまし。およそ。

かい-えき [改易] (名) 徳川時代に武士に科せし刑の一。其家禄を没収して、平民と利を奪ひ、又は遊客御免

かい-おき [沖] (名) 海上遠く隔たりたる所。

かい-おけ [桶] (名) 【動】海産の魚類。

かい-おん [海音] (名) 海の音。

かい-おん [海温] (名) 海水の温度。

かい-か [会下] (名) 【仏】師僧の門下。

かい-か [会計] (名) ❶金銭の出納。❷官庁又は会社の金銭出納を掌る役。

かい-か [会稽] (名) 【仏】会稽山の略。

かい-か [会稽] (名) 【仏】会稽山の略。

かい-か [会稽] (名) 【仏】会稽山の略

かいこ-ぐち［懐紙］(名) かいしをいれる。

かいこ-ぐるま［紙繰］(他ㇺ四) 左右の手にて紙をくるくるまわす。

かいこ-くわ［開化］(名) 人智のひらけ進むこと。世の風俗などが進歩に向ひ進むこと。又、昔開けず進まなかつた事物が開けること。

かいこ-しき［開国式］(名) 帝国議会が有効なる行動を始むるに際し、天皇が開院式を行ひ給ひてこれを宣せらるる。

かいこ-しゃ［開会］(名) ❶国語の成立又は会議・集会の開始。❷帝国議会が有効なる行動を始むるに際し、天皇が開院式を行ひ給ひてこれを宣せらるる。

かいこ-そと［海外］(名) 我国の境を離れる海のもとの国。(外国)。——りょこう［海外旅行］(名) 海外に渡航するもの、所持すべき旅行券(外務大臣より出願者に対して附与するもの。

かいこ-つわ［開語］(名) ❶度年大なること。❷語調の円かなること。(連語)

かいこ-つわ［概括］(名) すべてをよせつづけること。

かいこ-つわん［開巻］(名) 書物を披きたる書物のはじめの部分。かもたしゝはじめ。

かいこ-つわん-せい［海関税］(名) 税関にて海船により輸出入の貨物に課する税。

かいこ-ん［海軍］(名) 海上の兵備及兵術に関する一切の総称。即ち海上に於ける国家国民の利益又は権利を保護し、戦争に際しては海上の攻守に当たる兵備。——かんぜん［海軍艦艇］(名) 海軍に属する軍艦及艦船の総称。ゆゑに一種の軍艦(戦闘の目的に応じ特別の構造を有する軍艦)・第一種軍艦(戦闘の目的に応じ特別の構造を有する軍艦)・水雷艇(敵艦の攻撃に従ふ軍艦)・潜航艇(敵艦の攻撃に従ふ

(かいぎ-しょう)[懐疑症](名)【医】一より初めて一つ宛数を数える毎に1×2×3×4×……×nのnの階乗なり、n!又はΓ(n+1)を以てこれを表はす。

(かいぎ-しょく)[懐疑](名)共人を共産党より去らしむること。「かいこ」

(かいしき)[戒飾](名)いましめること。「一を加える」

(かいしだい)[垣代](名)❶とばり。(幔)❷かこいにん。「一を入れる」

(かいしん)[改心](名)悪心をあらためて、善心にたちかえること。「一がない」

(かいしん)[開申](名)まうしひらき。まうしあげること。「一する」

(かいしん)[戒心](名)自らいましめること。「一を怠る」

(かいしん)[改新](名)❶あたらしくすること。又、あたらしくなること。❷年の始め。

(かいしん)[改進](名)❶物事のあらたまりすすむこと。❷酒席を改め新文明に進まんとすること。——党(とう)[改進党](名)明治十四年に、大隈重信が首唱となり、北島治房・矢野文雄等と共に国会に組織して創立された政党。

(かいしん)[会心](名)わたくしのこころ。

かいすいよくそう[海水浴場](名)海水浴のために設けた場所。

かいすいよくば[海水浴場](名)海水浴のために設けた場所。

かいすいよくば[海水浴場](名)海水浴のために設けた場所。

かいすいよくば

かいいき【海域】(名)つながった広い海の水面。

かいいん【開院】(名)(する)病院・医院などが新しく仕事を始めること。

かいいん【会員】(名)会の構成員。

かいいん【開引】(名)(する)銀行などで、預金者が預金を引き出すこと。

かいいん【開院】(名)(する)病院・医院などが新しく仕事を始めること。

かいいん【開印】(名)(する)官庁などで、年末年始の休みのあとに、初めて印を使う

かいがら【貝殻】(名) ハマグリの殻 [ハマグリ]

かいがら【海岸】(名) 海と陸地とが接している所。海辺。

かいがら【開花】(名)(自サ) 花が開くこと。

かいがら【開会】(名)(自サ) 会を開くこと。

かいがら【開化】(名) 文化が開けること。

かいがら【開会式】(名) 会を開くときの儀式。

かいがら【開会中】(名) 会を開いている間。

かいがら【開会日】(名) 会を開く日。

かいがら【開会の辞】(名) 会の始まりに述べる言葉。

かいがら【開会宣言】(名)(自サ) 会の始まりを告げること。

かいがら【開会の詞】(名) 開会の辞。

かいがら【開会の挨拶】(名) 開会の辞。

かいがら【開会の言葉】(名) 開会の辞。

かいがら【開会の式】(名) 開会式。

かいがら【開会の式辞】(名) 開会の辞。

かいがら【開会の式典】(名) 開会式。

かいがら【開会の式場】(名) 開会式を行う場所

かちん　(名)　[漢]　[勝]　(名)　勝つこと。　●試合に―する。　●―を収める。　●―を譲る。　●―を拾う。　●―を制する。　●―を急ぐ。　●―を焦る。　●―を争う。　●―を譲る。　●―を拾う。　●―を制する。　●―を急ぐ。　●―を焦る。　●―を争う。

かちん　(名)　[漢]　[価]　(名)　値段。　●―が高い。　●―が安い。　●―が上がる。　●―が下がる。　●―を付ける。　●―を決める。　●―を交渉する。　●―を値切る。　●―を吊り上げる。　●―を引き下げる。　●―を据え置く。　●―を協定する。　●―を統制する。　●―を自由化する。　●―を固定する。　●―を変動する。　●―を暴騰する。　●―を暴落する。　●―を高騰する。　●―を低落する。　●―を上昇する。　●―を下降する。　●―を横ばいする。　●―を維持する。　●―を安定する。　●―を不安定にする。　●―を混乱させる。　●―を正常化する。　●―を是正する。　●―を調整する。　●―を操作する。　●―を操る。　●―を仕組む。　●―を企てる。　●―を謀る。　●―を図る。　●―を狙う。　●―を目指す。　●―を目標にする。　●―を掲げる。　●―を宣言する。　●―を発表する。　●―を公表する。　●―を秘密にする。　●―を漏らす。　●―を暴露する。　●―を告発する。　●―を訴える。　●―を主張する。　●―を強調する。　●―を力説する。　●―を説く。　●―を教える。　●―を学ぶ。　●―を習う。　●―を研究する。　●―を調べる。　●―を検討する。　●―を考慮する。　●―を配慮する。　●―を気にする。　●―を心配する。　●―を恐れる。　●―を怖がる。　●―を嫌う。　●―を憎む。　●―を愛する。　●―を好む。　●―を楽しむ。　●―を喜ぶ。　●―を悲しむ。　●―を嘆く。　●―を悔やむ。　●―を後悔する。　●―を反省する。　●―を改める。　●―を直す。　●―を治す。　●―を癒す。　●―を慰める。　●―を励ます。　●―を勇気づける。　●―を元気づける。　●―を力づける。　●―を支える。　●―を助ける。　●―を救う。　●―を守る。　●―を保護する。　●―を庇う。　●―を擁護する。　●―を弁護する。　●―を代弁する。　●―を代表する。　●―を代理する。　●―を代行する。　●―を代償する。　●―を補償する。　●―を賠償する。　●―を弁償する。　●―を返済する。　●―を返却する。　●―を返還する。　●―を返納する。　●―を返上する。　●―を辞退する。　●―を断る。　●―を拒絶する。　●―を拒否する。　●―を否定する。　●―を打ち消す。　●―を取り消す。　●―を撤回する。　●―を訂正する。　●―を修正する。　●―を改正する。　●―を改訂する。　●―を改定する。　●―を改善する。　●―を改革する。　●―を改造する。　●―を改良する。　●―を改善する。　●―を改革する。　●―を改造する。　●―を改良する。

かちん　(名)　[漢]　[価]　(名)　値段。　●―が高い。　●―が安い。　●―が上がる。　●―が下がる。　●―を付ける。　●―を決める。　●―を交渉する。　●―を値切る。　●―を吊り上げる。　●―を引き下げる。　●―を据え置く。　●―を協定する。　●―を統制する。　●―を自由化する。　●―を固定する。　●―を変動する。　●―を暴騰する。　●―を暴落する。　●―を高騰する。　●―を低落する。　●―を上昇する。　●―を下降する。　●―を横ばいする。　●―を維持する。　●―を安定する。　●―を不安定にする。　●―を混乱させる。　●―を正常化する。　●―を是正する。　●―を調整する。　●―を操作する。　●―を操る。　●―を仕組む。　●―を企てる。　●―を謀る。　●―を図る。　●―を狙う。　●―を目指す。　●―を目標にする。　●―を掲げる。　●―を宣言する。　●―を発表する。　●―を公表する。　●―を秘密にする。　●―を漏らす。　●―を暴露する。　●―を告発する。　●―を訴える。　●―を主張する。　●―を強調する。　●―を力説する。　●―を説く。　●―を教える。　●―を学ぶ。　●―を習う。　●―を研究する。　●―を調べる。　●―を検討する。　●―を考慮する。　●―を配慮する。　●―を気にする。　●―を心配する。　●―を恐れる。　●―を怖がる。　●―を嫌う。　●―を憎む。　●―を愛する。　●―を好む。　●―を楽しむ。　●―を喜ぶ。　●―を悲しむ。　●―を嘆く。　●―を悔やむ。　●―を後悔する。　●―を反省する。　●―を改める。　●―を直す。　●―を治す。　●―を癒す。　●―を慰める。　●―を励ます。　●―を勇気づける。　●―を元気づける。　●―を力づける。　●―を支える。　●―を助ける。　●―を救う。　●―を守る。　●―を保護する。　●―を庇う。　●―を擁護する。　●―を弁護する。　●―を代弁する。　●―を代表する。　●―を代理する。　●―を代行する。　●―を代償する。　●―を補償する。　●―を賠償する。　●―を弁償する。　●―を返済する。　●―を返却する。　●―を返還する。　●―を返納する。　●―を返上する。　●―を辞退する。　●―を断る。　●―を拒絶する。　●―を拒否する。　●―を否定する。　●―を打ち消す。　●―を取り消す。　●―を撤回する。　●―を訂正する。　●―を修正する。　●―を改正する。　●―を改訂する。　●―を改定

罪】(名)【法】誤れる犯罪。十二歳以下の幼年者の犯したる犯罪は、或る場合に於ては之を罰せざるも、此犯罪は裁判所の告罪を俟つ。

(かう-かん)[板書](名) 高より下等の官の名。「の書」

(かう-がん)[仰願寺](名)「かうぐわんじ」に同じ。

(かうがん-かんぜい)[交互計算](名) 商業上の取引に於て、其相手方と互に債権債務の関係に立つ二十四時の前後より成り、一週間又は一箇月の前後に合せて一回の割合に合せて一回の計算を行ひ、尚ほ其期日に於ける差額を決算する方法。

(かう-き)[綱紀](名) 物事のよりどころとなる大綱。国家のおきて。

(かう-き)[高貴](名) ❶身分たかく尊きこと。「一の生れ」 ❷あたまのきこと。

(かう-き)[香気](名) にほひ。かをり。

(かう-き)[降誕](名) 降誕のときにさだまる星。(占星)。

(かう-き)[耕器](名) 土壌を打ち起すに用ふる農具。鍬、鋤、すきくは等の類。

(かう-き)[識者](名) 文学又は学問の素養を備へたる人。かしこき人。

(かう-き)[原紙](名) 版面を作製したる原稿。謄写の時。

(かう-き)[香油](名) ちまたのあぶらかすかなるにほひ。(香水)。

(かう-き)[抗議](名) 反対の意見を主張すること。「一を申し込む」。

(かう-き)[高調](名) たかく一ならぬ調子。

(かう-き)[交際](名) 人と人とが互に相交はること。

(かう-き)[好機](名) 物事をするによろしき時機。よき折。

(かう-き)[好奇心](名) つねに珍をもとめたがる心。ものずきのこころ。

(かう-きう)[高級](名) 階級の高きこと。下級の物。「一将校」

(かう-きう)[号泣](名) 声をあげて泣くこと。

(かう-きう)[頭巾](名) ❶歩行の時、冷気を防ぐ為に頭にかぶる物。(ただし頭巾と称するも、実は四十三種の物を指す。)❷頭巾をかぶる様なもの。「ずきん」。

(かう-きよ)[抗拒](名) 反抗して拒むこと。「こうきょ」とも。

(かう-きよ)[巨漁](名) 多くとること。大漁。

(かう-きよ)[仮寓](名) 仮に住むこと。

(かう-きよく)[鋼玉](名)【鉱】大抵石又は花崗岩の中に産する鉱物。硬度甚だ大にして金剛石に次ぎ、赤色のものは紅玉、青色のものは青玉と称して宝石とす。

(かう-きん)[交錯](名) かうさつのよしあし。

(かう-きん)[高金](名) 大なる金高。たいきん。

(かう-きん)[醸酒](名) 酒をかもすこと。

(かう-きん)[香具](名) 匂ひのよきものの又はたきものなどの総称。即ち白檀、沈香、丁子、伽羅、麝香などの総名。——や[香具商](名) 香具を売る人。——や[香具師](名) ❶香具を売る人。❷やまひ。野師。——や[香具屋](名) かうぐをうり又はつくる人。(香具商)。

(かう-きん)[硬貨](名) 其原質が金属なる貨幣。

(かう-くわ)[効果](名) ❶てがら。いさを。❷きき目。

(かう-くわ)[考究](名) 事理などの研究の効果。

(かう-くわ)[硬化](名) ❶かたき物質となること。❷思考の習慣を捨てゝ、新説の着見をとること。

(かう-くわ)[行賞](名) ほうびをあたふること。

(かう-くわ)[講和](名) あらそひをやめて和睦すること。

(かう-くわ)[例外](名) まれにはづれたること。

(かう-くわい)[協外](名) ❶新聞・雑誌などが定まりたる紙数のほかに臨時に発行するもの。❷慣例として定まりたる範囲の外のもの。

(かう-くわい)[狡猾](名) わるがしこきこと。

(かう-くわい)[交換](名) ❶とりかへること。(貿易)。❷【経】自己に不必要なる人より自己に必要なる物を他人に与へて、他人より自己に必要なる物を得ること。方法・時回及現場によりてこれを三種に分つ。方法に関するものは、物と物との交換と貨幣の媒介による交換となり、時回に関するものは、即時に交換をするものと他日に譲りて交換をするものとなり、地域に関するものは、内国貿易と外国貿易となり、実質。❸【法】金銭の所有権にあらざる財産の規定を相用ふること。「こ」(交換)。

(かう-くわい)[交媾](名) ともなひたるしむつまじきこと。

(かう-くわい)[雄求](名) 雄で雌性動物の有する器官にして、雄性元素即ち精子の射出作用をなすもの。其数は動物の種類により一定せず、高等動物にては一対、下等動物にては多数なり。

(かう-くわい-かかく)[交換価格](名)【経】甲乙二種の人を標準として定めたる価格。酒一升と米三升と交換せらるゝときは、米三升は酒一升の交換価格を有し、酒一升は米三升の交換価格を有すといふが如きもの。有用価格の対。

(かう-くわい-ぎんこう)[交換銀行](名)【経】各地の銀行間に於て、為替手形の取組をなし、又は各地の銀行間に於ける為替手形の取組を仲介する銀行。

(かう-くわい-ぐわんしよ)[仰願書](名)「かうぐわんしよ」に同じ。

(かう-くわい-ぐわんじ)[仰願寺](名)「かうぐわんじ」に同じ。

(かう-くわい-しやうしよ)[交換証書](名) 為替手形の取組をなすに用ふる証書。

(かう-くわい-しやうしよ)[交換証券](名) 為替手形の取組をなすに用ふる証券

かうそ—かうそ

かうそ-ぐち【香具】(名) 香料を入れる袋。香嚢。

かうそ-ぐち【口】(名) 話すときの口つき。話しぶり。

かうそ-ぐみ【組】(名) 香道で、香を聞き当てる遊び。

かうそ-ぐも【雲】(名) 香煙のように立ちこめる雲。

かうそ-ぐるま【車】(名) 香木を積んで運ぶ車。

かうそ-こう【香香】(名) 香木の名。

かうそ-こう【香高】(形ク) 香気が高い。

かうそ-こう【香香】(名) 香木の名。

かうそ-こう【香香】(名) 香木の名。

かうそ-こう【香香】(名) 香木の名

かうかい【航海】(名)　船で海上を渡ること。

かうがい【口外】(名)　他人に話すこと。

かうがい【公害】(名)　産業の発展などによって生じる、大気・水質の汚染や騒音などの害。

かうがい【郊外】(名)　都市の周辺の地域。

かうがい【港外】(名)　港の外。

かうがく【工学】(名)　理学の応用として、実際に役立つ技術を研究する学問。

かうがく【向学】(名)　学問に志すこと。

かうがく【校学】(名)　学校で教える学問。

かうがく【高額】(名)　金額が高いこと。

かうがく【高学】(名)　高度の学問。

かうがく【高額】(名)　金額が高いこと。

かうがく【高学】(名)　高度の学問。

かうがく【校学】(名)　学校で教える学問。

かうがく【向学】(名)　学問に志すこと。

かうがく【工学】(名)　理学の応用として、実際に役立つ技術を研究する学問。

かうがく【港外】(名)　港の外。

かうがく【郊外】(名)　都市の周辺の地域。

かうがく【公害】(名)　産業の発展などによって生じる、大気・水質の汚染や騒音などの害。

かうがく【口外】(名)　他人に話すこと。

かうがく【航海】(名)　船で海上を渡ること。

かうがく【工学】(名)　理学の応用として、実際に役立つ技術を研究する学問。

かうがく【向学】(名)　学問に志すこと。

かうがく【校学】(名)　学校で教える学問。

かうがく【高額】(名)　金額が高いこと。

かうがく【高学】(名)　高度の学問。

かうがく【高額】(名)　金額が高いこと。

かうがく【校学】(名)　学校で教える学問。

かうがく【向学】(名)　学問に志すこと。

かうがく【工学】(名)　理学の応用として、実際に役立つ技術を研究する学問。

かうがく【港外】(名)　港の外。

かうがく【郊外】(名)　都市の周辺の地域。

かうがく【公害】(名)　産業の発展などによって生じる、大気・水質の汚染や騒音などの害。

かうがく【口外】(名)　他人に話すこと。

かうがく【航海】(名)　船で海上を渡ること。

かうさ【交差】(名)　交わること。

かうさ【考査】(名)　調べること。

かうさ【高差】(名)　高さの差。

かうさ【高裁】(名)　高等裁判所の略。

かうさ【高座】(名)　講演などのために一段高く設けた席。

かうさ【講座】(名)　大学で、学問の一分野を教授する一組の講義。

かうさ【講師】(名)　講義をする人。

かうさ【高裁】(名)　高等裁判所の略。

かうさ【高座】(名)　講演などのために一段高く設けた席。

かうさ【講座】(名)　大学で、学問の一分野を教授する一組の講義。

かうさ【講師】(名)　講義をする人。

かうさ【交差】(名)　交わること。

かうさ【考査】(名)　調べること。

かうさ【高差】(名)　高さの差。

かうさ【高裁】(名)　高等裁判所の略。

かうさ【高座】(名)　講演などのために一段高く設けた席。

かうさ【講座】(名)　大学で、学問の一分野を教授する一組の講義。

かうさ【講師】(名)　講義をする人。

かうさ【交差】(名)　交わること。

かうさ【考査】(名)　調べること。

かうさ【高差】(名)　高さの差。

かうさ【高裁】(名)　高等裁判所の略。

かうさ【高座】(名)　講演などのために一段高く設けた席。

かうさ【講座】(名)　大学で、学問の一分野を教授する一組の講義。

かうさ【講師】(名)　講義をする人。

かうし【公使】(名)　外交官の一種。

かうし【公私】(名)　公的なことと私的なこと。

かうし【行使】(名)　実際に使うこと。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【公使】(名)　外交官の一種。

かうし【公私】(名)　公的なことと私的なこと。

かうし【行使】(名)　実際に使うこと。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【公使】(名)　外交官の一種。

かうし【公私】(名)　公的なことと私的なこと。

かうし【行使】(名)　実際に使うこと。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【公使】(名)　外交官の一種。

かうし【公私】(名)　公的なことと私的なこと。

かうし【行使】(名)　実際に使うこと。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【格子】(名)　木や竹などを縦横に組んだもの。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【格子】(名)　木や竹などを縦横に組んだもの。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【格子】(名)　木や竹などを縦横に組んだもの。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【格子】(名)　木や竹などを縦横に組んだもの。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かうし【講師】(名)　講義をする人。

かちかち【勝ち気】(名)(形動)負けず嫌いの性質。

かちがち【勝ち方】(名)勝ちかた。

かちがち【勝ち軍】(名)勝ちいくさ。

かちがち【勝ち越し】(名)勝ちが負けより多いこと。

かちがち【勝ち越す】(動五)勝ちが負けより多くなる。

かちがち【勝ち誇る】(動五)勝ったことを得意げに示す。

かちがち【勝ち残る】(動五)勝って残る。

かちがち【勝ち逃げ】(名)(する)勝ったまま相手と勝負しないこと。

かちがち【勝ち抜く】(動五)勝ち続けて最後まで残る。

かちがち【勝ち抜け】(名)(する)勝ち抜くこと。

かちがち【勝ち星】(名)勝ちの数。

かちがち【勝ち目】(名)勝つ見込み。

かちがち【勝ち戦】(名)勝ちいくさ。

かちがち【勝ち割】(名)勝ちの割合。

かちがち【勝ち名乗り】(名)勝ったことを宣言すること。

かちがち【勝ち負け】(名)勝ちと負け。

かちがち【勝ち味】(名)勝ちそうな形勢。

かちがち【勝ち虫】(名)勝ちそうな形勢。

かちがち【勝ち目】(名)勝ちそうな形勢

おうさ—おうさ

…ゐ」なつくり。

おうーさヨウ [所]（感）いかがなさんかと物をたずねるときの発語。「さて、ええと。」

おうーどヨウ [高度]（名）❶程度がたかいこと。❷[天]地平より天頂に至る角距離。

おうーどヨウ [黄土]（名）心土即ち下層土の上にありて、多く人の耕作する部分の土壌。岩石崩解して土砂となり、動植物質これに混じて、草木を養うべき土となりたるもの。（赤土）

おうーどヨウ [硬度]（名）鉱物（ぶつ）を鉛（やすり）などで削るときの抵抗の程度。普通用いる程度の順序は、（一）滑石（二）石膏（三）方解石（四）螢石（五）燐灰石（六）長石（七）水晶（八）黄玉石（九）鋼玉石（十）金剛石の順序にして、金剛石は程度最も高し。

おうーとうヨウ [昂騰]（名）国などのおがること。

おうーとうヨウ [高等]（名）程度のすぐれたること。

——おうとうがっこうヨウガッカウ [高等学校]（名）文部省直轄学校の一。中学校の上に位し、普通教育を施すところ。修業年限は三箇年。入学者は中学校卒業者又は之と同等以上の学力ある者に限る。

——おうとうしょうがっこう [高等小学校]（名）小学校の一。尋常小学校を卒業したる者に更に高等の普通教育を施すを目的とする所。修業年限は二箇年。

——おうとうせんもんがっこうヨウガッカウ [高等専門学校]（名）文部省直轄学校の一。専門学科を教授する所にして、帝国大学の入学者のために準備学科を教ゆ。

——おうとうぎょうせいヨウギャウセイ [高等行政]（名）国家社会の安寧に関する行政。

——おうとうかん [高等官]（名）官吏の等級の一。これを分かちて九等とし一等二等を勅任官といい、三等以下九等迄を奏任官という。

——ゆうりょうきょういく [高等教育]（名）程度高き教育。又其内容の一。

——おうとうきょういくかい [高等教育会]（名）国家社会の安寧に関する危害を防止するを目的とする学校、即ち、出版・集会・結社又は演説・出版人若しくは火薬・刀剣等に関する学校をいう。

——ゆうりょうきょういく [高等教育]（名）程度高き教育。又其内容の一。

——おうとうさいばんしょ [高等裁判所]（名）市中の要地に設置しある裁判の官庁。

——おうとうしょくみんちりゅう [高等植民地流]（名）[動]方石の断面的に次圧に関する語。

おうーとうヨウ [糖質]（名）❶おもにかえでなどの樹液。❷こなぐすり。

おうーとうヨウ [高騰]（名）物価のあがること。

おうーとうヨウ [皇統]（名）皇室の血統。

おうーとうヨウ [皇比]（名）虎の皮のえがきもの。

おうーとうヨウ [黄尾]（名）魚類爬虫などの雌雄交接つるかめ。——魚（交尾期）

（名）魚類爬虫などの交接を行う時期。

おうーとうよヨウ [行秘書]（名）いそぐべきよう。

おうーとうこヨウ [紙捻]（名）「こよりひ」の古名。

おうーとうこヨウ [高等工業学校]（名）文部省直轄学校の一。工業に関する高等の学術技芸を教授する所。

——おうとうしかんがっこうヨウガッカウ [高等師範学校]（名）文部省直轄学校の一。師範学校・中学校及高等女学校の教員を養成する所。附属中学校及附属小学校を置く。

——おうとうしょうぎょうがっこうヨウガッカウ [高等商業学校]（名）文部省直轄学校の一。商業に関する高等の学術技芸を教授する所。

——おうとうしょくぶつヨウ [高等植物]（名）根茎葉より成る植物の称。

——おうとうがっこうヨウガッカウ [高等女学校]（名）女子に高等なる普通教育を授くることを目的とする学校。

どうぶつ [高等動物]（名）口を有し固形又は液状の食物を摂取し、複雑なる内部の器官によりこれを消化し、栄養素と植物と異なる動物の称。

おうーとうヨウ [行列]（名）高きと低きとの順序。

おうーとうヨウ [題頭]（名）書物の標上に細註を加ふること。（題註）

おうーとくヨウ [高徳]（名）徳のすぐれたること。

おうおうぜんヨウ（名）[仏]「ぜんとかり」に同じ。（座禅）

おうおうーはうヨウハウ [香嚢]（名）にはひぶくろ。

おうおうーはうヨウハウ [行嚢]（名）郵便物を入れて運送する嚢。

おうおうーはうヨウハウ [風]（名）かんなどの手袋

かうかう【口口】(名) 口の多いさま。「—と文句を言う」

かうかう【口口】(名) 鳥の鳴く声。

かうかう【口口】(名) 光り輝くさま。「—と日が照る」

かうかう【口口】(名) 水などが豊かに流れるさま。「—と水が流れる」

かうかう【口口】(名) 大勢の人が騒ぎ立てるさま。「—と騒ぎ立て

かがくてき　形動　科学的。

かがくてきしこう　名　科学的思考。

かがくてきにんしき　名　科学的認識。

かがくてきほうほう　名　科学的方法。

かがくてきゆうぶつろん　名　科学的唯物論。

かがくてきりょうしき　名　科学的良識。

かがくてきれいせい　名　科学的冷静。

かがくてきろんり　名　科学的論理。

かがくてきをしき　名　科学的知識。

かがくのしんぽ　名　科学の進歩。

かがくのせいかく　名　科学の性格。

かがくのせいしん　名　科学の精神。

かがくのたいしょう　名　科学の対象。

かがくのほうほう　名　科学の方法。

かがくのもんだい　名　科学の問題。

かがくはっていのきょうこうせい　名　科学発展の強行性。

かがくはっていのこうこうせい　名　科学発展の高工性。

かがくはっていのこうこうせい　名　科学発展の高工性。

かがくはっていのこうこうせい　名　科学発展の高工

おかめ-はちもく【岡目八目】(名)　囲碁で、対局者よりも傍観者のほうが八目ほど先まで読めるということから、第三者のほうが物事の利害得失をよく見抜けること。

おかめ-ひょっとこ【おかめ火男】(名)　おかめの面とひょっとこの面。

おかめ-ぶね【おかめ船】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-まつり【おかめ祭】(名)　京都市東山区の清水寺で、陰暦三月九日に行なわれる祭礼。

おかめ-もち【おかめ餅】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-やま【おかめ山】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-ようじ【おかめ楊枝】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-わかめ【おかめ若布】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-わらい【おかめ笑い】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-わらび【おかめ蕨】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-わん【おかめ椀】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をどり【おかめ踊り】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんな【おかめ女】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷ【おかめ女夫】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷく【おかめ女福】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろ【おかめ女福路】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろう【おかめ女福郎】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじ【おかめ女福郎次】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろう【おかめ女福郎次郎】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえ【おかめ女福郎次郎兵衛】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもん【おかめ女福郎次郎兵衛門】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ【おかめ女福郎次郎兵衛門之助守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守守】(名)　(「おかめ」は「岡」の意)陸地近くを航行する船。

**おかめ-をんぷくろうじろうべえもんのすけのかみ

文字などをかく。

†**かき-おと・す**[-おとす]【書落】[他サ四]かきもらす。「一字を書き落として一れば」

かき-おさめ-がっこう[-ガッコウ]【夏期学校＝Summer school】(名)多くは夏期の休暇をこれを利用して、主に学生のために設立した学校。

かき-おび【掻巻】(名)戸のすきまなどに用いる厚い綿入れの夜具。

かき-がら【牡蠣殻】(名)牡蠣のからだ。(季語)

——**ばい**[-バイ]【牡蠣殻灰】(名)かきがらを焼いて細くしたもの。灰がもとのからのように白くなる。(季語)

——**やね**【牡蠣殻屋根】(名)かきがらを敷きならべた屋根。(季語)「な。

†**かき-かぜ**【掻風】(名)(自サ四)かぜをひく。

かき-かた【書方】(名)(自サ四)「かきよう」に同じ。「ふくの付ー」

かき-がら【御裂】(名)布物などを、句などにかけてかざりに裂(さ)くこと。又、其きれ。

かき-きら・す[-きらす]【掻切】(他サ四)❶刀の刃を己れの方へ向けて物を切る。❷ものを「後の始末ー」

かき-ぐすり【薬】(名)薬として用ふる草。(季語)

かき-くだ・す[-くだす]【書下】(他サ四)下へ書を連ねて書きつづく。「我文学」

かき-こば・す[-こばす]【書溢】(他サ下二)あふれ出る文句を補の足して書く。

かき-こぼ・す[-こぼす]【書溢】(名)かきこぼすこと。

かき-こも・る[-こもる]【掻籠】(自ラ四)くるまの中や頭からすっぽり「一書斎の窓ぎわ」(季語)

かき-ころ・す[-ころす]【掻殺】(他サ四)くるまの音を消すほどの意。「一書斎の窓ぎわ」(季語)

かき-さ・す[-さす]【掻指】(自サ四)くるまの音を消すほどの意。「一書斎の窓ぎわ」(季語)

かき-さだ・む[-さだむ]【書定】(他マ下二)書いて決める。

かき-さま【書様】(名)書きかた。

かき-さん【書賛】(名)書きものにした賛辞。画などの賛辞。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-つき【柿酢】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-つ・く[-つく]【書付】(他カ下二)❶書きしるす。

†**かき-つ・く**[-つく]【咬付】(他カ下二)❶噛みついてくっつく。❷噛んでくっつく。

かき-つ・ぐ[-つぐ]【書継】(他ガ四)続く所なく書く。

かき-つけ【書付】(名)書きつけたもの。

かきつけ-る【書付】(他)「かきつく」の訓。

かきつけ-る【咬付】(他)「かきつく」の訓。

かき-つばた【燕子花】(名)(垣之根の義といふ)【花】溝辺・湿地などに群生する植物。葉は中肋脈を有すれども、花は初夏に開き、種々の色あれども通常紫色なるもの多し。花弁の内面の上半は通常網状脈を有す。かはばた。よつばな。(季語)「夏」

かき-つ・ぶ[-つぶ]【書潰】(他バ四)❶字を誤りなく書く。❷たえまなく書きつづく。

†**かき-つ・む**[-つむ]【掻集】(他マ下二)掻きあつめる。

†**かきつめ-る**(他)「かきつむ」の訓。

かき-て【書手】❶(名)書く人又は書きたる人。能書家。❷書くべき人。かいてう。

かき-とめ【書留】(名)❶書きとめること。「いらぬ—」❷書留郵便。

かきとめ-ゆうびん【書留郵便】(名)郵便物の送達を確実にするために、一定の手数料を納めれば、其取扱をしたる郵便局所が、備え付けの帳簿に其郵便物の種類・番號及発送人と受取人との住所・姓名・差出年月日等を記入し、紛失若しくは誤送したるときは、其賠償をなす。

かき-とめる(他)「かきとむ」の訓。

かき-とめし【掻留】(名)❶【裁】裁ち切りたる布の端を縫ひ目の外へ出ぬやうに折り返して縫ふこと。❷【織】織物の端の糸の抜けぬやうにすること。

かき-とり【書取】(名)❶書きうつすこと。又、其書きうつしたもの。❷教師の朗読する語句又は文章などを生徒の書き取ること。

かき-と・る[-とる]【書取】(他ラ四)書語又は文字を書きてうつしとる。

かき-なおし【書流】(名)かきながしたもの。又、かきながすこと。

かき-なお・す[-なおす]【書流】(他サ四)誤のまま書きつづけて、又、思ふままに書く。

かき-なぐ・る[-なぐる]【書散】(他ラ四)❶筆にまかせて書く。❷書(か)きちらす。

かき-なん【書賛】(名)書きものにした賛辞。画などの余白の題詞。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-のう【柿糯】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-つ・く[-つく]【書付】(他カ下二)書きしるす。

†**かき-つ・く**[-つく]【咬付】(他カ下二)❶噛みついてくっつく。❷噛んでくっつく。

かき-つ・ぐ[-つぐ]【書継】(他ガ四)続く所なく書く。

かき-つけ【書付】(名)書きつけたもの。

かきつけ-る【書付】(他)「かきつく」の訓。

かきつけ-る【咬付】(他)「かきつく」の訓。

かき-つばた【燕子花】(名)(垣之根の義といふ)【花】溝辺・湿地などに群生する植物。葉は中肋脈を有すれども、花は初夏に開き、種々の色あれども通常紫色なるもの多し。花弁の内面の上半は通常網状脈を有す。かはばた。よつばな。(季語)「夏」

かき-つ・ぶ[-つぶ]【書潰】(他バ四)❶字を誤りなく書く。❷たえまなく書きつづく。

†**かき-つ・む**[-つむ]【掻集】(他マ下二)掻きあつめる。

†**かきつめ-る**(他)「かきつむ」の訓。

かき-て【書手】❶(名)書きたる人。能書家。❷書くべき人。かいてう。

かき-とめ【書留】(名)❶書きとめること。「いらぬ—」❷書留郵便。

かきとめ-ゆうびん【書留郵便】(名)郵便物の送達を確実にするために、一定の手数料を納めれば、其取扱をしたる郵便局所が、備え付けの帳簿に其郵便物の種類・番號及発送人と受取人との住所・姓名・差出年月日等を記入し、紛失若しくは誤送したるときは、其賠償をなす。

かきとめ-る(他)「かきとむ」の訓。

かき-とめし【掻留】(名)❶【裁】裁ち切りたる布の端を縫ひ目の外へ出ぬやうに折り返して縫ふこと。❷【織】織物の端の糸の抜けぬやうにすること。

かき-とり【書取】(名)❶書きうつすこと。又、其書きうつしたもの。❷教師の朗読する語句又は文章などを生徒の書き取ること。

かき-と・る[-とる]【書取】(他ラ四)書語又は文字を書きてうつしとる。

かき-なおし【書流】(名)かきながしたもの。又、かきながすこと。

かき-なお・す[-なおす]【書流】(他サ四)誤のまま書きつづけて、又、思ふままに書く。

かき-なぐ・る[-なぐる]【書散】(他ラ四)❶筆にまかせて書く。❷書(か)きちらす。

かき-なん【書賛】(名)書きものにした賛辞。画などの余白の題詞。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-のう【柿糯】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-つ・く[-つく]【書付】(他カ下二)書きしるす。

†**かき-つ・く**[-つく]【咬付】(他カ下二)❶噛みついてくっつく。❷噛んでくっつく。

かき-つ・ぐ[-つぐ]【書継】(他ガ四)続く所なく書く。

かき-つけ【書付】(名)書きつけたもの。

かきつけ-る【書付】(他)「かきつく」の訓。

かきつけ-る【咬付】(他)「かきつく」の訓。

かき-つばた【燕子花】(名)【花】溝辺・湿地などに群生する植物。葉は中肋脈を有すれども、花は初夏に開き、種々の色あれども通常紫色なるもの多し。花弁の内面の上半は通常網状脈を有す。かはばた。よつばな。(季語)「夏」

かき-つ・ぶ[-つぶ]【書潰】(他バ四)❶字を誤りなく書く。❷たえまなく書きつづく。

†**かき-つ・む**[-つむ]【掻集】(他マ下二)掻きあつめる。

†**かきつめ-る**(他)「かきつむ」の訓。

かき-て【書手】❶(名)書きたる人。能書家。❷書くべき人。かいてう。

かき-うし【書物】(名)書きうつすこと。又、書きうつしたもの。

かき-うつ・す[-うつす]【書物】(他サ四)❶誤にまかせて書く。❷画(ゑ)をうつす。

かき-うん【書運】(名)書きものにしたる幸運。書きものにしたる幸福。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-うつ【柿糯】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-うつ・す[-うつす]【書写】(他サ四)❶書きうつす。❷画(ゑ)をうつす。

かき-うん【書運】(名)書きものにしたる幸運。書きものにしたる幸福。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-うつ【柿糯】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-うつ・す[-うつす]【書写】(他サ四)❶書きうつす。❷画(ゑ)をうつす。

かき-うん【書運】(名)書きものにしたる幸運。書きものにしたる幸福。

†**かき-うち**【垣内】(名)垣のなか。

かき-うつ【柿糯】(名)一種の食酢。酢米を洗ひ、其中にはレおさを入れ一緒に漬レて、これを絞りとったもの。「ふく。記録す。

かき-うつ・す[-うつす]【書写】(他サ四)❶書きうつす。❷画(ゑ)をうつす。

物部を指すにいう語。「其日にかぎりて外出せぬ」

†**かぎ-うるし**[-イウ-]（名）[医]炎症。

——**の**（枕）「はるさめのはるしめやかに」「ふる」にかかる。

かぎ-お-く[-おくこと]（他カ下二）物を他人に預ける。

かぎ-ぶえ[-ぶえ]（名）笛にて指揮する合図。ラッパの類。

かぎ-もん[家紋]（名）家に各(おの)ある鳥の模様。

かぎ-もん[鍵穴]（名）❶鍵をさしこむ穴。❷共人の住所。❸不安全なる個所。（国語）

かく[角]（名）❶つの。「牛—」「鹿—」❷まがって方形。「一あんどん」❸四角なる材木。「五寸—」❹ますがた。❺（数）平面上の二直線のなす形。かくど。❻天文二十八宿の一。すぼし。❼碁の石をもちいて遊ぶやり方。❽（古）四角形のもの。

かく[格]（名）❶のり。きまり。「法式」法例」❷古昔、代々の天皇に発せられた命令。きゃく。「三代—」❸（文法）文章中に於て名詞が他の語に対する関係。主格・賓格・目的格などの類。❹たな。度量。きゃく。「—に入れる」

かく[閣]（名）❶（古）楼又は宮殿。たかどの。「—門」❷屋根又は庇(ひさし)。❸（古）内閣の略。「—臣」

かく[郭]（名）かこい。「—内」

かく[醵]（名）金銭に座を設して、飲食の遊興を営むこと。「—会」（国語）

かく[核]（名）❶（植）果実の中果皮の中にある硬くて核の如きもの。内果皮の硬化して内部

かぎ-ぐち[-ぐち]（名）[家]家の出入口。

かぎ-ごえ[-ごえ

(かくぎ)[客気] (名) きゃくしょう。(主に)
(かくげつ)[客月] (名) きょねん。(主に)
(かくげつ)[隔月] (名) ひとつおき。
(かくげき)[格激] (名) 激しいこと。激烈。
(かくげん)[格言] (名) 教訓を含んだ言葉。例 古人の一(金言)
(かくご)[客語] (名) 【文法】命題の中にて、一般の客を言い表わしたる語。例 「花は美し」の「花」は客語なり。「美し」は客語の説明。
(かくご)[覚悟] (名) ❶仏教の法理をさとること。❷前もって心に決めておくこと。例 ―のまえ[覚悟前] かねて。前もって。「―に準備」
(かくこく)[各国] (名) いくつもの国。
(かくこつ)[骨骨] (名) からだのほねの一つ一つ。人類のは下顎骨・脊柱・胸骨・上肢骨・骨盤・下肢骨の七部となり、不規則の形をなしていて、脳髄・胸腹の中央にあり、下肢骨は脚部にして歩行に適す。同胸骨をなす。
(かくさく)[客作] (名) 雇われて働くこと。
(かくさく)[客昨] (名) きょねん。昨年。
(かくさく)[隔昨] (名) 一年おき。(同)
(かくさい)[学才] (名) 学問の才能。例 「幼にして―あり」
(かくさつ)[擦殺] (名) 擦り殺すこと。
(かくさつ)[擦察] (名) 推察すること。
(かくさつ)[擦擦] (名) 【理】(い)(う)「こすること」の名。(同)「こすること」の名。(美語の方言)
(かくし)[隔] (名) ❶かくすこと。❷物に隔てられて見えないこと。❸物と物との間にある一定の距離。❹他(他は四)「かくしの一つぐ」
(かくし)[客死] (名) 旅先で死ぬこと。
(かくし)[格子] (名) ❶木や竹を縦横に組んで作った窓や戸口。❷(古)「こうし」に同じ。(名)(美語の方言)

(かくし)[隠] (名) ❶かくすこと。❷他物に隠れて見えない状態。❸物と物との間にある一種のふくらみ。「ポケットの―」

(かくし)[客使] (名) 客のために使う人。
(かくし)[客死] (名) 旅先で死ぬこと。
(かくし)[格子] (名) ❶木や竹を縦横に組んで作った窓や戸口。❷(古)「こうし」に同じ。(名)(美語の方言)
(かくし)[隔] (名) ❶かくすこと。❷他物に隔てられて見えないこと。❸物と物との間にある一定の距離。❹他(他は四)「かくしの一つぐ」
(かくし)[隠] (名) ❶かくすこと。❷他物に隠れて見えない状態。❸物と物との間にある一種のふくらみ。「ポケットの―

かくれんぼ [名] 子供の遊戯の一。一人が目をふさいでいる間に他の者がどこかに隠れ、あとでそれを探し出すもの。

かくろう [名] 「隠居」に同じ。

かくわ [名] 「角灰」に同じ。

かけ [名] ❶ 崖。❷ 山の斜面。

かけ [名] 「賭け」に同じ。

かけ [名] 「掛け」に同じ。

かけ [名] 「陰暦」に同じ。

かけ [名] 「陰暦」に同じ。

かけ [名] 「陰暦

かけあし[駆足]（名）馬などを走らせること。また、その走り方。

かけあみ[掛網]（名）魚を捕るために、網を張りめぐらすこと。また、その網。

かけあわせる[掛合せる]（他下一）二つ以上のものを組み合わせる。

かけい[家計]（名）一家の生計の用度。一家の暮し向き。

かけい[家系]（名）家の系統。

かけい[家兄]（名）兄をいう。

かけい[家計]（名）一家の生計の用度。一家の暮し向き。

かけい[華厳]（名）夏の冬天に雑作する農家。

かけいいと[掛糸]（名）掛物の上下に付ける糸。

かけいし[掛石]（名）掛行燈。

かけいす[掛椅子]（名）背に掛けるようにした椅子。

かけいと[掛糸]（名）掛物の上下に付ける糸。

かけうり[掛売]（名）代金を後日に受取ることにして品物を売ること。

かけおち[駆落]（名）男女が人目をしのんで他へ逃げること。

かけおび[掛帯]（名）古風の婦人の服飾。

かけおり[掛織]（名）掛物に織ること。また、その織物。

かけおり[駆下]（名）馬を駆けて山から下ること。

かけおり[駆降]（名）馬を駆けて山から下ること。

かけおりる[駆下る]（自上一）馬を駆けて山から下る。

かけおりる[駆降る]（自上一）馬を駆けて山から下る。

かけおる[掛織]（名）掛物に織ること。また、その織物。

かけおる[駆下]（名）馬を駆けて山から下ること。

**かけおる

‡**かかうかご** [掛籠] (名) 一般をまとめて他の家をあはせてつくる「天狗(狂言)」

かかう-ごと [掛言] (名) 掛けて言ふ言葉。

かかう-ごと [掛詞] (名) 一語に二つの意味を持たせて、同音を利用して、二つの意味を掛けて言ふ言葉。

かおばな[顔花]（名）「かこばな」に同じ。

かおぶれ[顔触]（名）❶人の顔の様子。❷人の集まりの様子。

かおぶれ[顔触]（名）❶人の顔の様子。❷人の集まりの様子。

かおまけ[顔負]（名）❶技芸の優劣にて、人に勝ちを譲ること。❷人に対して、恥ぢて、顔を上げ得ざること。

かおみしり[顔見知]（名）❶人の顔を見て、その人を知ること。❷人の顔を見て、その人を知ること。

かおみせ[顔見世]（名）❶芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。❷芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。

かおみせばん[顔見世番]（名）芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。

かおやく[顔役]（名）❶芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。❷芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。

かおよごし[顔汚]（名）❶芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。❷芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。

かおよごし[顔汚]（名）❶芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。❷芝居にて、毎年十一月に、その年の俳優の顔ぶれを、始めて、観客に見せること。

かおよせ[顔寄

かぜ-ぐすり[風薬](名) 風邪ノ治療ニ用フル薬。

かぜ-ぐも[風雲](名) ❶風ト雲。❷風ニ吹カレテ行ク雲。

かぜ-ぐるま[風車](名) 風ヲ受ケテ回ル車。

かぜ-ごし[風越](名) 風ヲ防ギ遮ルタメニ、屋上又ハ船中ナドニ設ケル垣。風除、煙除。

かぜ-ごち(名)【動】かぜごちノ略。

かぜ-ごと[風事](名) 風ノ方向ヲ修(ヲサ)メ、風ニ関シテ祈リ祭ルナド、屋上又ハ船中ナドニ設ケル垣。風除、煙除。

かぜ-ごと(名)【動】「かぜごち」ニ同ジ。

かぜ-ごと[風見](名) 風ノ方向ヲ修(ヲサ)メ、風ニ関シテ祈リ祭ルナド、屋上又ハ船中ナドニ設ケル垣。風除、煙除。

かぜ-ごと(名)【動】「かぜごち」ニ同ジ。「風」

かぜ-ごと[風見草](名)【植】「やなぎ」ノ異名。

かぜ-ごと[書](自「さ」四) ❶かぜごち。❷かぜごと。

かぜ-ごと[風向](名) かぜむき。「さ」ハ「風」。

かぜ-ごと(名) 【動】「かぜごち」ニ同ジ。

かぜ-ごと(名) 【動】「かぜごち」ニ同ジ。

かぜ-ごと[風向](名) かぜむき。「さ」ハ「風」

かきくけこ—かしこま

かくしん（名）確信。かくしんはん（名）確信犯。かくしんてき（形動）確信的。かくしんは（名）確信派。かくしんりょく（名）確信力。かくしんをもつ（連）確信を持つ。かくしんをもって（連）確信を持って。かくしんをもたせる（連）確信を持たせる。かくしんをもたない（連）確信を持たない。かくしんをもたなかった（連）確信を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）確信を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）確信を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）確信を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）確信を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）確信を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）確信を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）確信を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）確信を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）確信を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）確信を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）革新。かくしんてき（形動）革新的。かくしんは（名）革新派。かくしんりょく（名）革新力。かくしんをもつ（連）革新を持つ。かくしんをもって（連）革新を持って。かくしんをもたせる（連）革新を持たせる。かくしんをもたない（連）革新を持たない。かくしんをもたなかった（連）革新を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）革新を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）革新を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）革新を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）革新を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）革新を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）革新を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）革新を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）革新を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）革新を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）革新を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）核心。かくしんてき（形動）核心的。かくしんは（名）核心派。かくしんりょく（名）核心力。かくしんをもつ（連）核心を持つ。かくしんをもって（連）核心を持って。かくしんをもたせる（連）核心を持たせる。かくしんをもたない（連）核心を持たない。かくしんをもたなかった（連）核心を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）核心を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）核心を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）核心を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）核心を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）核心を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）核心を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）核心を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）核心を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）核心を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）核心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）確心。かくしんてき（形動）確心的。かくしんは（名）確心派。かくしんりょく（名）確心力。かくしんをもつ（連）確心を持つ。かくしんをもって（連）確心を持って。かくしんをもたせる（連）確心を持たせる。かくしんをもたない（連）確心を持たない。かくしんをもたなかった（連）確心を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）確心を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）確心を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）確心を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）確心を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）確心を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）確心を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）確心を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）確心を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）確心を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）確心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）覚心。かくしんてき（形動）覚心的。かくしんは（名）覚心派。かくしんりょく（名）覚心力。かくしんをもつ（連）覚心を持つ。かくしんをもって（連）覚心を持って。かくしんをもたせる（連）覚心を持たせる。かくしんをもたない（連）覚心を持たない。かくしんをもたなかった（連）覚心を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）覚心を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）覚心を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）覚心を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）覚心を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）覚心を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）覚心を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）覚心を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）覚心を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）覚心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）学心。かくしんてき（形動）学心的。かくしんは（名）学心派。かくしんりょく（名）学心力。かくしんをもつ（連）学心を持つ。かくしんをもって（連）学心を持って。かくしんをもたせる（連）学心を持たせる。かくしんをもたない（連）学心を持たない。かくしんをもたなかった（連）学心を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）学心を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）学心を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）学心を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）学心を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）学心を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）学心を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）学心を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）学心を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）学心を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこ（連）学心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。

かくしん（名）角心。かくしんてき（形動）角心的。かくしんは（名）角心派。かくしんりょく（名）角心力。かくしんをもつ（連）角心を持つ。かくしんをもって（連）角心を持って。かくしんをもたせる（連）角心を持たせる。かくしんをもたない（連）角心を持たない。かくしんをもたなかった（連）角心を持たなかった。かくしんをもたなければ（連）角心を持たなければ。かくしんをもたなくて（連）角心を持たなくて。かくしんをもたなくても（連）角心を持たなくても。かくしんをもたなくては（連）角心を持たなくては。かくしんをもたなくてはならない（連）角心を持たなくてはならない。かくしんをもたなくてはいけない（連）角心を持たなくてはいけない。かくしんをもたなくてはいけません（連）角心を持たなくてはいけません。かくしんをもたなくてはいけませんでした（連）角心を持たなくてはいけませんでした。かくしんをもたなくてはいけませんでしたら（連）角心を持たなくてはいけませんでしたら。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらば（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらば。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそ。かくしんをもたなくてはいけませんでしたらばこそこそこそこそこそこそこそこそこそこそ（連）角心を持たなくてはいけませんでし

とゐる時より、はじめて風出でしが如くに、他をさそひ、一面の波宇、能く動ざる砂地と小高き所とにまず、風にて諸物をにしたるもの。（語源）

ガスステラ（名）前條に同じ。

ガス-ばら［瓦斯燈＝Gas-burner］（名）瓦斯管の口に裝して其に點火する燈具の總稱。（燈具類）

かすみどり［霞取］（名）❶家事に從ひて其事務を執ること。❷多くの數をかぞへ、其心安のよきやうにとりなすこと。（數）

かすめ-こ［數子］（名）（かぞへの意）ものの數を數ふるに、水にひやしおきて食す、數の子を干鰊製の者にとりて、新年・婚禮及其他の祝儀に用ふ。（魚介類）

ガス-はつどうき［瓦斯發動機＝Gas engine］（名）「ガスえんじん」に同じ。

かすびどり［數鳧］（名）【動】鷸科中の一種。嘴は扁平にして口緣に鬚あり、頸長く、脚も長く、足は小さく且蹼足にして地を歩むに適す。夜間出でゝ、昆蟲類を食ふ。（鳥類）

†**かすみ**［霞］（名）【動】かすみ。

かすみ-あみ［霞網］（名）鳥を捕ふる網。

かすみ-ざけ［霞酒］（名）酒にまぜかけのかすを澄ませたる酒。

かすみ-そう［霞草］（名）【植】石竹科の一年生草本。莖は高さ二尺許、葉は對生し、狹長にして尖る。夏、莖頂に圓錐花序を出し、小白花を開く。觀賞用とす。

かすみ-だち［霞立］（名）霞の立つこと。

かすみ-ぬま［霞沼］（名）霞の立つ沼。

かすみ-の-ころも［霞衣］（名）霞を衣に見立てゝいふ語。

かすみ-の-せき［霞關］（名）❶關所の名。❷轉じて、遠き境。

かすみ-の-ま［霞間］（名）霞の間。

かすみ-の-もすそ［霞裳］（名）霞を裳に見立てゝいふ語。

かすみ-ぶね［霞舟］（名）霞の立つ海上を行く舟。

かすみ-ぼし［霞星］（名）【天】星雲の一。

かすみ-ぼね［霞骨］（名）【動】鯨の鬚。

かすみ-まく［霞幕］（名）霞を幕に見立てゝいふ語。

かすみ-もの［霞物］（名）【動】鷸科の鳥の總稱。

かすみ-わたる［霞渡］（自ラ四）霞、一面に立ちこめて、遠近の見えわかぬ樣になる。

かすみ-を-くう［霞食］（自ハ四）❶霞を食ふ。❷仙人の如く、穀物を食はずして生活す。

かすみ-を-しく［霞敷］（自カ四）霞、一面に立ちこめて、遠近の見えわかぬ樣になる。

かすみ-を-たつ［霞立］（自タ四）霞、一面に立ちこめて、遠近の見えわかぬ樣になる。

かすみ-を-ひく［霞引］（自カ四）霞、一面に立ちこめて、遠近の見えわかぬ樣になる。

かすみ-を-ふく［霞吹］（自カ四）霞、一面に立ちこめて、遠近の見えわかぬ樣になる。

かすみ-を-ふく［霞噴

かたーかたく

かたー[接頭] ❶或る語に添えて、その語の意味を強めたり、語調を整えたりする語。「—恋」「—思い」「—時雨」「—待つ」 ❷或る語に添えて、その語の意味を軽くしたり、語調を整えたりする語。「—寄る」「—思う」「—眠る」

かたあかり[片明]（名）月の出てから間もない頃の、西の空のほのかな明るさ。

かたあし[片足]（名）❶一方の足。「—を引く」 ❷一方の足のみが不具の人。

かたあて[肩当]（名）❶衣服の背の肩のあたる部分につけた布片。❷重さを防ぐために肩と肩との間にはさむ布。

かたあみだ[片阿弥陀]（名）❶額の髪を三角形に残して剃った男の髪形。❷「かたあみだかぶと」の略。

かたあみだかぶと[片阿弥陀冑]（名）❶鉢の前面を三角形に残して剃った形の兜。❷「かたあみだ」❶に同じ。

かたあらし[片荒し]（名）（動）（形シク）一方だけ荒れること。

かたあらし[片嵐]（名）一方だけに吹く嵐。

かたあるき[片歩き]（名）（動）（形ク）❶一方の足だけで歩くこと。❷一方の足が不具で歩きにくいこと。

かたい[堅い]（形）❶堅固である。❷堅実である。❸堅苦しい。❹固い。

かたい[固い]（形）❶堅固である。❷堅実である。❸堅苦しい。❹固い。

かたいし[堅石]（名）堅い石。

かたいと[堅糸]（名）❶堅く撚った糸。❷堅く織った絹糸。

かたいと[片糸]（名）❶一本の糸。❷一方の糸。

かたいと[固糸]（名）堅く撚った糸。

かたいと[堅糸]（名）堅く撚った糸。

かたいなか[片田舎]（名）都から遠く離れた辺鄙な田舎。

かたいなか[堅田舎]（名）都から遠く離れた辺鄙な田舎。

かたいれ[片入れ]（名）❶一方に味方すること。❷一方に味方する人。

かたいれ[堅入れ]（名）堅く織ること。

かたいれ[堅入]（名）堅く織ること。

かたいれ[片入]（名）❶一方に味方すること。❷一方に味方する人

かたいーかたこ

かたく【片苦】(名)「片苦しい」に同じ。

かたくち【片口】(名)❶酒を入れる器の一。口が一方にのみあるもの。❷「片口鰯」の略。

かたくちいわし【片口鰯】(名)鰯の一種。体長約一〇センチ。体は細長く、背は青黒く、腹は銀白色。口が一方にのみあるのが特徴。

かたくつ【片靴】(名)左右一対のうち、一方だけの靴。

かたくなし【頑なし】(形ク)「かたくなしい」とも。❶頑固である。❷愚かである。

かたくなしい【頑なしい】(形)「かたくなし」に同じ。

かたくなる【頑なる】(自ラ五)頑固になる。

かたくり【片栗】(名)❶山野に自生する多年草。葉は楕円形で、茎の先に紅紫色の花が下向きに咲く。❷「片栗粉」の略。

かたくりこ【片栗粉】(名)片栗の地下茎からとったでんぷん。

かたくりこ【堅塁】(名)堅固な塁。

かたくるしい【堅苦しい】(形)❶堅苦しい。❷堅苦しい。

かたくるしい【片苦しい】(形)❶堅苦しい。❷堅苦しい。

かたくるしい【堅

かたかな-ぐるま【片仮名車】(名) 横画を上下一直線に書く片仮名。「ヒ」「ト」「ド」など。

かたかな-ことば【片仮名言葉】(名) 片仮名で書く外来語。

かたかな-ずり【片仮名刷り】(名) 片仮名だけで印刷すること。また、その印刷物。

かたかな-ばし【片仮名橋】(名) 橋脚が片仮名の「ハ」の字形に開いている橋。

かたかな-ばん【片仮名盤】(名) 文字盤に片仮名を用いた時計。

かたかな-ぶし【片仮名節】(名) 片仮名で書いた文章。

かたかな-ぶん【片仮名文】(名) 片仮名で書いた文章。

かたかな-もじ【片仮名文字】(名) 片仮名。

かたかな-よみ【片仮名読み】(名) 片仮名で書いてあるのを読むこと。また、その読み方。

かたかぬ【肩かぬ】(連語) 肩に担がない。

かたかぶり【片被り】(名) ❶頭や顔の片側を覆うこと。❷「片被り❶」に同じ。

かたがみ【形見】(名) ❶「形見❶」に同じ。❷「形見❷」に同じ。

かたがみ【片紙】(名) 一枚の紙。

かたがみ【片髪】(名) ❶片側の髪。❷「片髪❶」に同じ。

かたがみ【肩髪】(名) 肩にかかる髪。

かたがみ【堅紙】(名) 厚くて堅い紙。

かたがみ【固紙】(名) 厚くて堅い紙。

かたがみ【型紙】(名) 洋裁で、布を裁つ時に用いる紙の型。

かたがみ【書き方】(名) 書き方。

かたがみ【片神】(名) 片方の神。

かたがみ【片髪】(名) 片側の髪

のかほをよろよろかたむく。❸道ひて物に添ふ。(證)。❹公事を失ふ。かたおちとなる。

かたらひ[語] (名) かたらふこと。はなしあひ。くさぐさ。——**ごと**[語言] (名) はなしの種。——**びと**[語人] (名) はなし相手。

かたら-ふ[語] (他・は四) ❶相談す。たのみあふ。はなしあふ。❷約束す。ちかふ。はす。ちぎる。❸催促に引き入る。

かたり[語] (名) 国本の外題(げだい)のうちに、五七の文字を以て、其作の大意を述べたるもの。

かたり[騙] (名) 人をだまして物などを取ること、又其人。「たぬし(騙主)」

かたり-ぐさ[語草] (名) 語るべきたね。はなしの種。

かたり-ごと[語事] (名) 語りきかす言。

かたり-ごと[騙事] (名) 騙りをなすこと。詐欺。

かたり-つ-ぐ[語継] (他・か四) 語りつたふ。いひつぐ。

かたり-べ[語部] (名) 古昔、大嘗祭のとき、其時に出て、古事を語りし人民。

かたり-もの[語物] (名) 琵琶琴の伴奏にて語る外題(げだい)。又かたり物の総名。

カタル[加答兒=Catarrh] (名) 粘膜に炎症をおこすこと。「感—」「胃—」

かた-ゐなか[語] (他・う四) ❶愚かなる事を言語によりて笑ふ。又笑はす。つひゑらふ。❷他と互に言語を交ふ。あふことばをかはす。はなす。❸無用無益なることを面をつけて唱ふ。

かた-る[語] (他・う四) 詐偽して人を欺はす。あざむきて物を取る。だます。(騙)。

かた-わき[片脇] (名) かたはら。かたへ。

かたわ-れ[片割] (名) ❶物割れて二つに以上となりたるその一片。(破片)。❷感覚の一部分をおかす。「感の一」(感覚)。❸片割月の略言。——**づき**[片割月] (名) 陰月の初の略言。(半弦・弓月)。——**ぶね**[片割舟] (名) 割れて使をなさぬ舟。

かたわ-る[傍居] (名) ❶近傍にありて、人に念慮を物などを与ひもとめて、生を送るもの。こさせ、乞食。❷こつじきをする。かたわら天刑病。

かた-ゐざり[片尾] (名) ❶座に這(は)ふこと。又其人。❷片足は膝を立て片足は地をすりて這(は)ひ行くこと。(片膝行)。

かた-ゐなか[片田舎] (名) 遠く都をはなれたる田舎。へんぴ(僻村)。

かた-えみ[片笑] (名) 片頬にやうやく含める笑。

かた-おり[片折戸] (名) 一方のみ開くつくりの折戸。又一方のみ開きたる折戸。

かた-かん[語諫] (名) ❶力をそへて口ぐるまに、味方をするなど。❷荷物をになふ事。「—して走る」。

かたかん(名) 物の落つる時に響く音。又風が戸障子などを吹き動かす音。

かたかん(名) 前條に同じ。

カタコ-ンベ(名) もと紀来したる始終にして光線よし。もと墓地の用には供せらる。

かち[徒] (名) ❶車馬其他乗物にのらずして歩行すること。又其人。(徒歩・徒行)。❷「かちざむらひ」の略言。「—侍」(徒士)。

かち[勝] (名) 勝つこと。ものの勝(勝)。

かち[褐] (名) 黒き紺色。かちいろ。

かち[質直] (名) ❶もたひねうち。❷くうらうたふこと。❸[歴] はが人の総歯を定めたるに因りて、人の年齢の程度の新旧と由との関係に基づくものにして、由の同有のものにあらず、故に由が年以上となりたる其一片。(破片)。❹感覚の一部分をおかすこと。「感の—」(感覚)。❺片割月の略言。——**づき**[片割月] (名) 陰月の初の略言。(半弦・弓月)。——**ぶね**[片割舟] (名) 割れて使をなさぬ舟。

**かたぶ

のみ用ゐらるるもの。よる・かたく。❶逆らひて後に退く。(譲)。❷公事を失ふ。かたおちとなる。

かたうど[語](名) かたうどの略。はなしあひ。くちぐち。——**ことば**[語辞](名) はなしの辞。——**びと**[語人](名) はなし相手。

かたら-ふ[語ふ](他、ハ四)[語](他、ハ四) ❶相談す。かたりあふ。はなしあふ。❷説得す。いひ入れはなしあふ。❸種々に引き入る。

かたり[語](名) 四本の外題(げだい)のうちに、五七の文字を以て其作の大意を述べたるもの。

かたり[騙](名) 人をだましてものをとりあるく人。「だまし(詐欺)」

かたり-あかす[語明す]—Talk over all night.](他、サ四) 語りつづけて夜を明かす。

かたり-いづ[語出]—Begin to talk.](他、ダ下二) 語りはじめる。

かたり-うた[語歌](名) 語りをなすごとくなぞらへて歌ふ歌。

かたり-つ-づく[語続](他、カ四) 語りつづけよ。

かたり-べ[語部](名) 古昔、大事業のことを其時に出でゝ、古事を語り伝へし人民。

かたり-もの[語物](名) 浄瑠璃の前身、又かたゐ浄瑠璃の外題(げだい)。

カタル[加答児—Catarrh](名) 粘膜に炎症などを起すこと。「風—」「胃—」

かた-る[語](他、ラ四) ❶思ふ事を言語によりて述べ表はす。つげいふ。❷他人に言語をつくりて偽りいふ。はなす。❸物語風なることをつゞりて唱ふ。

かた-る[騙](他、ラ四) 巧みに人を欺きて物を取る。だます。(詐欺)

かたわき[片脇](名) かたはら。かたへ。

かたわれ[片割](名) ❶物割れて二つに以上となるその一片。(破片)。❷感覚の一部分をかすめ失ふこと。「半—」(痴呆)。❸片割月の略言。——**づき**[片割月](名) 陰月の称。(非常用月)。——**なぎ**[片凪](名) 凪れて後をなほ残る波。

かたをか[傍点](名) 近傍にありて人に食膳を供する家。

かた-をか[片岡](名) 一方に偏(かたよ)れる丘。

かた-をかり[片借](名) 一足に履(は)くべき片足は地をすりて這(は)ひ行くこと。(片跛行)

かたゐなか[片田舎](名) 遠く都をはなれたる田舎。くんだ(僻村)

かた-ゑくぼ[片笑窪](名) 片頬にあらはるゝ笑ひ窪。

かた-ぎりど[片折戸](名) 一方のみ開くつくりの折戸。又、一方のみ開きたる折戸。

かたん[喀擦](名) ❶力をそへて咳くこと。咳方(せきかた)。❷痰物をはきだすこと。「—して走る」

かたん(名) 物の落つる時に発する音。又、風が戸牖(まど)などを吹き動かす音。

かたん(名) 前條に同じ。

カタン-いと(名) もと和蘭より来りし綿線。にして光澤よし。もっぱら縫靴の用に供せらる。

かち[徒](名) ❶車馬其他乗物にのゝしりて歩行すること。足にてあるくこと。(徒歩、徒行)。❷かちびと。「かち士」の略言。(徒士)

かち[勝](名) 勝つこと。まけの対。(勝)

かち[褐](名) 渋を絞り色。かちいろ。

かち[価値](名) ❶あたひ。ねうち。❷[哲]時が人の認識を充たすに適する程度。即ち用の程度の称。認識を出でゝ其の関係に進むに従ひ、前の関係のものにあらざるに至る。

かち-いろ[褐色](名) 「かち」(褐)に同じ。「茶」

かち-えもの[勝利者](名) 古昔、闘争の(ダシ)の称。「茶」

かち-おち(名、副) ❶固き物の破れ落つる音。❷急(ニ)がしげなるさまにいふ語。❸物事に際会して進むべき気もなしくさまにいふ語。

かち-き[勝気](名) 人に負くるを嫌ふ性質。人よりも勝ちまさるこゝろ。(負嫌)

かち-ぐち[搗米](名) ❶籾の殻のみを去りて米にてつくりたるもの。❷[植]種類中から特に選びて栽培し、其の穂は周囲にして稍や円錐形をなし、米粒をくゝりて成熟は粗雑なり、上部は硬直して劫状をなし、其穀粒は銀色をなす。日本では洗ひ晒して劫を去り、搗精は新月形をなす。背部淡色にして漸次暗色を帯び、胚部は銀白色なり。稃長大なるものは一寸三分に及ぶ。常に遅生の上層に湛水して耕作甚だ烈なり七月頃より九月頃にかけて進捗のために洪水に罹る。銀坊主病にかゝりてこれを産す。稃に剛毛多く、芒あるものとなし。——**ぐるま**[搗米車](名) 前條に同じ。「馬・豚・鶏等の称」

(かち)-ぐり[鮴](名) 「ごり」(魚)前條に同じ。

(かち)-ぐるま[家畜](名) 家に飼養する動物。即ち牛、馬、豚、鶏等の称。

かち-ぐり[搗栗](名) 栗の実をゆで、よく乾し、これを臼に入れ搗きて其渋皮と殻とを去りたるもの。「勝栗」と音相通ずるを以て、祝賀の儀式などに用ふ。(鳥栗 勝栗)

†かち-ごえ-お[勝進](自、ヤ上二) 勝ち進む。

かち-さむらひ[徒侍](名) ❶徒歩して伴をなす従者。❷徳川氏の部下にありて小身の士。(徒歩士)

†かち-ぢから[勝力](名) 勝つべき力。

†かち-ぢから[勝力](名) 勝つべき力。

かち-ぢから[徒力](名) 徒歩にて行く力。

かち-ぢから[徒力](名) 徒歩にて行く力。

†かち-ぢから[勝力](名) 勝つべき

おしゅう【押収】（名）［法］証拠物件などを強制的に取り上げること。

おしゅうと【お舅】（名）夫または妻の父。

おしゅうとめ【お姑】（名）夫または妻の母。

おしゅん【お春】（名）「正月」の異称。

おしょう【和尚】（名）❶僧侶の尊称。❷僧侶の階級の一。

おしょう【お性】（名）「性質」の丁寧語。

おしょう【お相】（名）「相場」の丁寧語。

おしょう【お笑】（名）「笑い」の丁寧語。

おしょう【お賞】（名）「賞」の丁寧語。

おしょう【お証】（名）「証拠」の丁寧語。

おしょう【お醤】（名）「醤油」の丁寧語。

おしょう【お障】（名）「障り」の丁寧語。

おしょう【お精】（名）「精進」の丁寧語。

おしょう【お鐘】（名）「鐘」の丁寧語。

おしょう【お鍾】（名）「鍾乳洞」の丁寧語。

おしょう【お鍾】（名）「鍾馗

かつぎ

かつぎ

かつら

かつぎ-や　[担屋]（名）❶物を担ぐ事を職業とする人。❷担ぎ売りをする人。

かつぎ-ゆ　[担湯]（名）湯を入れた桶を担ぎ廻りて売る事。又その湯

かどう—かどる

かどう-しゃ [門口](名) 門の出入り口。「一にまわらない人」 「所」

かど-ぞめ [門出](名) 門の出入り口の初又は其記

かど-すまい [門居](名) 門前にすまうこと。

かど-せっきょう [門説教](名) 徳川時代に人の門前に立ち説教をなして物を乞うし乞食。

かど-だ [門田](名) 門先の田。「一の稲雀」

かど-だつ [角立](自「た」四) ❶角がたつ。❷互の間に反抗又は仲間の感生ず。おもしろくなくなる。おうだつ。「議論が一」

かど-だて [角立](他「た」下二) ❶角を起す。❷互の間に反抗又は仲間の感を生ずしむ。おもしろくしてゐる。

かどだてる [角立](他) 「かどだつ」の誤。

かど-ちがい [門違](名) ❶行くべき家をとりちがえたること。❷応ずべき方向又は目指すものをとりちがえたること。

かど-つけ [門漬](名) 門口に立ちて、客曲を売し念願を買うをいふ。又、其人。

かど-で [門出](名) ❶就業を確定すること。❷遠行すること。(雅語)

かど-なみ [門並](名) ❶家ごとにんべんに。「一きんさよ」 ❷家のならびいくつも。

かどのくち [門口](名) ❶かどぐち。❷とぐち。

かどのわらは [寺童子](名) 古昔、山城国芳野郡荒氏の女子の、仏所の僧部主殿に侍して、火をともすことをつかさどりしもの。

かどべ [寺者長](名) 古昔、検非違使の下に属し、諸司の雑を司どりしもの。

カドミウム [Cadmium](名) 【化】白色の光沢を帯びた金属、亜鉛より稍々重く、錫より稍々軽く、延展性及展性に富む。

かどは-おしこ [門柱](名) 門の柱。「す」

かどは-す [門居](名) [かどはかす](他「さ」四) 未成年の者又は女子などの如き力弱きもの又は智乏しきものを、甘言又は暴力を用ふる等は策計を用ふる其保護者の許より強ひ出して遠く連れ行く。

かどばしら [門柱](名) 門の柱。「す」

かどは-す [門居](名) [かどはかす](他「さ」四) かどはかす。

かど-び [門火](名) 葬送のとき、死者の魂を送るために、又、生魂祭にて、亡者の魂を迎えるために門前にて焚く火。(門焼)

かど-びらき [門開](名) 見世びらき。

かど-ふせぎ [門防](名) [かどぶせぎ] [句引](他「は四」かどはかす。

かど-まえ [門礼](名) もんくろう。くろうと。

かど-べ [門部](名) 古昔、衛門府に属し、皇居の門を守りしもの。

かど-べ [門辺](名) 門の辺。門のあたり。

かど-まつ [門松](名) 新年に家々の門前に立て飾る松。まつかざり。

かどみせ [角店](名) 市街の角に建てる店。

かど-めぐり [角](自「る」四) かどだつ。

かど-もり [門守](名) 門を守ること、又、其人。

かど-や [角屋](名) 街路の角にある家。

かどやしき [角屋敷](名) 街路の角にある屋敷。

かどより [寮](名) 屋敷内の数目を区々に区画して建てる棟。

かどわか-す [誘拐](他「さ」四) 未成年の者又は女子などの如き力弱きもの又は智乏しきものを、甘言又は暴力を用ふる等は策計を用ふる其保護者の許より強ひ出して遠く連れ行く。

かどわかし [誘拐](名) 【法】かどわかすこと。(刑法)

かどわかし-の-きぬ [誘拐衣](名) 白色又は水色のうすき絹布。

カトリック [加特力＝Catholic](名) 「カトリック」

かなう—かなし

教の略言。——**せい** [加特力教＝Catholicism](名) 「クリスト」教の一派。紀元三百二十五年ニケーアの宗教会議にて、新教の正統と認められし組織したるものに起る。今時尚は羅馬法王の統轄の下に属す。羅馬教、天主教。

ガトリング-ほう [—砲＝Gatling gun](名) 機関砲の一種。北米合衆国人ガトリング氏が千八百六十二年頃の発明にかゝり、数個の中軸ありて砲身共周囲を旋回し、回転しつゝ、数個の弾丸を連続に発射するなり。

かど-わり [門割](名) 一区画に数戸ある家を一戸ごとに区別すること。

かど-わり [門割](名) 新年に門口まで来りて賀詞を述ぶる人。

(かな-ぎん) [河豚](名) 【動】「ふぐ」の異称。

(かな-ぎん) [蒲魚](名) 也なのかつを。

かな-ぎんぱい [蛟蛉](名) 【動】蜻蛉類中脈翅科に属する虫、一個の長き尾毛を有し、翅は透明なり、身体やゝ蚊に似る。

かなぎ [釵](名) かんざし。

かな-がき [仮名](名) 我国特有の音文字、漢字の片仮名又は漢字をくづしたるもの。片仮名と平仮名とあり。(「(二)の条」)

かなが [鰹](名) 四條を合せて一條としたる縦糸の組。

かなが [鰹](感) 驚嘆に用ひて、感歎の意を表はす語。「変生の貝ー」「離しをー」

かなー [金](接頭) 金の意。❶言語に冠して、金属より成りたるもの、或は金を表はす語。「一山」「一火箸」。❷言語に冠して、堅くして強きもの、或はこれを表はす語。「一つんぼ」 「一」。

かなー [感] 語尾に用ひて、希望の意を表はす語。「なく」これを法定の能定詞若くは相続人といふ。

かなあみ [金網](名) はりがねにて網の目の如くに編みたるもの。

かなあみ [鉄網](名) 鉄線にて網の目の如くに編みたるもの。

かなあみ-だい [鉄網台](名) 鉄網を張りたる台。

かなあみ-ばし [鉄網箸](名) 鉄網を張りたる箸。

かなあみ-ばり [鉄網張](名) 鉄網を張ること。

かなあみ-ばり [鉄網張](名) 古昔用ひし一種の半襟。木綿の襟に鉄線を編みつけたるもの。

かなあみ-ぼう [金網棒](名) 金網に生ずる病。

かなあみ-もち [金網餅](名) 金網にて焼きたる餅。

かなあみ-もよう [金網模様](名) 金網の如き模様。

かなあみ-よう [金網用](名) 金網を用ふること。

かなあみ-よう [鉄網用](名) 鉄網を用ふること。

かなあみ-わく [金網枠](名) 金網を張りたる枠。

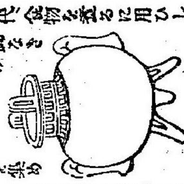
かなあみ-わく [鉄網枠](名) 鉄網を張りたる枠。

かなあみ-わり [金網割](名) 金網を割ること。

かなあみ-わり [鉄網割](名) 鉄網を割ること。

かなあみ-わり [鉄網割](名) 古昔用ひし一種の半襟。木綿の襟に鉄線を編みつけたるもの

かなく[鼎]（名）❶古代、食物を煮るに用いし金屋の釜に似たるもの、三足ありて、両耳三個ある点の相異、❷[転]かなえの古語「二ナヘ〜なか」



かなえ[鼎]（名）❶古代、食物を煮るに用いし金屋の釜に似たるもの、三足ありて、両耳三個ある点の相異、❷[転]かなえの古語「二ナヘ〜なか」

かね[印]（名）かねやき。

十—おね（接尾）俵数の多少を表はす語「俵ばかりの—」「俵ばかりの—」

かね-あい[—アヒ][兼合]（名）㊀重相関係して平均を保つこと。「七分三分の—」

かね-いれ[金入]（名）貨幣を入れ持つ具。もに布帛製の袋をいふ。（同義）。

十かね-うり[金賣]（名）古骨・砂金などを買ひ集めて売ること。「一吉兵衛」

かね-かし[金貸]（名）金銭を貸して利息をとること。「—を業とする」（手錢業）

かね-がね[兼兼]（副）あらかじめ。まへもつて。かねて「一思ふ」

かね-だな[金庫]（名）㊀貨幣を入れおくための金庫。㊁金銭を預かりまたは出し納めさせる銀行。貸本を引き出し借りさせる貸本屋。「そ」

十かね-ぢから[錢力]（名）錢力を藉りて勢ひをなすこと。

十かね-ごと[金言]（名）かねていひおきたる言。又、錢貨の言。「—の一傳」

かね-ざし[錢尺]（名）「かねざしく」に同じ。

十かね-ざしく[錢尺]（名）ものさしの一種。通常尺度をはかるに用ふるものにして、形は矩形に曲がりて、其一尺は鯨尺の八寸に當る。「曲尺」。

かね-たたき[錢叩]（名）㊀錢を叩くこと。又、其人。㊁錢太（モンコ）の稱。㊂かねをたたいて物を乞ひもとめること。㊃【俗】直徑約一寸餘の小圓錢。知恵くらべの遊戯に用ふる。中央に方孔あり。銅は赤褐色をなり。「私語」

かね-つかひ[—ヅカヒ][金使]（名）金銭を使ふこと。

かね-つき[—ヅキ][金付]（名）金錢を元利ともに返すこと。

十かね-つくり[金造]（名）貨幣の良否を見分くること。又、其人。「つるしふく堂」

十かね-つぶし[錢潰]（名）つまらない事に金錢を費すこと。

かね-つる[金釣]（名）㊀金を使用するための戒め。㊁有るだけの金を出して事を終すこと。

かね-つけ[錢煎付]（名）㊀【俗】「かねつけとんぼ」の略言。㊁かねをだまし取ること。㊂他の喩仰の術。「—」

かねつけとんぼ[錢煎付蜻蛉]（名）【俗】とんぼの一種。翅は比較的大なれど他は諸蜻蛉より物にとまるとき翅を背上に直立す。ものはべんとんぼ。

かねつけ-いし（金付石）（名）【鑛】礦石の一種。質緻（ち）かく色黒し。金銀をすりつけて其品質をためすために用ふ。「試金石」

かねつけ-すいばん[錢煎水盤]（名）ものはべうつぼ。

かねて[兼]（副）まへもつて。あらかじめ。「—聞きしかど」「ずつ」

かねの-つる[金弦]（名）金錢を得らるべきそのてがかり。

かねの-もと（名）曲尺の如くに矩形をなすもの。

かね-ばこ[金箱]（名）㊀貨幣を入るる、ための箱。㊁金錢を保つべき函等。㊂其家の中にて、よく金錢をまもうる格ある人（番頭抔など）。「ふたつ」

かね-ふき[錢吹]（名）錢物を吹き分くること。又、其人。

かね-ふき[金吹]（名）錢物を吹き分くること。又、其人。（冶金家）。

かね-へん[金偏]（名）漢字の偏の名。即ち「銀」「鉛」などの偏なる金の字の稱。

かね-ほり[金掘]（名）鑛山にて鑛物を掘ること。又、其人夫。「を仕る方法」

かねまうけ[—マウケ][金儲]（名）金を儲くること。金錢の融通。

かねまはり[—マハリ][金廻]（名）金錢の融通。かねのうんてん。「其人」

かねみ[金見]（名）貨幣の良否を見分くること。

かねめ[金目]（名）㊀金錢上の目方。ねうち。「—のもの」

かねもち[金持]（名）金錢財寶を多く所持せる人。ぶげんなや。うとく。金錢家。富豪。「語」

かねもと[金元]（名）金主又は借財者の元證切の「と」（證書）。

（かねんねん）[加年]（名）年を加ふること。年を迎ふること。

（かねんぶつ）[可燃物]（名）よく火にもゆる物。

かの[彼]（代）身邊を遠く離れたる事物を指す代名詞。「あの」「人」。

（かのう）[可能]（名）㊀できうること。あたよく。類の名。動詞に同じ。㊁【文法】助動詞の分。

かのえ[庚]（名）㊀【俗】「かのえさる」の略言。㊁かのえねの略言。㊂かのえうまの略言。㊃かのえたつの略言。㊄かのえとらの略言。㊅かのこゆみの略言。㊆かのこまつりの略言。——ぐさ[庚草]（名）【植】民間療法に用ふる草。葉は鋸状鋸齒にて小蕊は銀白を有し、花は淡紅色なり。根莖は腫用して供せらる。（俳句、冬季）。——ぢし[庚子]（名）庚の子の日の取文を錢（ゼニ）にしたるもの。——ぢり[庚子鳥]（名）【動】みそさざいの一種。頭大く嘴大にして、體色は一般に白くして許多の斑點あり、頭上に冠羽を生ず。體色は一般に白くして許多の斑點あり、頭上に冠羽を生ず。通常山間の溪流に沿ひて棲息す。——づくし[庚子盡]（名）庚の子の日に因みて、それに關する事物を數へ盡すこと。又、それに關する文章。

かのこ[鹿子]（名）㊀【植】「かのこそう」の略言。㊁「かのこしぼり」の略言。㊂「かのこもち」の略言。——そう[鹿子草]（名）【植】民間療法に用ふる草。葉は鋸状鋸齒にて小蕊は銀白を有し、花は淡紅色なり。根莖は腫用して供せらる。（俳句、冬季）。——ぢし[庚子]（名）庚の子の日の取文を錢（ゼニ）にしたるもの。——ぢり[庚子鳥]（名）【動】みそさざいの一種。頭大く嘴大にして、體色は一般に白くして許多の斑點あり、頭上に冠羽を生ず。體色は一般に白くして許多の斑點あり、頭上に冠羽を生ず。通常山間の溪流に沿ひて棲息す。——づくし[庚子盡]（名）庚の子の日に因みて、それに關する事物を數へ盡すこと。又、それに關する文章。

かのこ-あみ[鹿子網]（名）「かのこそめ」に同じ。

かのこ-いと[鹿子絲]（名）「かのこそめ」に同じ。

かのこ-がすり[鹿子絣]（名）「かのこそめ」に同じ。

かのこ-ぎく[鹿子菊]（名）一種の菊。甘く煮たる小豆を小麥粉の衣をつけて揚げたるもの。——ゆり[鹿子結]（名）「かのこそめ」に同じ。——ゆり[鹿子百合]（名）【植】百合科に屬する草。雄蕊は綠形にして花盤の片は圓部より外方に反捲し、之を特にかのこゆりと稱し、白色なるものをとりて觀賞用として栽培す。「觀賞用として栽培す。

十かのこ-ざし（名）【俗】庭の古名。「材木に生ず」

かのこ-たぬき[鹿王]（名）【植】一種の菌。冬季山中の

かのこ-ぢ[宇]（名）金錢の殘りえとの名。十千の一。

かのこのにか-ぐさ（名）【植】人參の古稱。

かのこのみ-ぶるひ[我欲]（名）強いて酒を否み勸ごすこと。「む」

十かのこ-ゆ（他）（四）かへと壁立てゝ急に放れて酒を放むこと。

十かのこ-よ[彼世]（名）人の死にて行くところ。よみぢ。「來他」

カノン-ほうう[加農砲]（名）=Cannon gun]（名）強き裝藥を用ひて平射を行ふ火砲。砲身長く、野戰には極めて適當に適す。

かは[川河]（名）自然の作用により、地上の傾斜に沿ひて流れ走る水。ながれ。

かは[側]（名）㊀物の一方面。一邊。「帶の—」。㊁かたはら。かたく「衣—」。

かは[皮]（名）㊀動植物の外面を覆ひ包めるもの。㊁獸類のかはの特稱。ゆがは。うづ。おはぐるしがは。「ねもの—」。㊂物の表面。うはかは。「夜半に風の吹かは等あり。

かは（感）反動の意を表はす語「夜半に風の吹かは

かは[粹]（名）㊀【植】蕨ヤ萩に屬する草木。葉は柔に似て尖頭及鋸齒を有し互生す。花は初夏に開き、雌雄同株にして共に莖葉狀をなし花莖は白色なり、果實は莢を有する蒴果にして種皮は物を包む松明を作り又は屋根を葺く等の用に供せらる。かんば。まつかんば。かにはば。㊁「かはに」の語（ニ）に同じ。

かは[河]（名）㊀【植】「かはに」の訛。㊁語の轉

[かば]

かば[河馬]（名）【動】有蹄類中偶蹄類に屬する哺乳獸。「アフリカ南部の沼地に産す。體長一丈餘にして體重六百貫以上に達す。頭部甚大にして四圓短大なり、皮は厚くして鎧の如し。體毛を生ず。目中は水に浸かる。夜間陸上に出で草を喰ひ、作物に大害をなす。

かは（名）物と物と摩擦し又は擦れもつて破すること。「—とつきもの」

かはおび-みづ[川掘水]（名）田畝の灌漑のために川より引きたる水。

かはおび-よりすゐ[川掘川水]（名）かはみづを堰き止め置く所、これより灌漑を以て「同じ。

かはあぎみ[皮厚]（名）㊀外皮の厚くもろきこと。㊁ぐうしゃ。鑑而皮。

かはあつ[川合]（名）川と川とが流れあふ處。

十かはあび[川浴]（名）河水に浴すること。

かはあらし[川嵐]（名）川に起る暴風雨。

かはあをのり[川青海苔]（名）【植】綠色藻門に屬する淡水に生殖す。一個の細胞より成り細色を呈す。味美なり。かはのり。かはもづく。

かはいろ[川色]（名）河水の色。

十かはいろし[形]（ク）かはゆし。

かはいろり[川入]（名）川に入りて死ぬること。

かはいろ[洗色]（名）細白色のやゝ黑みかゝたるもの。「色」

かはいろ[河色]（名）「かはいろ」に同じ。

かはいろ[淵色]（名）「かはいろ」に同じ。

（かはいろ）[牙保]（名）「かはうに」に同じ。

かはうすき[皮薄]（名）㊀外皮のうすきこと。㊁皮膚のきめ細かにして潤かなること。「—に色白く」

かはうそ[河獺]（名）【動】「かはをそ」の訛。

かはうま[河馬]（名）【動】「かはに」に同じ。

かはおと[川音]（名）川の流るゝ音。

かはおび[革帶]（名）かはにてつくりたる帶。

かはおろし[川下]（名）川を吹きわたる風。

かはかみ[川鰔]（名）【動】かはかみの一名。

かはかぜ[川風]（名）川を吹きわたる風。「一寒く、千鳥鳴く」

かはかは（名、副）㊀水などのゆれ動くさまなどの音。㊁合羽などのすれあふさまなどの音。

かはかぶり[皮被]（名）物の皮を被ること。

かはかみ[川上]（名）㊀川の源。かなかみ。㊁川のはとり。

かはがめ[川龜]（名）【動】すっぽんの一名。

かはがらす[川烏]（名）【動】鳥類中からす

かはぶ【川歩】(名) ❶川を徒歩(かち)にてわたること。「一の人足」 ❷人を背負いて川をわたることを業とする人。「大井川の一」

かはべり【川縁】(名) 川のほとり。

かはべり【河伯】(名) ❶川の神。 ❷「かっぱ」(河童)の異称。

かはぐち【川口】(名) ❶河流の湖海などへ注ぐ口。(河口) ❷武蔵国北足立郡川口より鋳出する銭。武蔵飯能北郷の鋳銭。 ❸連尺縄の曲名。

かはごろも【革衣】(名) 革にて作りたる衣。

かはごうり【革草履】(名) 革にて作りたる草履。

かはごえ【川越】(名) 武蔵国の郡名。

かはごえ【川越夜戦】(名) 武蔵国川越城にて、北条氏康が、扇谷上杉朝定を攻めて、これを滅ぼしたる戦。

かはごえじょう【川越城】(名) 武蔵国川越にある城。

かはごえだいじょう【川越大城】(名) 武蔵国川越にある城。

かはごえだいじょう【川越太城】(名) 武蔵国川越にある城。

かはごえだいじょう【川越大

かはら-ばけ[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦の毛色。白に黒を
かはらばけいこ[カハラバケイコ]【川原乗切】(名)【植】(いぐさ)の一。
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) ❶瓦を葺く事。人。❷瓦
屋根を葺(ふ)く職人。「の一種」
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 屋根瓦の形
につくりたる仏餅。
かはらぶすま[カハラ-]【川原一重】(名) すれもの。
カハラ-ぶせんべい[カハラ-]【瓦葺煎餅】(名) 屋根瓦の形
に似て薄く焼きたる煎餅。
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名)【植】石竹
科に属する草。葉は狭く披針形にして、茎の頂は疎
く岐して尖り、花は大形にして花弁の頂は鋸歯状に
細裂す。観賞用として栽培せらるゝもの多し。(石竹)
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名) はいだて
の一種。屋根よりたれて降を防ぐもの。
かはらぶ-はいだて[カハラ-]【川原撫】(名)【動】撫動類に属す
る鳥。原野に棲息す。形狀は鶉地に同じく羽毛茶灰
色にして斑点を有す。(鶉)
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺く事。又其葺方。
かはらぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる屋根。
かはらぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる家。又瓦屋。
かはらぶき-やね[カハラ-]【瓦葺屋根】(名) 瓦葺の屋根。
かはらぶよう[カハラ-]【川原蓼】(名)【植】(いぬ)蓼の一
種。葉は互生し披針形にして縁辺の砂地に生ず。八
月頃、枝端の如き白花を穂を成して白色の微毛を有す。(夏蓼)
かはりばえ[カハリ-]【代】(名) ❶交替すること。又其物。(交)
❷(古)かはりもの。❸(古)かはりばえ。
かはり-がね[カハリ-]【鍵】(名) ❶かはりもの。くさび。❷(古)
とぎなどの「一もの」
かはり-ぎり[カハリ-]【蚊蝨】(名) 蚊部にカナリヤ又は孔雀な
どの毛を寄せて蚊の狀につくりたる物を釣りて飾

かはり-ぐさ[カハリ-]【皮剥】(名) ❶皮を剥(は)ぐこと。「一の
こと」❷獣類の革を剥(は)ぐことを業とする人。
かはりこ[カハリ-]【川原】(名) ❶かはらのこと。❷(古)かはらぶきの
家屋のたての一種。「——ごおたねは[皮剥小刀]
(名) 皮物などの皮を剥(は)ぐための小刀。
かはり-もの[カハリ-]【代】(名)【植】かはらまつの一名。
かはりや[カハリ-]【川屋】(名) 川ばたの家。「非手の一」
かはりや[カハリ-]【厠】(名) 大小便をするところ。かわや。
んぞよ。「厠所」「総厠」「雪隠」(静厠)。「北窓」
かはり-や[カハリ-]【皮屋】(名) 獣類の皮を製作する者。又
かはりやき[カハリ-]【清燒】(名) 一種の料理。もとは、鯛の
舎身を縦に俎に置き、醤油をにしたるものにして、
其形恰もかまの如に似たるより此名あり。今は、
醤油・酒等を半煎にし、味を共りてよき程に切
り、これを俎に置きたれをつけて燒く。
かはり-やしろ[カハリ-]【川社】(名) 川のほとりにある
祠。又祠をまつりたる川のほとりにある祠。
かはり-やなぎ[カハリ-]【川柳】(名) ❶【植】楊柳科に属す
る大木。水邊に生ず。葉は桃に似て狭く、下垂す。
色を少し、赤褐(赭褐)色。❷柳の一種。ばんもや。
かはりゆ[カハリ-]【愛】(仙)(ゐ四) 愛ういつくしむ。おはれむ。
かはり-ゆ[カハリ-]【形二】❶かはらかし。❷神
かしこしとはし。❸緩やかしとはし。❹小さ
くて愛らしい。「ーき名」
かはゆらし[カハユラシ]【形二】いとはしおもし
かはゆり[カハリ]【川百合】(名)【植】さいぎんかゆり。
かはら[カハラ]【川原】(名) ❶河邊の水なくして砂礫
多き所。(瀬)。❷かはらもの」の略言。❸かはらぶき
の一。「家居の棟瓦。
カハラ[カハラ]【瓦】(名)《英語 Tile》にてしら

かはら-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる屋根。
かはらぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる家。又瓦屋。
かはらぶき-やね[カハラ-]【瓦葺屋根】(名) 瓦葺の屋根。
かはらぶよう[カハラ-]【川原蓼】(名)【植】(いぬ)蓼の一
種。葉は互生し披針形にして縁辺の砂地に生ず。八
月頃、枝端の如き白花を穂を成して白色の微毛を有す。(夏蓼)
かはり[カハリ]【代】(名) ❶交替すること。又其物。(交)
❷(古)かはりもの。❸(古)かはりばえ。
かはり-がね[カハリ-]【鍵】(名) ❶かはりもの。くさび。❷(古)
とぎなどの「一もの」
かはり-ぎり[カハリ-]【蚊蝨】(名) 蚊部にカナリヤ又は孔雀な
どの毛を寄せて蚊の狀につくりたる物を釣りて飾

かはり-ぐさ[カハリ-]【皮剥】(名) ❶皮を剥(は)ぐこと。「一の
こと」❷獣類の革を剥(は)ぐことを業とする人。
かはりこ[カハリ-]【川原】(名) ❶かはらのこと。❷(古)かはらぶきの
家屋のたての一種。「——ごおたねは[皮剥小刀]
(名) 皮物などの皮を剥(は)ぐための小刀。
かはり-もの[カハリ-]【代】(名)【植】かはらまつの一名。
かはりや[カハリ-]【川屋】(名) 川ばたの家。「非手の一」
かはりや[カハリ-]【厠】(名) 大小便をするところ。かわや。
んぞよ。「厠所」「総厠」「雪隠」(静厠)。「北窓」
かはり-や[カハリ-]【皮屋】(名) 獣類の皮を製作する者。又
かはりやき[カハリ-]【清燒】(名) 一種の料理。もとは、鯛の
舎身を縦に俎に置き、醤油をにしたるものにして、
其形恰もかまの如に似たるより此名あり。今は、
醤油・酒等を半煎にし、味を共りてよき程に切
り、これを俎に置きたれをつけて燒く。
かはり-やしろ[カハリ-]【川社】(名) 川のほとりにある
祠。又祠をまつりたる川のほとりにある祠。
かはり-やなぎ[カハリ-]【川柳】(名) ❶【植】楊柳科に属す
る大木。水邊に生ず。葉は桃に似て狭く、下垂す。
色を少し、赤褐(赭褐)色。❷柳の一種。ばんもや。
かはりゆ[カハリ-]【愛】(仙)(ゐ四) 愛ういつくしむ。おはれむ。
かはり-ゆ[カハリ-]【形二】❶かはらかし。❷神
かしこしとはし。❸緩やかしとはし。❹小さ
くて愛らしい。「ーき名」
かはゆらし[カハユラシ]【形二】いとはしおもし
かはゆり[カハリ]【川百合】(名)【植】さいぎんかゆり。
かはら[カハラ]【川原】(名) ❶河邊の水なくして砂礫
多き所。(瀬)。❷かはらもの」の略言。❸かはらぶき
の一。「家居の棟瓦。
カハラ[カハラ]【瓦】(名)《英語 Tile》にてしら

かはら-ばけ[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦の毛色。白に黒を
かはらばけいこ[カハラバケイコ]【川原乗切】(名)【植】(いぐさ)の一。
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) ❶瓦を葺く事。人。❷瓦
屋根を葺(ふ)く職人。「の一種」
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 屋根瓦の形
にしたる仏餅。
かはらぶすま[カハラ-]【川原一重】(名) すれもの。
カハラ-ぶせんべい[カハラ-]【瓦葺煎餅】(名) 屋根瓦の形
に似て薄く焼きたる煎餅。
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名)【植】石竹
科に属する草。葉は狭く披針形にして、茎の頂は疎
く岐して尖り、花は大形にして花弁の頂は鋸歯状に
細裂す。観賞用として栽培せらるゝもの多し。(石竹)
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名) はいだて
の一種。屋根よりたれて降を防ぐもの。
かはらぶ-はいだて[カハラ-]【川原撫】(名)【動】撫動類に属す
る鳥。原野に棲息す。形狀は鶉地に同じく羽毛茶灰
色にして斑点を有す。(鶉)
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺く事。人。
かはらぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる屋根。
かはらぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺きたる家。又瓦屋。
かはらぶき-やね[カハラ-]【瓦葺屋根】(名) 瓦葺の屋根。
かはらぶよう[カハラ-]【川原蓼】(名)【植】(いぬ)蓼の一
種。葉は互生し披針形にして縁辺の砂地に生ず。八
月頃、枝端の如き白花を穂を成して白色の微毛を有す。(夏蓼)
かはり[カハリ]【代】(名) ❶交替すること。又其物。(交)
❷(古)かはりもの。❸(古)かはりばえ。
かはり-がね[カハリ-]【鍵】(名) ❶かはりもの。くさび。❷(古)
とぎなどの「一もの」
かはり-ぎり[カハリ-]【蚊蝨】(名) 蚊部にカナリヤ又は孔雀な
どの毛を寄せて蚊の狀につくりたる物を釣りて飾

かはり-ぐさ[カハリ-]【皮剥】(名) ❶皮を剥(は)ぐこと。「一の
こと」❷獣類の革を剥(は)ぐことを業とする人。
かはりこ[カハリ-]【川原】(名) ❶かはらのこと。❷(古)かはらぶきの
家屋のたての一種。「——ごおたねは[皮剥小刀]
(名) 皮物などの皮を剥(は)ぐための小刀。
かはり-もの[カハリ-]【代】(名)【植】かはらまつの一名。
かはりや[カハリ-]【川屋】(名) 川ばたの家。「非手の一」
かはりや[カハリ-]【厠】(名) 大小便をするところ。かわや。
んぞよ。「厠所」「総厠」「雪隠」(静厠)。「北窓」
かはり-や[カハリ-]【皮屋】(名) 獣類の皮を製作する者。又
かはりやき[カハリ-]【清燒】(名) 一種の料理。もとは、鯛の
舎身を縦に俎に置き、醤油をにしたるものにして、
其形恰もかまの如に似たるより此名あり。今は、
醤油・酒等を半煎にし、味を共りてよき程に切
り、これを俎に置きたれをつけて燒く。
かはり-やしろ[カハリ-]【川社】(名) 川のほとりにある
祠。又祠をまつりたる川のほとりにある祠。
かはり-やなぎ[カハリ-]【川柳】(名) ❶【植】楊柳科に属す
る大木。水邊に生ず。葉は桃に似て狭く、下垂す。
色を少し、赤褐(赭褐)色。❷柳の一種。ばんもや。
かはりゆ[カハリ-]【愛】(仙)(ゐ四) 愛ういつくしむ。おはれむ。
かはり-ゆ[カハリ-]【形二】❶かはらかし。❷神
かしこしとはし。❸緩やかしとはし。❹小さ
くて愛らしい。「ーき名」
かはゆらし[カハユラシ]【形二】いとはしおもし
かはゆり[カハリ]【川百合】(名)【植】さいぎんかゆり。
かはら[カハラ]【川原】(名) ❶河邊の水なくして砂礫
多き所。(瀬)。❷かはらもの」の略言。❸かはらぶき
の一。「家居の棟瓦。
カハラ[カハラ]【瓦】(名)《英語 Tile》にてしら

かはら-ばけ[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦の毛色。白に黒を
かはらばけいこ[カハラバケイコ]【川原乗切】(名)【植】(いぐさ)の一。
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) ❶瓦を葺く事。人。❷瓦
屋根を葺(ふ)く職人。「の一種」
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 屋根瓦の形
にしたる仏餅。
かはらぶすま[カハラ-]【川原一重】(名) すれもの。
カハラ-ぶせんべい[カハラ-]【瓦葺煎餅】(名) 屋根瓦の形
に似て薄く焼きたる煎餅。
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名)【植】石竹
科に属する草。葉は狭く披針形にして、茎の頂は疎
く岐して尖り、花は大形にして花弁の頂は鋸歯状に
細裂す。観賞用として栽培せらるゝもの多し。(石竹)
かはらぶすまだて[カハラ-]【川原撫子】(名) はいだて
の一種。屋根よりたれて降を防ぐもの。
かはらぶ-はいだて[カハラ-]【川原撫】(名)【動】撫動類に属す
る鳥。原野に棲息す。形狀は鶉地に同じく羽毛茶灰
色にして斑点を有す。(鶉)
カハラ-ぶき[カハラ-]【瓦葺】(名) 瓦を葺く事。人。
**かはら

おおい-おおい

おおい-かぶさる

おおい-かぶさる

おおい-かぶる

おおい-かぶる

**おおい-かぶ

おおいぬ【大犬】(名) 体長の大きい犬。
おおいぬ【大犬】(名) 冬の夜空に見える星座の一。シリウスを含む。
おおいぬ【大犬】(名) 犬の大きいもの。
おおいぬ【大犬】(名) 体格の大きい人。
おおいぬ【大犬】(名) 大きい犬。
おおいぬ【大犬】(名) 大きい犬。
おおいぬ【大犬】(名) 大きい犬

あかさたな　はまやらわ　　あいうえお　かきくけこ　さしすせそ　たちつてと　なにぬねの　はひふへほ　まみむめも　やゆよ　らりるれろ　わゐうゑを　ん

あ ア【亜】(名) 東洋人を指す語。「——細亜」 ❷ 第二次大戦前の枢軸国側の呼称。

あ ア【唖】(名) ことばが話せないこと。また、その人。おし。

あ ア【吾】(代) 自分。われ。「——亦た紅」

あ ア【阿】(名) 相手に親しみをこめて呼ぶ語。「——母さん」

あ ア【啊】(感) 驚いたり感動したりしたときに発する声。

あ ア【痾】(名) 病気。やまい。

あ ア【鴉】(名) カラス。

あ ア【娃】(名) 美人。

あ ア【蛙】(名) カエル。

あ ア【錒】(名) 元素の一。アクチニウム。

あ ア【鵞】(名) ガチョウ。

あ ア【鵞】(名) ガチョウ。

あ ア【鵞】(名) ガチョウ

かえし-うた[返歌]（名）❶贈られた和歌の意にかなって感かくす歌。くんか。❷返歌の意を詠めて其後に附くる短歌。——**おれ**[返刀]（名）一方切りの太刀。かくすかたな。——**おん**[返音]（名）「かくりおんに同じ。

かえ-ばたき[壁下地]（名）壁の壁土をつけるために竹又は木などの細き材を縦横に細かく組んで作るかべのもと。壁骨。

かえし-ばりリョ[返針]（名）衣服などの縫ひ方に縫ひ返すこと。又縫物などの縫ひ方に一針ごとに返して縫ふこと。

かえし-ものリョ[返物]（名）❶さしあげる品物の意。❷ものをかくすこと。又かくすもの。

かえ-がね[壁代]（名）❶室屋などの内部に壁の代用に垂くる幔。❷かべぎれ。

かく-さまリョ[さまざま]（副）[返]（仙ラ四）❶もとの如くにすること。（他）❷もとの所へ到ること。（自）❸最少すくんなやくすること。「品物を—」❹和語すること。りやく。「温め—」❺減せすること。「原を—」❻くりかくすこと。

かく-すリョ[さまざま]（反）（仙ラ四）❶くつがくす。ひるがくす。❷見おとして度すくりかくす。「これを—」❸隠す。❹医家の反切をなすこと。「ん」。

かく-すリョ[さまざま]（動）（仙ラ四）顔を手に化せしむ。「へ」。

かくす-おくすリョ[返]（副）慙愧すること。

かべ-すまい[壁遊居]（名）すきやの一種。骨組を竹にて造り、一面よく縦に縦（ヨ）りをかけて、壁の表裏ともに如くに塗りなしたるもの。

かべ-そえよう[壁詐欺]（名）❶たゝ画が壁に対してつぶやくこと。ささやかしに物語ること。❷とはまことに相違又は虚詐などをなすこと。

かく-だまリョ[称玉]（名）貨物に見せかけて、其かはりに用ふる偽物「—をつかふ」。

かく-ちリョ[称地]（名）❶移転して住むべき土地。❷とりかゝる土地。

かべ-ナヨロ[壁紫雞]（名）かわせみに似たる鳥の用形。ちゝれてちゝみの如き細かき文を表はしたる現合唇をもつ。

かべ-つち[壁土]（名）壁を塗る土。

かべつ-ぢリョ[却]（副）[説]（副）うらうらに。うゝはさらに。

かく-ぢつ[確]（名）❶[副]確実の意。[形]確実なり。❷[副]確実の意。[形]確実なり

かきくけこ　[感嘆詞]　(1)かきくけこの50音順の第1番目。(2)(ローマ字で書いた場合)日本語の音節「か」「き」「く」「け」「こ」を表す。

かみあぶら【紙油】(名) 紙に油をしみこませたもの。

かみあらい【紙洗い】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを洗うこと。

かみあらし【神荒し】(名) 神社の境内で、神聖を汚すような行為をすること。

かみあらし【髪荒し】(名) 髪の毛をくしゃくしゃにすること。

かみあわせ【紙合わせ】(名) 紙を貼り合わせること。

かみいと【紙糸】(名) 紙をよって作った糸。

かみいれ【紙入れ】(名) 紙幣・名刺などを入れて持ち歩く袋。

かみうす【紙臼】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを入れて打ちくだく臼。

かみうち【紙打ち】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを打ちくだくこと。

かみうら【神占】(名) 神意をうかがうこと。

かみえ【紙絵】(名) 紙を切ったり貼ったりして作った絵。

かみおき【紙置き】(名) 紙すきで、すいた紙を一枚一枚積み重ねること。

かみおくり【神送り】(名) 陰暦十月に、諸国の神々が出雲大社へ行くのを送る神事。

かみおくり【紙送り】(名) ❶印刷機で、紙を一枚ずつ送り出すこと。❷印刷機で、紙を一枚ずつ送り出す人。

かみおさえ【紙押さえ】(名) 紙が動かないように押さえること。また、その道具。

かみおと【神音】(名) 雷の音。

かみおとし【紙落とし】(名) 紙すきで、すいた紙を一枚一枚積み重ねること。

かみおや【神親】(名) 神前で結婚式をあげるとき、仲人をする人。

かみおろし【紙下ろし】(名) 紙すきで、すいた紙を一枚一枚積み重ねること。

かみおろし【神下ろし】(名) 神霊を招き降ろすこと。

かみおんな【神女】(名) 神に仕える女。巫女。

かみかくし【神隠し】(名) 人が突然行方不明になること。

かみかざり【紙飾り】(名) 紙で作った飾り。

かみがた【上方】(名) 京都・大阪地方。

かみがた【髪形】(名) 髪の結い方。

かみがた【紙型】(名) ❶鉛版をとるために、活字の組み版に紙をあてて作った凹版。❷印刷機で、紙を一枚ずつ送り出すこと。また、その人。

かみがた【紙形】(名) 紙で作った型。

かみがたづき【上方月】(名) 陰暦八月の異名。

かみがみ【上上】(名) 最上。

かみがみしい【神神しい】(形) 神聖で近寄りがたい感じである。

かみがみ【紙紙】(名) 一枚一枚の紙。

かみがみ【上上】(名) 京都・大阪地方。

かみがわ【紙革】(名) 紙と革。

かみがわら【紙瓦】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを打ちくだく臼。

かみがわら【神瓦】(名) 神社の屋根にふく瓦。

かみかんばん【紙看板】(名) 紙に書いた看板。

かみき【紙木】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを打ちくだく臼。

かみきり【紙切り】(名) 紙を切ること。また、その人。

かみきり【髪切り】(名) ❶髪の毛を切ること。❷髪の毛を切る道具。❸髪の毛を切る人。

かみきり【紙切り】(名) 紙を切る小刀。

かみきりばさみ【紙切りばさみ】(名) 紙を切るはさみ。

かみきりむし【髪切り虫】(名) ❶髪の毛を切るように、口で木の皮を切る甲虫。❷髪の毛を切る風。

かみくず【紙屑】(名) 紙の小さい切れ。

かみくだく【噛み砕く】(動) ❶噛んで細かくする。❷相手の言うことを十分理解して、自分のものにする。

かみくだく【噛み砕く】(動) 噛んで細かくする。

かみくだく【噛み砕く】(動) 相手の言うことを十分理解して、自分のものにする。

かみくち【紙口】(名) 紙すきの原料のぼろ・わらなどを打ちくだく臼

かみのくに　[神国]（名）日本国の美称。

かみのこと　[神事]（名）❶神に関する事。❷祭礼。

かみのこと　[上古]（名）上代。

かみのこと　[上古]（名）上代。

かみのこと　[神琴]（名）神楽に用いる琴。

かみのこと　[神事]（名）❶神に関する事。❷祭礼

さかな[名]魚類・鯨類・貝類・軟体動物・甲殻類・爬虫類など、水中に住む脊椎動物の総称。また、広く水中に住む動物の総称。魚。肴。

さかなあつかい[名]魚を料理すること。また、その料理。

さかなうり[名]魚を売ること。また、その人。魚屋。

さかなおろし[名]魚をおろすこと。また、その人。

さかなかご[名]魚を入れるかご。

さかなかた[名]魚を料理する方法。

さかなぐもり[名]魚を売る店。魚屋。

さかなくさい[形]魚のにおいがする。

さかなくさみ[名]魚のにおい。

さかなくさる[自ラ五]魚が腐る。

さかなくち[名]魚の口。

さかなぐも[名]魚を売る店。魚屋。

さかなごころ[名]魚を食べたいと思う気持ち。

さかなごしらえ[名]魚を料理すること。

さかなざし[名]魚を売る店。

さかなしょう[名]魚を売る商人。

さかなじょう[名]魚を売る商人。

さかなすき[名]魚が好きなこと。また、その人。

さかなだな[名]魚を売る店。

さかなだる[名]魚を入れる樽。

さかなつり[名]魚を釣ること。

さかなでんぶ[名]魚肉を煮て細かくほぐし、砂糖・醤油などで味をつけたもの。

さかなとり[名]魚を捕ること。また、その人。漁師。

さかなば[名]魚を売る場所。

さかなばこ[名]魚を入れる箱。

さかなばん[名]魚を売る番人。

さかなびき[名]魚を売る人。

さかなびん[名]魚を入れる瓶。

さかなぶね[名]魚を運ぶ船。

さかなへん[名]漢字の部首の一つ。「鮮」「鯉」などの「魚」の部分。

さかなまち[名]魚を売る町。

さかなみせ[名]魚を売る店。

さかなや[名]魚を売る店。また、その人。

さかなやま[名]魚を売る山。

さかなりょう[名]魚を捕ること。

さかなれ[名]魚が腐ること。

さかなろ[名]魚を焼く炉。

さかなん[名]魚を売る人。

さかなんば[名]魚を売る場所。

さかなんや[名]魚を売る店。

さかなんりょう[名]魚を捕ること。

さかなんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわ[名]魚を売る話。

さかなんわや[名]魚を売る店。

さかなんわろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわん[名]魚を売る人。

さかなんわんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんや[名]魚を売る店。

さかなんわんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんろ[名]魚を焼く炉。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんん[名]魚を売る人。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんば[名]魚を売る場所。

さかなんわんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんんや[名]魚を売る店。

**さかなんわん

かいやく　(名)　[加役]　本役のほかに加えて勤めること。

かいやく　(名)　[解約]　契約を解除すること。

かいやく　(名)　[解薬]　薬を調合すること。また、その薬。

かいやく　(名)　[会役]　会合の席で、役目を分担すること。また、その役目。

かいやく　(名)　[改訳]　訳し直すこと。また、訳し直したもの。

かいやく　(名)　[改約]　約束を改めること。

かいやく　(名)　[廻薬]　病人に薬をすすめること。

かいやく　(名)　[開薬]　薬を調合すること。

かいやく　(名)　[買約]　売買の契約。

かいやく　(名)　[解訳]　解釈して訳すこと。

かいやく　(名)　[会約]　会合の席で、約束すること。また、その約束。

かいやく　(名)　[会薬]　会合の席で、薬を調合すること。また、その薬。

かいやく　(名)　[会訳]　会合の席で、訳すこと。また、その訳。

かいやく　(名)　[解訳]　解釈して訳すこと。

かいやく　(名)　[会約]　会合の席で、約束すること。また、その約束。

かいやく　(名)　[会薬]　会合の席で、薬を調合すること。また、その薬。

かいやく　(名)　[会訳]　会合の席で、訳すこと。また、その訳。

かいやく　(名)　[解約]　契約を解除すること。

かいやく　(名)　[解薬]　薬を調合すること。また、その薬。

かいやく　(名)　[会役]　会合の席で、役目を分担すること。また、その役目。

かいやく　(名)　[改訳]　訳し直すこと。また、訳し直したもの。

かいやく　(名)　[改約]　約束を改めること。

かいやく　(名)　[廻薬]　病人に薬をすすめること。

かいやく　(名)　[開薬]　薬を調合すること。

かいやく　(名)　[買約]　売買の契約

からくち 名 辛口。

からくちの 連体 辛口の。

からくちの-ぎょうしゃ 名 辛口の批評家。

からくちの-ひょうろん 名 辛口の批評。

からくちの-ひょうろんか 名 辛口の批評家。

からくちの-ぶんしょう 名 辛口の文章。

からくちの-ぶんぴょう 名 辛口の文評。

からくちの-ぶんぴょうか 名 辛口の文評家。

からくちの-ぶんぽう 名 辛口の文法。

からくちの-ぶんぽうか 名 辛口の文法家。

からくちの-ぶんぽうがく 名 辛口の文法学。

からくちの-ぶんぽうがくしゃ 名 辛口の文法学者

からいも [唐芋] [名] さつまいも。

からうす [唐臼] [名] 米・麦などをつき砕く道具。

からかさ [唐傘] [名] 竹の骨に紙を張り油をひいた雨具。

からかさおばけ [唐傘お化] [名] 古くなった傘が化けて出るという妖怪。

からかさまつ [唐傘松] [名] 枝が傘の形に広がる松。

からかぜ [空風] [名] 雨や雪を伴わない風。

からかみ [唐紙] [名] 模様を摺った和紙。ふすまや障子に用いる。

からかわ [乾皮] [名] 乾いた皮。

からき [唐木] [名] 黒檀・紫檀など、堅くて重い外国産の木。

からきし [副] 全く。少しも。「―駄目だ」

からくさ [唐草] [名] 蔓草の模様。

からくさもん [唐草文] [名] 唐草模様。

からくち [辛口] [名] ❶酒などの味が辛いこと。❷辛いもの。❸厳しい批評。

からくり [名] ❶仕掛け。機械。❷人をだますこと。

からくりにんぎょう [からくり人形] [名] 糸・ばね・歯車などの仕掛けで動く人形。

からくれない [唐紅] [名] 濃い紅色。

からげる [他下一] 裾・袖などを引き上げて結ぶ。

からこ [唐粉] [名] 上質の白い小麦粉。

からこ [空籠] [名] 空の籠。

からこ [唐子] [名] 髪を額の上で切りそろえた子供の髪形。

からこころ [空心] [名] 空腹。

からさお [唐竿] [名] 竹竿。

からさき [唐崎] [名] 琵琶湖西岸の地名。

からさけ [乾鮭] [名] 塩鮭を干したもの。

からさわぎ [空騒ぎ] [名] 実のない騒ぎ。

からし [芥子] [名] ❶[植] アブラナ科の一年草。❷その種子を粉にしたもの。香辛料。

からしいれ [芥子入] [名] 芥子を入れる容器。

からしあえ [芥子和え] [名] 芥子で味をつけた和え物。

からしづけ [芥子漬] [名] 芥子で味をつけた漬物。

からしな [芥子菜] [名] [植] アブラナ科の一年草。葉に辛味がある。

からす [烏] [名] [動] カラス科の鳥。全身黒色。

からすうり [烏瓜] [名] [植] ウリ科の蔓草。夏に白い花、秋に赤い実。

からすがい [烏貝] [名] [動] 淡水産の二枚貝。

からすき [唐鋤] [名] 土を掘り起こす農具。

からすぐち [烏口] [名] 製図用の線引き器。

からすのえんどう [烏の豌豆] [名] [植] マメ科の蔓草。

からすのごはん [烏の御飯] [名] [植] 苔の一種。

からすのさんしょう [烏の山椒] [名] [植] ミカン科の落葉灌木。

からすのしょくじ [烏の食事] [名] 食事の時間が不規則なこと。

からすのたかまき [烏の高巻] [名] 海苔で魚肉などを巻いた食品。

からすのつばさ [烏の翼] [名] [植] ミカン科の落葉灌木。

からすのぬれば [烏の濡羽] [名] 烏の羽のような黒色。

からすのまき [烏の巻] [名] 海苔で魚肉などを巻いた食品。

からすのみ [烏の実] [名] [植] ウコギ科の落葉灌木。

からすのゆりかご [烏の揺籃] [名] 烏の巣。

からすのわた [烏の腸] [名] 海鼠の腸の塩辛。

からすばしり [烏走り] [名] 烏が飛び去るように速いこと。

からすびしゃく [烏柄杓] [名] 柄が曲がった柄杓。

からすべり [烏滑り] [名] [植] タデ科の蔓草。

からすまがい [烏紛い] [名] 烏に似ていること。

からすみ [唐墨] [名] 鯔の卵巣を塩漬けにして干したもの。

からすむぎ [烏麦] [名] [植] イネ科の一年草。

からすもじ [烏文字] [名] 読めない字。

からすやま [烏山] [名] ❶[植] 山毛欅の別称。❷[地] 栃木県の地名。

からすやまなし [烏山梨] [名] [植] 山毛欅の別称。

からすよけ [烏除け] [名] 烏を追い払うこと。

からせき [唐石] [名] 中国産の石。

からせき [乾咳] [名] 痰の出ない咳。

からぜり [唐芹] [名] [植] セリ科の多年草。

からたち [枳殻] [名] [植] ミカン科の落葉灌木。

からたち [唐太刀] [名] 中国風の太刀。

からたけ [唐竹] [名] 中国産の竹。

からたけわり [唐竹割] [名] 竹を割るように真っ二つに割ること。

からだつき [体付] [名] 体の格好。

からだつき [体つき] [名] 体の格好。

からだのり [唐太海苔] [名] [植] 紅藻類の海藻。

からたまご [空卵] [名] 殻ばかりで中身のない卵。

からたまご [唐卵] [名] 鶏卵。

からたまご [唐玉子] [名] 鶏卵。

からたまご [空玉子] [名] 中身のない卵。

からたまご [乾卵] [名] 乾燥した鶏卵。

からたまご [殻卵] [名] 殻のままの卵。

からたまご [唐卵子] [名] 鶏卵。

からたまご [空卵子] [名] 中身のない卵。

からたまご [乾卵子] [名] 乾燥した鶏卵。

からたまご [殻卵子] [名] 殻のままの卵。

からたまご [唐玉子] [名] 鶏卵。

からたまご [空玉

いふ語。「一聖はる」。

おらり（名、副）前條に同じ。

カラ-わ［唐輪］（名）《婦人の髪の結ひ方》（い）髪毛を束ねて其上部を輪につくりたるまげ。髷長以前頃迄久しく行はれしもの。（ろ）夢よりも上を二つに分け額の上にて二つの輪をつくりたるもの。徳川時代に、娘子の少女これを結べり。

からゐ［空井］（名）乾燥して水無き井。

カラ-ゐき［唐居敷］（名）支那風に門の柱の下に敷きたる木。

カラ-え［唐荏］（名）支那人の手に成りたる荏。又、支那人の製法にならひたる荏油の對「一の山水」。

††から-ざき［枯萩］（名）枯れたる萩。

ガラン［伽藍］（名）《梵語 Gaṃ-harāma（僧伽藍摩）の略、僧園又は精舎と譯す》衆多の僧の遊歩修行する場所。テラ「七堂—」。

††おらん-どう（名）《空虚の義ともいひ、又、伽藍堂の義ともいふ》家の中に物なくして廣さと。

かり［雁］（名）【動】水禽類中扁嘴類に屬する鳥。頭長し。嘴は軟皮を被りたゝ末端のみ硬く、嘴緣に數多の角質の薄板排列す。脚は短くして後方に位し、前三趾間に蹼（ミヅ）を張り後趾小さし。河海池沼に棲息する候鳥にして秋來り春去る。其聲悲哀の情を催す。故に古來多く歌文などによめり。【七】カリ一個＝Exemplar（名）【化】カリウムに同じ。

かり［狩］（名）㊀鳥獣類を追ひ捕ること。（獵）。㊁鷹狩の特稱。㊂魚を漁（スナ）ること。㊃辭れさがすこと。さがしありくこと。「松茸—」。「紅葉—」。

かり［假］（名）㊀永久ならざること。あばし。（暫時）。㊁假正の—につくる。㊂實正のものにあらざること。似て非なること。にせ。いつはり。臨時。「—の太守」（兼官）。

かり［借］（名）借りること。又、借りたる物。

かり［刈］（名）㊀刈りとること。

かり［甲］（名）昔、樂にて、調子を高く上ること。

††かり［許］（接尾）或語に添へて、その事と似て非なる意を表はす語「嫉—行けば冬の夜の」。

††—がり（接尾）或語に添へて、その事と似て非なる意を表はす語「嫉—行けば冬の夜の」。

かり-あつめる［駆集］（他）「かりあつむ」の訛。

††かり-あを［狩襖］（名）古昔、隨身舍人などの着したる狩衣に似て裏は絹なるもの。

かり-いぬ［狐犬］（名）狩獵に使ふ犬。れふけん。

かり-いへ（名）人の家屋を借りてすまふこと。又、其家。

かり-いほ［下流］（名）㊀川の下流。㊁川流。

かり-うど［獵人］（名）山野にて鳥獣を獵するを職業となす人。れふし。（寢者）。

カリウム［加個母＝Kalium］（名）【化】銀色をなす脆き金屬、水に遇（ア）ひ水素を遊離して水酸化「カリウム」となり、其際發する熱により音を發し紫燄をあげて燃燒す。酸化し易きを以て、石油或は揮發油に入れて貯ふ。天然には長石、明礬等となりて存在す。

かり-うめ［假聟］（名）かりにうづめおくこと。

かり-かいげふめんおやう［假開業免狀］（名）醫師たるべき地に於て、廳縣知事の具狀により、内務大臣より試驗によらず其人の履歴のみによりて付與する醫師の開業免狀。

かり-かた［借方］（名）㊀人より物を借る手段。㊁借りたる方の人。㊂簿記の仕譯にて、帳簿が受けたる方の稱。例へば、織物一反を買ひ金十圓を支拂ひたりとすれば、其織物は帳簿に於て借方なり。

かり-かね［雁音］（名）㊀雁の聲。㊁（動）雁の一名「玉つさは、掛けて來つれど、—の」。

—てん［雁音點］（名）漢文の返點の一なるとの稱。

かりがねぼね（名）「かいがね」の訛。

かり-かぶ［刈株］（名）刈りたるあとに殘る株。

かり-かぶ［假株］（名）「かりかぶけん」の略言。

—けん［假株券］（名）會社より株主へ假に付與しおく株券。後に本株券と引き換ふるもの。

カリ-ガラス［加里硝子＝Potash glass］（名）おもにカルシウム及カリウムの硅酸鹽より成る「ガラス」。「ガラス」の中にて、最も融解し難く且水及酸類の作用を受くること最も少きを以て、多く化學用器具製作に用ひらる。

かり-かり（名、副）㊀雁の鳴き聲。㊁菓子などを齒にて噛みくだく音。「一音をたてる」。

——ばり（名、副）前條（二）に同じ。「一齧ごたへある」。

——ばりぼり（名）㊀食物の僧をいやしめていふ語。㊁頭髪を極めて短く刈ること。

かりやす（名）執念深く我意を成さんとするものをいやしめいふ語。「し、かれぎ。（外聚）。

かり-き［刈萱］（名）【植】ねぎの變種、藥草。小さし。

かり-ぎぬ［借着］（名）他人の衣服を借りて着（キ）ること。又、其服。「損料の—」（借衣）。

かり-ぎぬ［狩衣］（名）《もと獵場に行くべきにて、一時議長の職務を行ふ人。

かり-ぎぬ［假議長］（名）議長若しくは副議長の代りとして、一時議長の職務を行ふ人。

と服裝の時に着せし服。古昔の官服、盤領（エリ）にして袖にくくりあるもの。これを着るときは、必ず指貫（サシヌキ）の袴を用ひ、烏帽子（エボシ）を袴の外へ出すを例とす。綾又は紗等にて仕立て、夏は一重にして冬は裏をつく、色は一定せず。五位以上のものは繧繝を用ひ、五位以下のものは無紋を用ひたり。

［かりぎぬ］

かり-くび［雁首］（名）㊀雁の首に似たる形をなすもの。㊁陰莖の頭（龜頭）。

††かり-くら［狩座］（名）鳥獣を狩る所。かりば。

††かり-くら［狩競］（名）爭ひて狩獵を行ふこと。

かり-けつぎ［假決議］（名）本來の効力を有せざる決議。又、効力不確定なる決議。

かり-こ［狩子］（名）狩獵に、鳥獣を驅り出す士卒。

かり-こみ［刈込］（名）㊀刈りこむこと。㊁菜園栽培上必要なる手入れ。無用の枝を剪除して有用の枝を保護すること。初冬苗類の發芽前に行ふべきもの。

かり-こむ［刈込］（他、む下二）㊀髪を刈りこむに用ふる鋏。㊁頭髪をかりこむこと。

かり-こ-むしろ［刈込］（他、ら四）髪を刈りて短くすること。「髭髪を—」（剪）。

かり-こ-むしろ［借込］（他、ら四）金錢などを多く借りること。「額に借る。

かり-ごめ［刈籠］（名）刈りたる草、藁などを入るる籠。

かり-ざいばん［假裁判］（名）【法】裁判所が職權又は申請により、判決は未だ確定に至らざれど、これに附したる假執行の宣言に基づきてなす強制執行。——の宣言。

かり-ざいばんしょ［假裁判所］（名）【法】裁判所が假差押決定、假處分の條參照」。

かり-ざいばんしょ［假裁判所］（名）【法】假差押決定の申請に對し、該管轄裁判所が、口頭辯論を經ずしてこれを認可する決定。

かり-ざしき［借座敷］（名）借りたる座敷。

かりしっかう［假執行］（名）㊀假に或事柄を㊁【法】裁判所が職權又は申請により、判決は未だ確定に至らざれど、これに附したる假執行の宣言に基づきてなす強制執行。——の宣言。

かり-しっかうせんげん［假執行宣言］（名）【法】裁判所が或條件の下に、其判決を假に執行するを許すとの宣言。

かり-しゅっき［刈出機］（名）刈りてよき時期、「稻の—に籠り越して」（刈時）。

かり-しゅつごく［假出獄］（名）【法】重罪又は輕罪の刑に處せられたるものが、よく獄則を遵守し改悛の狀あるとき、假に獄より出して、普通人の生活を營ましむること。

かり-しょぶん［假處分］（名）㊀假に或事柄を處分すること。㊁【法】裁判所が係爭物に關し、其現場の變更により、當事者の一方の權利を實行すること能はず、又、これをなすに苦しき困難を生ずる恐れあるときに許す處分。其假差押と異なる點は、假差押は、專ら金錢上の債權に關して、強制執行を保全するために行ふものなれど、假處分は、たゞ係爭の目的物に限るものなり。

かり-せんぐう［假遷宮］（名）神社の本殿を造營する間、假につくりし鄉殿に神體をうつす儀式。かりどのせんぐう。正遷宮の對。

かり-そめ［假初］（名）㊀暫時のまにまにはせ、かりたうざ。（苟且）。㊁かろ〳〵しくすること。そまつ。おろそか。なほざり。——にも［假初］（副）いやしくも。（苟且）。——ぶし［假初臥］（名）うたたね。かりね。

かり-た［刈田］（名）稻などを刈りたるあとの田。

カリタ［骨牌］（名）「カルタ」に同じ。

かり-たく［假宅］（名）一時假に住む家。

かり-たつ［駈立］（他、た下二）㊀驅り追ふ。おひたつ。「獸を—」。㊁強ひて催し赴かしむ。

せんげん［假執行宣言］（名）【法】裁判所が

かりたてる［駈立］（他）「かりたつ」の訛。

かりち［借地］（名）借りたる地面。ちやくち。

かりぢめん［借地面］（名）かりち。ちやくち。

かりち［刈地］（名）刈りたる草の地。

かりちゃう［假帳］（名）假に記入する帳面。

かりちゃう［借帳］（名）借りたる金錢、物品などを記入する帳面。

かりつ［假律］（名）假に定めたる法律。

かりつ［假率］（名）假に定めたる率。

かりつ［假立］（名）假に立つること。

かりつ［假名］（名）假に名づくること。

かりつ［假令］（副）假に。たとへ

ありやなしや　[連語]　あるかないか。

ありやま　[有山]　[名]　①有馬郡の山。②有馬温泉。

ありやまおんせん　[有山温泉]　[名]　有馬温泉。

ありやまぐさ　[有山草]　[名]　[植]　ヒノキシダ科の常緑多年草。山地の岩上に生ずる。葉は羽状複葉で、長さ一尺内外。

ありやまぐさ　[有山草]　[名]　[植]　ヒノキシダ科の常緑多年草。山地の岩上に生ずる。葉は羽状複葉で、長さ一尺内外。

ありやまざくら　[有山桜]　[名]　[植]　バラ科の落葉喬木。山地に自生し、また庭園にも植える。春、葉に先だち淡紅色の花を開く。

ありやまざくら　[有山桜]　[名]　[植]　バラ科の落葉喬木。山地に自生し、また庭園にも植える。春、葉に先だち淡紅色の花を開く。

ありやまざし　[有山差]　[名]　[植]　ヒノキシダ科の常緑多年草。山地の岩上に生ずる。葉は羽状複葉で、長さ一尺内外。

ありやまざし　[有山差]　[名]　[植]　ヒノキシダ科の常緑多年草。山地の岩上に生ずる。葉は羽状複葉で、長さ一尺内外。

ありやまざる　[有山猿]　[名]　[動]　ニホンザルの別名。

ありやまざる　[有山猿]　[名]　[動]　ニホンザルの別名。

ありやまじ　[有山路]　[名]　有馬温泉に通ずる道。

ありやまじ　[有山路]　[名]　有馬温泉に通ずる道。

ありやまじ　[有山路]　[名]　有馬温泉に通ずる道。

ありやまじ　[有山路]　[名]　有馬温泉に通ずる道。

ありやまだけ　[有山竹]　[名]　[植]　イネ科の常緑小灌木。山地に自生し、また庭園にも植える。葉は羽状複葉で、長さ一尺内外

かいぎ【会議】(名)(スル)会合して相談すること。「—を開く」

かいきゅう【階級】(名)①地位・身分などの段階。「—が上がる」②社会を構成する人々の地位・身分。「労働者—」

かいきょ【快挙】(名)痛快な行為。「—を成し遂げる」

かいきょう【回教】(名)イスラム教の旧称。

かいきょう【海峡】(名)陸地にはさまれた狭い海。

かいきょう【開業】(名)(スル)①営業を始めること。「—医」②鉄道・電話などの営業を始めること。

かいきょう【開墾】(名)(スル)荒れ地を切り開いて耕地にすること。

かいぎょう【開業】(名)(スル)①営業を始めること。「—医」②鉄道・電話などの営業を始めること。

かいきょく【開局】(名)(スル)①郵便局・電信局などが業務を開始すること。②放送局が放送を開始すること。

かいきん【皆勤】(名)(スル)一定の期間、欠席・遅刻・早退をしないこと。「—賞」

かいきん【開襟】(名)洋服の襟を折り返さないで、首のまわりを開いたままにすること。「—シャツ」

かいきん【解禁】(名)(スル)禁止を解くこと。「狩猟—」

かいぐん【海軍】(名)海上の軍備・軍隊。

かいけい【会計】(名)(スル)①金銭の出納・管理。「—係」②勘定。「—を済ませる」

かいけい【会計】(名)官庁・会社などの経理事務。

かいけい【会計】(名)官庁・会社などの経理事務。

かいけい【会計】(名)官庁・会社などの経理事務。

形それぞれ後置詞と共に副詞句を作って「…に」「…で」「…へ」「…から」「…まで」「…より」の意味を表す。

おんおん【音音】(名)「擬音語」犬などの鳴き声。

おんか【音価】(名)「言」音声学上の音の価値。

おんか【温火】(名)「料」煮物などで、中火と弱火との中間の火加減。

おんか【温暖】(名)「気候が温かいこと。

おんかい【音階】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんかい【温解】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんかい【穏快】(形動)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんがい【音域】(名)「楽」声や楽器で出すことのできる音の範囲。

おんがい【園外】(名)「園」学校・幼稚園などの敷地の外。

おんがえし【恩返し】(名)恩を受けた人に対して、その恩に報いること。

おんかく【音楽】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんかく【穏格】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんがく【音楽】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんがく【穏格】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんかん【音感】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんかん【温感】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんかん【穏閑】(形動)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんき【音気】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんき【温気】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんき【穏気】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんきょう【音響】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんきょう【温恭】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんきょう【穏恭】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんぎょう【音楽】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんぎょう【温暖】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんぎょう【穏暖】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんきょく【音曲】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんきょく【温曲】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんきょく【穏曲】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんぎょく【音楽】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんぎょく【温暖】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんぎょく【穏暖】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんきょり【音響】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんきょり【温恭】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

おんきょり【穏恭】(名)「古」おだやかで気持のよいこと。

おんぎょり【音楽】(名)「楽」音楽の基礎となる音の配列。

おんぎょり【温暖】(名)「医」薬物の作用で体温が上がり、病気が治ること。

**おんぎょり

かんぱ―かんぺ

かんぱ 名 [漢語] 看破。
かんぱい 名 [漢語] 乾杯。
かんぱく 名 [漢語] 関白。
かんぱち 名 [魚類] 関八。
かんばつ 名 [漢語] 旱魃。
かんばつ 名 [漢語] 干魃

んぴょう　[名]　「瓢箪」の別称。

ん-ぷ　[名]　「ん」の字の形。

ん-ぷく　[名]　「ん」の字の形。

ん-ぷく　[名]　「ん」の字の形。

**ん-ぷく

(かんぎょう)[観経]（名）仏教の経典の一。浄土三部経の一。

(かんぎょう)[勧業]（名）産業を盛んにすること。

(かんぎょう)[感興]（名）感じて興を起こすこと。

(かんぎょう)[歓喜]（名）喜ぶこと。

(かんぎょう)[観経]（名）感じて起こる思想。

(かんぎょう)[感銘]（名）感じて心に深く刻みつけること。

(かんきょく)[寒極]（名）寒さの極まること。

(かんきょく)[官局]（名）官庁の局。

(かんきょく)[官曲]（名）官吏の不正。

(かんきょく)[官極]（名）官吏の最高の位

かんそう　[名]　感想。

かんそう　[名]　乾燥。

かんそう　[名]　肝臓。

かんそう　[名]　官僚。

かんそう　[名]　官房。

かんそう　[名]　官報。

かんそう　[名]　官邸。

かんそう　[名]　官舎。

かんそう　[名]　官製。

かんそう　[名]　官選。

かんそう　[名]　官庁

かんたん

かんたん【簡単】（名）（形動）❶物事の内容・構造などが複雑でないこと。「―な仕事」「―な機械」「―な説明」「―な食事」❷物事がたやすくできること。「―な問題」「―な試験」「―な仕事」「―な計算」「―な手続き」「―な方法」「―な道具」「―な料理」「―な食事」「―な服装」「―な言葉」「―な文章」「―な表現」「―な説明」「―な挨拶」「―な礼」「―な謝罪」「―な弁解」「―な言い訳」「―な嘘」「―な冗談」「―な洒落」「―な駄洒落」「―な皮肉」「―な嫌味」「―な当てこすり」「―な悪口」「―な陰口」「―な噂話」「―な秘密」「―な内緒話」「―な打ち明け話」「―な相談」「―な頼み」「―な願い」「―な申し出」「―な提案」「―な忠告」「―な助言」「―な指図」「―な命令」「―な禁止」「―な許可」「―な承諾」「―な拒否」「―な断り」「―な返事」「―な挨拶」「―な礼」「―な謝罪」「―な弁解」「―な言い訳」「―な嘘」「―な冗談」「―な洒落」「―な駄洒落」「―な皮肉」「―な嫌味」「―な当てこすり」「―な悪口」「―な陰口」「―な噂話」「―な秘密」「―な内緒話」「―な打ち明け話」「―な相談」「―な頼み」「―な願い」「―な申し出」「―な提案」「―な忠告」「―な助言」「―な指図」「―な命令」「―な禁止」「―な許可」「―な承諾」「―な拒否」「―な断り」

かんたんご【感嘆語】（名）感嘆の気持ちを表す語。「ああ」「おや」「まあ」「なんと」「なんて」「なんという」「なんてこった」「なんてこったい」「なんてこったいな」「なんてこったいなあ」「なんてこったいなあ」「なんてこったいなあ

かんそ—かんた

かんそ【乾燥】(名)　水分がなくなること。

かんそう【乾草】(名)　刈り取った草を乾かしたもの。

かんそう【感想】(名)　物事を見聞きしたときに心に浮かぶ考え。

かんそう【感情】(名)　喜怒哀楽など、心の動き。

かんそう【観相】(名)　人相を見て、その人の運命などを判断すること。

かんそう【観測】(名)　❶天体や気象などを観察すること。❷物事の成り行きを推測すること。

かんそう【艦窓】(名)　艦船の窓。

かんそう【艦艇】(名)　軍艦と艇。

かんそう【艦装】(名)　艦船の装備。

かんそう【艦層】(名)　艦船の層。

かんそう【艦倉】(名)　艦船の倉庫。

かんそう【艦窓】(名)　艦船の窓。

かんそう【艦装】(名)　艦船の装備。

かんそう【艦層】(名)　艦船の層。

かんそう【艦倉】(名)　艦船の倉庫。

かんそう【艦艇】(名)　軍艦と艇

ぼう【棒】（名）
❶細長い木。
❷人をおどすもの。
❸人をののしっていう語。
❹数字の一・二・三などを表す記号。

ぼうあし【棒足】（名）
❶まっすぐな足。
❷歩くのが速い人。

ぼうえき【貿易】（名）
外国と商品を売ったり買ったりすること。

ぼうえんきょう【望遠鏡】（名）
遠くのものを大きく見るための道具。

ぼうおん【防音】（名）
音が外に出ないようにすること。

ぼうかい【崩壊】（名）
くずれること。

ぼうがい【妨害】（名）
じゃまをすること。

ぼうがく【法学】（名）
法律を研究する学問。

ぼうがくし【法学士】（名）
大学で法学を学んで卒業した人。

ぼうがん【盲眼】（名）
目が見えないこと。

ぼうぎょ【防御】（名）
敵の攻撃を防ぐこと。

ぼうぐ【防具】（名）
❶敵の攻撃を防ぐ道具。
❷剣道で、面・胴・小手などの総称。

ぼうくう【防空】（名）
空からの敵の攻撃を防ぐこと。

ぼうけん【冒険】（名）
危険なことをあえてすること。

ぼうけんか【冒険家】（名）
冒険をする人。

ぼうけんしょうせつ【冒険小説】（名）
冒険の話を書いた小説。

ぼうけんだん【冒険談】（名）
冒険の話。

ぼうこう【暴行】（名）
乱暴なふるまい。

ぼうこう【膀胱】（名）
尿をためておく袋のような器官。

ぼうさい【防災】（名）
災害を防ぐこと。

ぼうさいくん【防災訓】（名）
災害を防ぐための訓練。

ぼうさいずきん【防災頭巾】（名）
火事などのときに頭を守るための布製の頭巾。

ぼうさいとし【防災都市】（名）
災害を防ぐ設備をととのえた都市。

ぼうさいひ【防災日】（名）
災害を防ぐことを広く国民に呼びかけるために定められた日。

ぼうさつ【防雪】（名）
雪が積もるのを防ぐこと。

ぼうさつりん【防雪林】（名）
雪が積もるのを防ぐために作った林。

ぼうし【防止】（名）
悪いことが起こらないようにすること。

ぼうし【帽子】（名）
頭にかぶるもの。

ぼうしゅ【坊主】（名）
❶男の子。
❷僧。

ぼうしゅう【防臭】（名）
においが外に出ないようにすること。

ぼうしゅう【防衆】（名）
敵の攻撃を防ぐこと。

ぼうしゅう【防湿】（名）
湿気を防ぐこと。

ぼうしゅうざい【防湿剤】（名）
湿気を防ぐ薬。

ぼうしゅうしょう【防湿性】（名）
湿気を防ぐ性質。

ぼうしゅうりょく【防湿力】（名）
湿気を防ぐ力。

ぼうしょく【防食】（名）
❶食べ物がくさるのを防ぐこと。
❷金属がさびるのを防ぐこと。

ぼうしょくざい【防食剤】（名）
❶食べ物がくさるのを防ぐ薬。
❷金属がさびるのを防ぐ薬。

ぼうしょくりょく【防食力】（名）
❶食べ物がくさるのを防ぐ力。
❷金属がさびるのを防ぐ力。

ぼうしょくりょく【防蝕力】（名）
金属がさびるのを防ぐ力。

ぼうしょくりょく【防触力】（名）
ものにぶつかるのを防ぐ力

あんな［連体］（名）❶物をさしたり名前を知らなかったりするものごとを指す語。❷物事をぼかしたり、ぼんやりとさしたりするときに用いる語。❸物事を強調するときに用いる語。❹物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-いろ［黒色］（名）物事を見る目のうち。

あんな-こと［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-ふう［風］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-もの［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-やつ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-ら［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-り［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-る［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-れ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-ろ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-わ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-を［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-ん［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んあ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んい［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んう［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んえ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んお［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んか［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んき［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んく［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んけ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んこ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んさ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んし［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んす［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んせ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んそ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んた［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んち［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んつ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んて［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んと［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んな［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んに［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んぬ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んね［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んの［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んは［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んひ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んふ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んへ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んほ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んま［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んみ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んむ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んめ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んも［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んや［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んゆ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んよ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んら［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んり［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んる［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んれ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んろ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んわ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んを［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んん［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんあ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんい［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんう［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんえ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんお［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんか［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんき［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんく［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんけ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんこ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんさ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんし［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんす［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんせ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんそ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんた［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんち［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんつ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんて［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんと［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんな［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんに［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんぬ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんね［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんの［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんは［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんひ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんふ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんへ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんほ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんま［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんみ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんむ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんめ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんも［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんや［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんゆ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんよ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんら［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんり［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんる［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんれ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんろ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんわ［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんを［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あんな-んんん［連語］（名）❶物事を見る目のうち。❷物事を軽蔑するときに用いる語。

あらそう―**あるく**

あらそう

あらそう

**あらそう

おうらい【往来】（名）①行き来すること。交通。②道路。③手紙。④取引。売買。⑤評判。うわさ。

おうらい【横来】（名）横から来ること。

おうらい【黄雷】（名）黄色の雷。

おうらい【黄礼】（名）黄色の礼服。

おうらい【黄蕾】（名）黄色のつぼみ。

おうらい【黄癩】（名）黄色のかさぶた。

おうらい【黄癘】（名）黄色の悪性の皮膚病。

おうらい【黄癲】（名）黄色の癲病

きおく-りょく【記憶力】(名) 記憶の能力。

記憶作用の働きをする力。——-ほう【記憶術】(名) 記憶作用に基づいて、機械的に記憶を便ならしむる方法。「つねむ」

きおく-だくれ【氣疲】(名) 疲れて勢のなくなること。

きおく-だち【氣落】(名) 失望して心配すること。(俗語)

きおく-がち【氣重】(名) 氣力引きたゝざること。氣のまゝ。

きおく-か【閣下】(名) ❶机の下。❷多く文書に人の宛名の下に書く語。おもに「侍者」「足下」「尊下」

きおく-か【麾下】(代) 指揮を合わす部下の代名詞。おもに「尊下」

きおく-か【幾何】(名) 【數】幾何學の略。

きおく-か【末次】(名) 後の方の次の者が前にうつりたるもの。そのにはひ。

きおく-か【肌膚】(名) うわべ。うち。「一に過ぎず」

きおく-か【鐵砲】(名) 副 高くそびえるさまにいふ語。「一中天にそびゆ」

きおく-か【氣燄】(名) ❶勢の下一寸先の處の煙。古來時候の根ざす處といふ。❷大家中の煙。

きおく-か【器械】(名) ❶うつはもの。うつはだ。❷機械に同じ。——-たいそう【器械體操】(名) 體操の一種。鐵棒・木馬・鞦韆などの器械により行ふもの。

きおく-か【機械】(名) ❶からくり。えんぴ。❷機巧により自然力を結合して成る器具。最初其運動の方向を誘導したるものにて、血力或はより血力を誘導したるものにて、これを力つて勢力的勢力的のものにて、勢力的とは、曲力を藉して勢力に代よるものにて、流水機械の如きものをいひ、勢力的代よるものにて、機械の如きものをいひ、勢力的とは、曲力を藉して勢力に代よるものにて、

きかく-おとす［回五］（名）国を奪ひとること。
きかく-おとし［回五］（名）国を奪ひとりたること。

{きかく-おしゃべり}［回五］（名）物事を聞くに其事柄のたくさんなること。「記録（筆記）」

きかく-かき［回書］（名）聞きて書き取ること。又、其書。
きかく-かおり［回嗅］（名）香をかぐこと。
きかく-かぎ・る［回嗅］（他、ら四）❶よくかぎて聞かずして少し聞く。❷其物事の皮相又は端緒のみを聞きてそこしと知る。

きかく-きょう［音経］（名）❶［植］花の萼の名なる称。❷かねの口の内面は底にして音は清きもの。

きかく-ざる・し［回苦］（形、二）聞くに忍びず。聞くにつらし。

きかく-しゅうしゅう［音々啾啾］（名）極めて寄生なる虫などのやかましく鳴くこと。「の鳴」

きかく-しょう［利鈍］（名）鋭利の鈍の金属・銀器など。

{きかく-さけ}［回酒］（名）酒を少し味ひて良否をためすために飲む酒。

きかく-ず・す［回差］（他、さ四）よくは聞かずして出す。

‡きかく-し［維子］（名）【動】維の古名（旧蚕、銀蚕）。
‡きかく-す（名）【動】蛾蝶に同じ。「蚕の一」

きかく-すてし［回頭］（名）ものうたて。
きかく-すて・す［回頭］（他、さ四）聞きたて。
きかく-すて・し［回頭］（名）ものうたて。
きかく-すて・す［回過］（他、さ四）❶聞きて其ままにしおく。❷頭痛に心をこめ聞きて、其ままに打ちすておく。「聞きながら、ものうたて。

きかく-す・つ［回捨］（他、た下二）聞きて其ままにうちすておく。「聞きながら、ものうたて。

きかく-すま・す［回済］（他、さ四）聞きて其ままにうちすておく。

きかく-すま・る［回済］（自、ら下二）聞きて其ままにうちすておく。

きかく-すみ［回済］（名）聞きて其ままにうちすてること。

きかく-せ［利瀬］（名）よく利（き）たる瀬。
きかく-せ［回瀬］（名）よく注意して聞くべき所。聞く甲斐ある所。

きかく-そこな・う［回損］（他、わ五）聞きて人を誤り、話可笑しくする。話可笑しくして人を誤る。

きかく-そこない［回損］（名）聞きて人を誤り、話可笑しくすること。話可笑しくして人を誤ること。

きかく-そこね［回損］（名）聞きて人を誤り、話可笑しくすること。話可笑しくして人を誤ること。

きかく-そこ・ねる［回損］（他、ら下一）聞きて人を誤り、話可笑しくする。話可笑しくして人を誤る。

きかく-そこ・なう［回損］（他、わ五）聞きて人を誤り、話可笑しくする。話可笑しくして人を誤る。

きかく-そこ・なわ・す［回損］（他、さ四）聞きて人を誤り、話可笑しくする。話可笑しくして人を誤る。

きかく-そこ・なわ・る［回損］（自、ら下二）聞きて人を誤り、話可笑しくする。話可笑しくして人を誤る

ぎょうにん　ぎょうれつ　きゅうしょく　きゅうりょう　ぎょくせき　きょくせん　きょくとう　きょくめん　きょくりょく　きょくろ　きょしゅつ　きょぜつ　きょだい　きょねん　きょひ　きょり　きょりょく　きょれつ　きらう　きらく　きらめく　きり　きりかぶ　きりかぶ　きりかぶ

ぎょうせい【行政】名 国家の統治作用のうち、立法・司法以外の作用。

ぎょうせいかんちょう【行政官庁】名 行政事務を執る官庁。

ぎょうせいきかん【行政機関】名 行政事務を執る機関。

ぎょうせいけんりょく【行政権】名 行政を行う国家の権力。

ぎょうせいさいばんしょ【行政裁判所】名 行政事件の裁判をする裁判所。

ぎょうせいしょ【行政処分】名 行政官庁が行う処分。

ぎょうせいそしょう【行政訴訟】名 行政事件の訴訟。

ぎょうせいちょう【行政庁】名 行政官庁。

ぎょうせいほう【行政法】名 行政に関する法律。

ぎょうせき【業績】名 仕事の成績。

ぎょうそう【行装】名 旅行の服装。

ぎょうそう【形相】名 ❶ 顔つき。❷ 物事の様子。

ぎょうそう【業相】名 仏語。業の現れ。

ぎょうそう【業想】名 仏語。業の報いを受ける因となる思い。

ぎょうそう【業草】名 仏語。業の報いを受ける因となる草。

ぎょうそう【業増】名 仏語。業の報いを受ける因となる増。

ぎょうそう【業僧】名 仏語。業の報いを受ける因となる僧。

ぎょうそう【業層】名 仏語。業の報いを受ける因となる層。

ぎょうそう【業曾】名 仏語。業の報いを受ける因となる曾。

ぎょうそう【業総】名 仏語。業の報いを受ける因となる総

きんえん【禁煙】(名) 煙草を吸ふことを禁ずること。

きんえん【近縁】(名) 近い縁故。

きんえん【金円】(名) 金貨と銀貨。

きんえん【金縁】(名) 金ぶちのめがね。

きんえん【金鉛】(名) 金属活字の材料。

きんえん【金塩】(名) 金の化合物。

きんえん【金煙】(名) 金粉を吹きかけて描いた絵。

きんえん【金園】(名) 金色の花の咲く園。

きんえん【金猿】(名) 金色の猿。

きんえん【金鉛】(名) 金属活字の材料。

きんえん【金塩】(名) 金の化合物。

きんえん【金煙】(名) 金粉を吹きかけて描いた絵。

きんえん【金園】(名) 金色の花の咲く園。

きんえん【金猿】(名) 金色の猿。

きんえん【金縁】(名) 金ぶちのめがね。

きんえん【金円】(名) 金貨と銀貨。

きんえん【近縁】(名) 近い縁故。

きんえん【禁煙】(名) 煙草を吸ふことを禁ずること

（名）●十百貨、何上古百貨の略。●一ばんち　一番地。（名）●一ばんぼし　一番星。（名）●一ばんめ　一番目。（名）●一ばんやり　一番槍。（名）●一ばんりき　一番力。（名）●一ばんりょう　一番料。（名）●一ばんわり　一番割。（名）●一ばんわるい　一番悪い。（名）●一ばんわるもの　一番悪者。（名）●一ばんわるもの　一番悪者。（名）●一ばんわるもの　一番悪者

きこしめす〔聞食〕(他サ四) ❶聞くの敬語。❷食うの敬語。

きこり〔樵〕(名) 木を伐ることを業とする人。

きこる〔聞こる〕(自ラ四) 聞こえる。

きこん〔既婚〕(名) 既に婚姻をしたこと。

きこん〔既墾〕(名) 既に墾田となしたる土地。

きこん〔既墾地〕(名) 既に墾田となしたる土地。

きこん〔既婚者〕(名) 既に婚姻をしたる者。

きこん〔既墾田〕(名) 既に墾田となしたる田

ほ〜ほひは

ほうき（名）[植物]イネ科の多年草。

ほうき（名）[道具]ごみなどをはき集めるための道具。

ほうき（名）[鳥]ホウキ科の鳥。

ほうき（名）[地名]

ほうき（名）[姓]

ほうき（名）[地名]

ほうき（名）[姓]

ほうき（名）[地名]

ほうき（名）[姓]

ことばの泉　[言葉の泉]（名）言葉を泉にたとえた語。

ことばの花束　[言葉の花束]（名）美しい言葉を集めたもの。

ことばの林　[言葉の林]（名）言葉が多いことを林にたとえた語。

ことばの宝石　[言葉の宝石]（名）美しい言葉を宝石にたとえた語。

ことばの森　[言葉の森]（名）言葉が多いことを森にたとえた語。

ことばの山　[言葉の山]（名）言葉が多いことを山にたとえた語。

ことばの雪　[言葉の雪]（名）言葉が多いことを雪にたとえた語。

ことばの雨　[言葉の雨]（名）言葉が多いことを雨にたとえた語。

ことばの矢　[言葉の矢]（名）言葉を矢にたとえた語。

ことばの綾　[言葉の綾]（名）巧みな言葉の表現。

ことばの海　[言葉の海]（名）言葉が多いことを海にたとえた語。

ことばの川　[言葉の川]（名）言葉が多いことを川にたとえた語。

ことばの花　[言葉の花]（名）美しい言葉を花にたとえた語。

ことばの壁　[言葉の壁]（名）言葉が通じないことを壁にたとえた語。

ことばの橋　[言葉の橋]（名）言葉を橋にたとえた語。

ことばの星　[言葉の星]（名）言葉が多いことを星にたとえた語。

ことばの道　[言葉の道]（名）言葉を道にたとえた語。

ことばの森　[言葉の森]（名）言葉が多いことを森にたとえた語。

ことばの山　[言葉の山]（名）言葉が多いことを山にたとえた語。

ことばの雪　[言葉の雪]（名）言葉が多いことを雪にたとえた語。

ことばの雨　[言葉の雨]（名）言葉が多いことを雨にたとえた語。

ことばの矢　[言葉の矢]（名）言葉を矢にたとえた語。

ことばの綾　[言葉の綾]（名）巧みな言葉の表現。

ことばの海　[言葉の海]（名）言葉が多いことを海にたとえた語。

ことばの川　[言葉の川]（名）言葉が多いことを川にたとえた語。

ことばの花　[言葉の花]（名）美しい言葉を花にたとえた語。

ことばの壁　[言葉の壁]（名）言葉が通じないことを壁にたとえた語。

ことばの橋　[言葉の橋]（名）言葉を橋にたとえた語。

ことばの星　[言葉の星]（名）言葉が多いことを星にたとえた語。

ことばの道　[言葉の道]（名）言葉を道にたとえた語。

ことばの森　[言葉の森]（名）言葉が多いことを森にたとえた語。

ことばの山　[言葉の山]（名）言葉が多いことを山にたとえた語。

ことばの雪　[言葉の雪]（名）言葉が多いことを雪にたとえた語。

ことばの雨　[言葉の雨]（名）言葉が多いことを雨にたとえた語。

ことばの矢　[言葉の矢]（名）言葉を矢にたとえた語。

ことばの綾　[言葉の綾]（名）巧みな言葉の表現。

ことばの海　[言葉の海]（名）言葉が多いことを海にたとえた語。

ことばの川　[言葉の川]（名）言葉が多いことを川にたとえた語。

ことばの花　[言葉の花]（名）美しい言葉を花にたとえた語。

ことばの壁　[言葉の壁]（名）言葉が通じないことを壁にたとえた語。

ことばの橋　[言葉の橋]（名）言葉を橋にたとえた語。

ことばの星　[言葉の星]（名）言葉が多いことを星にたとえた語。

ことばの道　[言葉の道]（名）言葉を道にたとえた語。

ことばの森　[言葉の森]（名）言葉が多いことを森にたとえた語。

ことばの山　[言葉の山]（名）言葉が多いことを山にたとえた語。

ことばの雪　[言葉の雪]（名）言葉が多いことを雪にたとえた語。

ことばの雨　[言葉の雨]（名）言葉が多いことを雨にたとえた語。

ことばの矢　[言葉の矢]（名）言葉を矢にたとえた語。

ことばの綾　[言葉の綾]（名）巧みな言葉の表現。

ことばの海　[言葉の海]（名）言葉が多いことを海にたとえた語。

ことばの川　[言葉の川]（名）言葉が多いことを川にたとえた語。

ことばの花　[言葉の花]（名）美しい言葉を花にたとえた語。

ことばの壁　[言葉の壁]（名）言葉が通じないことを壁にたとえた語。

ことばの橋　[言葉の橋]（名）言葉を橋にたとえた語。

ことばの星　[言葉の星]（名）言葉が多いことを星にたとえた語。

ことばの道　[言葉の道]（名）言葉を道にたとえた語。

ことばの森　[言葉の森]（名）言葉が多いことを森にたとえた語。

ことばの山　[言葉の山]（名）言葉が多いことを山にたとえた語。

ことばの雪　[言葉の雪]（名）言葉が多いことを雪にたとえた語。

ことばの雨　[言葉の雨]（名）言葉が多いことを雨にたとえた語。

ことばの矢　[言葉の矢]（名）言葉を矢にたとえた語。

ことばの綾　[言葉の綾]（名）巧みな言葉の表現。

ことばの海　[言葉の海]（名）言葉が多いことを海にたとえた語。

ことばの川　[言葉の川]（名）言葉が多いことを川にたとえた語。

ことばの花　[言葉の花]（名）美しい言葉を花にたとえた語。

ことばの壁　[言葉の壁]（名）言葉が通じないことを壁にたとえた語。

ことばの橋　[言葉の橋]（名）言葉を橋にたとえた語。

ことばの星　[言葉の星]（名）言葉が多いことを星にたとえた語。

ことばの道　[言葉の道]（名）言葉を道にたとえた語。

あいさつ 挨拶 [名] 人と人とが取り交わす儀礼的な言葉や動作。「―に困る」「―回り」「―状」「―を交わす」「―抜きで話そう」「時候の―」「―代わりに一筆申し上げます」「―が遅れてすみません」「―が上手だ」「―が行き届く」「―が済む」「―に来る」「―もろくにできない」「―もろくに返せない」「―をする」「―をしない」「―をしに来ただけだ」「―をしに来ただけだ」「―をしに来ただけだ

新しい（形）[文]シク　**新しき**（連体）　**新しく**（副）　**新しき**（名）　**新しさ**（名）　**新しげ**（形動）　**新しがる**（動）　**新しがり**（名）　**新しがり屋**（名

あかい【赤い】(形)(文)あか・し(ク)　①赤色である。「―・い夕焼け」「―・い顔」「―・い実」　②(「赤い恥」の形で)恥ずかしい。「―・い恥をかく」　③(「赤い心」の形で)まごころがある。「―・い心を持つ」　④(「赤い字」の形で)赤字である。「―・い字で書く」　⑤(「赤い人」の形で)共産主義者である。「―・い人と交わる」　⑥(「赤い金」の形で)不正な金である。「―・い金をもうける」　⑦(「赤い」の形で)貧しい。「―・い暮らし」　⑧(「赤い」の形で)共産主義的である。「―・い思想」

あかいし【赤石】(名)　①赤い石。　②赤い色の石。

あかいしんごう【赤信号】(名)　①赤色の信号。　②危険を知らせる信号。

あかいと【赤糸】(名)　①赤い色の糸。　②赤い色の毛糸。

あかいとり【赤鳥】(名)　①赤い色の鳥。　②赤い色の鳥の形をした風見。

あかいぬの【赤い布】(名)　①赤い色の布。　②赤い色の布の形をした風見。

あかいはな【赤い花】(名)　①赤い色の花。　②赤い色の花の形をした風見。

あかいはね【赤い羽】(名)　①赤い色の羽。　②赤い色の羽の形をした風見。

あかいひ【赤い日】(名)　①赤い色の日。　②赤い色の日の形をした風見。

あかいふね【赤い船】(名)　①赤い色の船。　②赤い色の船の形をした風見。

あかいへび【赤い蛇】(名)　①赤い色の蛇。　②赤い色の蛇の形をした風見。

あかいほし【赤い星】(名)　①赤い色の星。　②赤い色の星の形をした風見。

あかいまち【赤い町】(名)　①赤い色の町。　②赤い色の町の形をした風見。

あかいみち【赤い道】(名)　①赤い色の道。　②赤い色の道の形をした風見。

あかいむら【赤い村】(名)　①赤い色の村。　②赤い色の村の形をした風見。

あかいめ【赤い目】(名)　①赤い色の目。　②赤い色の目の形をした風見。

あかいもの【赤い物】(名)　①赤い色の物。　②赤い色の物の形をした風見。

あかいやま【赤い山】(名)　①赤い色の山。　②赤い色の山の形をした風見。

あかいゆき【赤い雪】(名)　①赤い色の雪。　②赤い色の雪の形をした風見。

あかいよる【赤い夜】(名)　①赤い色の夜。　②赤い色の夜の形をした風見。

あかいろ【赤い色】(名)　①赤い色。　②赤い色の形をした風見。

あかいわ【赤い輪】(名)　①赤い色の輪。　②赤い色の輪の形をした風見。

あかうし【赤牛】(名)　①赤い色の牛。　②赤い色の牛の形をした風見。

あかうま【赤馬】(名)　①赤い色の馬。　②赤い色の馬の形をした風見。

あかえ【赤絵】(名)　①赤い色の絵。　②赤い色の絵の形をした風見。

あかえのぐ【赤絵の具】(名)　①赤い色の絵の具。　②赤い色の絵の具の形をした風見。

あかえんぴつ【赤鉛筆】(名)　①赤い色の鉛筆。　②赤い色の鉛筆の形をした風見。

あかおび【赤帯】(名)　①赤い色の帯。　②赤い色の帯の形をした風見。

あかがい【赤貝】(名)　①赤い色の貝。　②赤い色の貝の形をした風見。

あかがえる【赤蛙】(名)　①赤い色の蛙。　②赤い色の蛙の形をした風見。

あかがね【赤金】(名)　①赤い色の金。　②赤い色の金の形をした風見。

あかがみ【赤紙】(名)　①赤い色の紙。　②赤い色の紙の形をした風見。

あかがわ【赤革】(名)　①赤い色の革。　②赤い色の革の形をした風見。

あかぎ【赤木】(名)　①赤い色の木。　②赤い色の木の形をした風見。

あかぎれ【皹】(名)　寒さのために手足の皮膚が裂けること。また、その裂け目。

あかぐつ【赤靴】(名)　①赤い色の靴。　②赤い色の靴の形をした風見。

あかぐみ【赤組】(名)　①赤い色の組。　②赤い色の組の形をした風見。

あかくも【赤雲】(名)　①赤い色の雲。　②赤い色の雲の形をした風見。

あかくり【赤栗】(名)　①赤い色の栗。　②赤い色の栗の形をした風見。

あかくろ【赤黒】(名)　①赤い色の黒。　②赤い色の黒の形をした風見。

あかげ【赤毛】(名)　①赤い色の毛。　②赤い色の毛の形をした風見。

あかげっこう【赤月光】(名)　①赤い色の月光。　②赤い色の月光

新語辞典

新語辞典

新語辞典

（新旧対照表）

（新）

（旧）

（新）

（旧）

（新）

（旧

はきょう【破鏡】(名) ①こわれた鏡。②夫婦の仲が離れること。離縁。

はきょく【破局】(名) 物事がだめになる最後の局面。「—を迎える」

はきょく【破極】(名) 〔理〕電気分解で、陰極。

はきょく【破棄】(名) ①こわすこと。②〔法〕原判決を取り消すこと。「原判決を—する」

はきょく【破毀】(名) 〔法〕破棄。

はきょく【破曲】(名) 〔理〕音波の干渉で、音が弱くなること。

はきょく【破局】(名) 〔理〕音波の干渉で、音が弱くなること。

はきょく【破極】(名) 〔理〕電気分解で、陰極。

はきょく【破棄】(名) ①こわすこと。②〔法〕原判決を取り消すこと。「原判決を—する」

はきょく【破毀】(名) 〔法〕破棄。

はきょく【破曲】(名) 〔理〕音波の干渉で、音が弱くなること。

はきょく【破局】(名) 物事がだめになる最後の局面。「—を迎える」

ぎょうれつ　ぎょうわ　きょうわ　ぎょうわ　ぎょうわ　ぎ

漢字から（かんじから）[名] 字体組 [名] 字探索 [名] 字探索 [名] 字探索

あかつき　[名]　[暁]　夜明け。

あかつち　[名]　[赤土]　赤い土。

あかつめくさ　[名]　[赤詰草]　[植]　マメ科の二年草。

あかつり　[名]　[赤釣]　[魚]　タイ科の海魚

かたかな 片仮名 [名] 漢字の一部分をとって作った日本の文字。「イ」「ロ」「ハ」など。

かたがわ 片側 [名] ①一つの側。②道路の一方の側。

かたき 敵 [名] ①戦う相手。②恨みを持つ相手。

かたくな 頑な [形動] 自分の考えを変えようとしないさま。

かたち 形 [名] ①物の外側に現れた姿。②物事の内容。

かたづく 片付く [動] ①整理される。②解決する。

かたづける 片付ける [動] ①整理する。②解決する。

かたな 刀 [名] 武士が腰に差した武器。

かたまり 塊 [名] 固まって一つになったもの。

かたまる 固まる [動] ①固くなる。②一つになる。

かたみち 片道 [名] ①往復のうちの一方の道。②「片道切符」の略。

かたむく 傾く [動] ①斜めになる。②衰える。

かたむける 傾ける [動] ①斜めにする。②力を尽くす。

かたよる 偏る [動] ①一方に寄る。②公平でない。

かたる 語る [動] 話す。

かたる 騙る [動] だまして金品を取る。

かち 価値 [名] ①値打ち。②役に立つこと。

かつ 勝つ [動] ①相手を負かす。②優れる。

がっかり [副] 失望するさま。

がっき 楽器 [名] 音楽を演奏する道具。

がっこう 学校 [名] 教育を行う施設。

かつて 嘗て [副] 以前に。

かつやく 活躍 [名] 目覚ましく働くこと。

かつら 桂 [名] ①月の異名。②カツラ科の木。

かつら 鬘 [名] 頭髪の代用品。

かつらぎ 葛城 [名] 奈良県と大阪府の境の山。

かつらぎやま 葛城山 [名] 葛城山脈の主峰。

かつりょく 活力 [名] 生き生きした力。

かて 糧 [名] ①食物。②精神的な支え。

かど 角 [名] ①物の隅。②曲がり目。

かど 門 [名] 家の出入口。

かとう 下等 [名] 程度の低いこと。

かとう 加藤 [名] 姓の一つ。

かとう 過当 [名] 適度を超えること。

かとう 華燈 [名] 美しい灯火。

かとう 華東 [名] 中国の地方名。

かとう 華冬 [名] 冬の異名。

かとう 華灯 [名] 美しい灯火。

かとう 華堂 [名] 美しい建物。

かとう 華道 [名] 生け花の道

（新潮社）（名）「新潮」の発行所。

しんちょうしゃ 新潮社（名）「新潮」の発行所。

しんちょうしゅ 新潮種（名）新しい品種。

しんちょうしゅぎ 新潮主義（名）新しい傾向。

しんちょうしゅぎ 新重商主義（名）新しい重商主義。

しんちょうしゅぎ 新重農主義（名）新しい重農主義。

しんちょうしゅぎ 新重農学派（名）新しい重農学派

(きょうわ)[共和](名) 二人以上のものが共同して政治を行うこと。「——こくみん」——こく[共和国](名) 共和国體の國。——こくたい[共和国體](名) 國法上尊卑の地位を占むるものが二人以上ある國體。又、國法上尊卑の位地を占むるものを大統領と稱し、人民の選擧によりてこれを定むる國體。——せいじ[共和政治](名) 國法上尊卑の地位あるもの二人以上の共同によりて行はるゝ政治。人民の選擧せる大統領によりて施行せらるゝ政治。共和國の政治。——せいど[共和政治](名) 共和政治の制度。

(きょえい)[虚栄](名) 眞實の價値もなき外見上のさかえ又は榮譽。——しん[虚栄心](名) 虚榮をおもんずる心。

(きょえき)[営業](名) こゝろわざに同じ。——したん[営業税](名) 營業の名目に於ける租税。

(きょか)[許可](名) ゆるすこと。ゆるし。

(きょか)[許嫁](名) いいなずけ。

(きょかく)[虚郭](名) 城内の全體。「金城、國郭」。

(きょかく)[虚閣](名) 廣大の家。

(きょか)[虚架](名) 廣大の家。

(きょか)[虚歌](名) 廣大のうたうた歌。

(きょか)[御下](名) 天子などの御座。

(きょかん)[御感](名) 天子などの御感。

(きょかい)[魚介](名) 魚類と貝類と。即ち水産動物の總稱。「はやけになすこと。

(きょこう)[挙行](名) 事業をしおこなうこと。おこなうこと。

(きょこう)[虚構](名) ❶おこなうこと。❷虚偽に構造すること。

(きょこう)[虚耗](名) ❶おとろえ費やすこと。

(きょこう)[虚行](名) 虚偽にしおこなうこと。おこなうこと。

(きょこう)[虚号](名) 實際に伴はざる名號。

(きょこう)[虚功](名) 實際に伴はざる功績。

(きょこう)[虚構](名) ❶事實のあとづくたること。

(きょこう)[御幸](名) みゆき。

(きょこう)[御講](名) 皇城のみ。おはり。

(きょこう)[清書](名) 下書をとゝのへ新に正しく書くこと。(清書)

(きょこく)[巨国](名) かず多きこと。

(きょこく)[虚国](名) 國勢を張りてあどすこと。實者を以てあどすこと。

(きょこん)[巨根](名) 明かにものごとをきわめざること。

(きょこん)[拒根](名) 明かに物事を解釋すること。

(きょこん)[巨根](名) ぬだまのふとさ。

(きょこん)[御懇](名) 主上の恩者。おぼしめし。「——を蒙る」

(きょさ)[欠](名) ❶かけ。❷[缺](名) ❶かけ。❷[虚](名) いつはり。

(きょさ)[虚偽](名) いつはりの儀式。かざりばかりの儀式。「舍の敬稱」

(きょさ)[御台](名) 將軍又は攝御等の年齢の法

(きょさつ)[去月](名) 其月より前ひと月。「——(きょげつ)。先々月」

(きょさつじつ)[去去日](名) をとゝひ。「昨日」。

(きょさつじつ)[虚虚実実](名) 互に計略又は技倆を盡しあふ盛に策と相應ずること。

(きょさつねん)[去去年](名) をとゝし。「一昨年」

(きょさつ)[遊説](名) ❶にはかごと。❷おもむきをとき盛に相應ずること。

(きょさん)[醵金](名) 多人數より金をよせあつめること。「——して旅費にあてる」

(きょし)[山](名) ❶たゝしいかゝはしきこと。❷ナカ。「同一」。❸ことわけ。

(きょしゅ)[巨手](名) 大きなる手。

(きょしゅ)[挙手](名) 手をあげること。

(きょしゅ)[虚主](名) 實際に伴はざる主人。

(きょしゅ)[虚守](名) 名ばかりにて守ること。

(きょしゅ)[虚数](名) 數學上の假定數。

(きょしゅ)[虚酒](名) 酒をのまざること。

(きょしゅ)[虚種](名) 實際に伴はざる種類。

(きょしゅう)[虚臭](名) 實際に伴はざる臭氣。

(きょしゅう)[虚習](名) 實際に伴はざる習慣。

(きょしゅう)[虚集](名) 實際に伴はざる集會。

(きょしゅう)[虚住](名) 實際に伴はざる住居。

(きょしゅう)[虚重](名) 實際に伴はざる重量。

(きょしゅう)[虚従](名) 實際に伴はざる從者。

(きょしゅう)[虚収](名) 實際に伴はざる收入

のはねになとてつたはきせすしさこけくさかもえういも

（ぎょくえ）[玉江]（名）美しい入江。

（ぎょくえだ）[玉枝]（名）美しい枝。

（ぎょくえだ）[玉肢]（名）美しい手足。

（ぎょくえだ）[玉体]（名）身体の敬称。からだ。

（ぎょくえだま）[玉枝]（名）玉にて飾りたる枝。

（ぎょくえだま）[玉代]（名）装束・調度などをかぞえる一定の数。

（ぎょくえん）[極遠]（名）❶どこまでもはてしのないこと。❷中正をはずれたるもの。「一の論」

（ぎょくえん）[極致]（名）十分に其極をつくしたるところ。きわめ。「美術の一」

（ぎょくえんきょく）[局長]（名）局中一切の事務をすべて局員をとりまとめる総名。局の長官。

（ぎょくえんきょく）[玉喉]（名）喉笛・咽喉などの玉代を記する帳面。「え」正之部之。

（ぎょくえんきょく）[山査]（名）まがれるとうげ。

（ぎょくえんこん）[極遠]（名）きわめて遠きこと。

（ぎょくえんど）[極度]（名）限りなく極まりたる度合。つかえよくべんは「一の一」

（ぎょくえんど）[玉宛]（名）貴中に送る書状のあて名の敬称。（脇付）

（ぎょくえんどう）[極東]（名）東洋諸国中最も東方に位する地方。即ち我国及アジア大陸の東部並に其地方の総称。「一の風雲」——**ぶんだい**[極東問題]（名）極東に於ける各国の地方及利益に関する各国の紛糾。

（ぎょくえんどう）[曲突]（名）かまどのひねりだし。

（ぎょくえんどり）[山鳥]（名）雉の雄。

（ぎょくえんのり）[山乗]（名）目先のかわりたる乗馬のこと。

（ぎょくえんば）[山馬]（名）馬を放ちて、国々目先のかはりたるおもむきをたのしみ、又は馬上にて国々目先のかはりたるおもむきをたのしむこと。

（ぎょくおう）[王桜]（名）❶さくらの一種。❷桜の美称。

（ぎょくおう）[王鶯]（名）鶯の美称。

（ぎょくおう）[王桜]（名）❶さくらの一種。❷桜の美称。

（ぎょくおう）[王鶯]（名）鶯の美称。

（ぎょくおく）[玉屋]（名）❶美しき家。❷貴人の家。

（ぎょくおく）[玉屋]（名）❶美しき家。❷貴人の家。

（ぎょくおん）[玉音]（名）❶美しき音。❷貴人の音声。

（ぎょくおん）[玉音]（名）❶美しき音。❷貴人の音声。

（ぎょくおん）[玉恩]（名）君恩。

（ぎょくおん）[玉恩]（名）君恩。

（ぎょくおん）[玉温]（名）温泉。

（ぎょくおん）[玉温]（名）温泉。

（ぎょくおん）[玉穏]（名）平穏。

（ぎょくおん）[玉穏]（名）平穏。

（ぎょくおん）[玉音]（名）❶美しき音。❷貴人の音声。

（ぎょくおん）[玉音]（名）❶美しき音。❷貴人の音声。

（ぎょくおん）[玉恩]（名）君恩。

（ぎょくおん）[玉恩]（名）君恩。

（ぎょくおん）[玉温]（名）温泉。

（ぎょくおん）[玉温]（名）温泉。

（ぎょくおん）[玉穏]（名）平穏。

（ぎょくおん）[玉穏]（名）平穏。

（ぎょくおんきょく）[極遠]（名）❶どこまでもはてしのないこと。❷中正をはずれたるもの。「一の論」

（ぎょくおんきょく）[極遠]（名）❶どこまでもはてしのないこと。❷中正をはずれたるもの。「一の論」

（ぎょくおんきょく）[極致]（名）十分に其極をつくしたるところ。きわめ。「美術の一」

（ぎょくおんきょく）[極致]（名）十分に其極をつくしたるところ。きわめ。「美術の一」

（ぎょくおんきょく）[局長]（名）局中一切の事務をすべて局員をとりまとめる総名。局の長官。

（ぎょくおんきょく）[局長]（名）局中一切の事務をすべて局員をとりまとめる総名。局の長官。

（ぎょくおんきょく）[玉喉]（名）喉笛・咽喉などの玉代を記する帳面。「え」正之部之。

（ぎょくおんきょく）[玉喉]（名）喉笛・咽喉などの玉代を記する帳面。「え」正之部之。

（ぎょくおんきょく）[山査]（名）まがれるとうげ。

（ぎょくおんきょく）[山査]（名）まがれるとうげ。

（ぎょくおんこん）[極遠]（名）きわめて遠きこと。

（ぎょくおんこん）[極遠]（名）きわめて遠きこと。

（ぎょくおんど）[極度]（名）限りなく極まりたる度合。つかえよくべんは「一の一」

（ぎょくおんど）[極度]（名）限りなく極まりたる度合。つかえよくべんは「一の一」

（ぎょくおんど）[玉宛]（名）貴中に送る書状のあて名の敬称。（脇付）

（ぎょくおんど）[玉宛]（名）貴中に送る書状のあて名の敬称。（脇付）

（ぎょくおんどう）[極東]（名）東洋諸国中最も東方に位する地方。即ち我国及アジア大陸の東部並に其地方の総称。「一の風雲」——**ぶんだい**[極東問題]（名）極東に於ける各国の地方及利益に関する各国の紛糾。

（ぎょくおんどう）[極東]（名）東洋諸国中最も東方に位する地方。即ち我国及アジア大陸の東部並に其地方の総称。「一の風雲」——**ぶんだい**[極東問題]（名）極東に於ける各国の地方及利益に関する各国の紛糾。

（ぎょくおんどう）[曲突]（名）かまどのひねりだし。

（ぎょくおんどう）[曲突]（名）かまどのひねりだし。

（ぎょくおんどり）[山鳥]（名）雉の雄。

（ぎょくおんどり）[山鳥]（名）雉の雄。

（ぎょくおんのり）[山乗]（名）目先のかわりたる乗馬のこと。

（ぎょくおんのり）[山乗]（名）目先のかわりたる乗馬のこと。

（ぎょくおんば）[山馬]（名）馬を放ちて、国々目先のかはりたるおもむきをたのしみ、又は馬上にて国々目先のかはりたるおもむきをたのしむこと。

（ぎょくおんば）[山馬]（名）馬を放ちて、国々目先のかはりたるおもむきをたのしみ、又は馬上にて国々目先のかはりたるおもむきをたのしむこと。

（ぎょくかい）[玉塊]（名）❶美しき塊。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉塊]（名）❶美しき塊。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉階]（名）❶美しき階。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉階]（名）❶美しき階。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉海]（名）❶美しき海。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉海]（名）❶美しき海。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉貝]（名）❶美しき貝。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉貝]（名）❶美しき貝。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉界]（名）❶美しき境。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉界]（名）❶美しき境。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉会]（名）❶美しき会。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉会]（名）❶美しき会。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉回]（名）❶美しき回。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉回]（名）❶美しき回。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉会]（名）❶美しき会。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉会]（名）❶美しき会。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉回]（名）❶美しき回。❷貴人の身体。

（ぎょくかい）[玉回]（名）❶美しき回。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉階]（名）❶美しき階。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉階]（名）❶美しき階。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉体]（名）❶美しき体。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉体]（名）❶美しき体。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉代]（名）装束・調度などをかぞえる一定の数。

（ぎょくかいだん）[玉代]（名）装束・調度などをかぞえる一定の数。

（ぎょくかいだん）[玉体]（名）❶美しき体。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉体]（名）❶美しき体。❷貴人の身体。

（ぎょくかいだん）[玉代]（名）装束・調度などをかぞえる一定の数。

（ぎょくかいだん）[玉代]（名）装束・調度などをかぞえる一定の数。

（ぎょくかく）[玉角]（名）❶美しき角。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉角]（名）❶美しき角。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉閣]（名）❶美しき閣。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉閣]（名）❶美しき閣。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉格]（名）❶美しき格。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉格]（名）❶美しき格。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉角]（名）❶美しき角。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉角]（名）❶美しき角。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉閣]（名）❶美しき閣。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉閣]（名）❶美しき閣。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉格]（名）❶美しき格。❷貴人の身体。

（ぎょくかく）[玉格]（名）❶美しき格。❷貴人の身体。

（ぎょくかくだい）[極大]（名）❶きわめて大きなること。❷[数]函数が一定の法則に従って変化するとき、漸々減少し来りて、遂に増大し初めんとする點に達したるときの値

ゆうべ　昨夜　**ゆうべ**　夕べ　**ゆうべ**　夜前　**ゆうべ**　宵の間　**ゆうべ**　昨晩　**ゆうべ**　昨夜　**ゆうべ**　夜前　**ゆうべ**　夕べ

あいさつ-あいさつ【挨拶】(名)(する)①禅宗で、修行者の悟りの深浅を問答によって試すこと。②応答。返事。③人と会ったときや別れるときなどに、礼儀として取り交わす言葉や動作。④(―する)交渉。談判。⑤(―する)口上。⑥(―する)祝いや悔やみなどの儀礼的な口上。⑦(―する)仲裁。⑧(―する)遠まわしに相手の意向をただすこと。⑨(―する)相手の出方をうかがうこと。⑩(―する)文書で通知すること。⑪(―する)文書で回答すること。⑫(―する)文書で申し込むこと。⑬(―する)文書で祝いや悔やみなどを述べること。⑭(―する)文書で交渉すること。⑮(―する)文書で仲裁すること。⑯(―する)文書で相手の意向をただすこと。⑰(―する)文書で相手の出方をうかがうこと。

きりかぶ【切株】(名) 木を切ったあとに残る根もと。

きりかぶ【切傅】(名) 切り口に薬をつけること。

きりかぶ【切符】(名) 乗車券・入場券など、一定の金額・区間・資格などを証明する券。

きりかぶ【切腹】(名) 自分で腹を切って死ぬこと。

きりかぶ【切迫】(名) 事態が差し迫ること。

きりかぶ【切望】(名) 強く望むこと。

きりかぶ【切磋琢磨】(名) 学問・技芸などを互いに競い合って向上すること。

きりかぶ【切歯】(名) 歯ぎしりすること。

きりかぶ【切歯扼腕】(名) 歯ぎしりし、腕をにぎりしめること。

きりかぶ【切実】(形動) 身にしみて感じるさま。

きりかぶ【切除】(名) 切り取ること。

きりかぶ【切傷】(名) 刃物で切ってできた傷。

きりかぶ【切線】(名) 曲線上の一点で接する直線。

きりかぶ【切創】(名) 刃物で切ってできた傷。

きりかぶ【切断】(名) 切り離すこと。

きりかぶ【切端】(名) 切れ端。

きりかぶ【切追】(名) 差し迫ること。

きりかぶ【切手】(名) 郵便料金の支払いを証明するために貼る証票。

きりかぶ【切点】(名) 接線と曲線との接する点。

きりかぶ【切倒】(名) 切り倒すこと。

きりかぶ【切盗】(名) 切り取って盗むこと。

きりかぶ【切取】(名) 切り取ること。

きりかぶ【切取強盗】(名) 強盗の一種。人を殺傷して金品を奪う。

きりかぶ【切抜】(名) 切り抜くこと。

きりかぶ【切抜帳】(名) 新聞・雑誌などの切り抜きを貼り集めておく帳面。

きりかぶ【切抜通】(名) 山の尾根などを切り開いて通した道。

きりかぶ【切羽】(名) 坑道の掘進する最先端。

きりかぶ【切羽詰まる】(動ラ五) 事態が差し迫って、どうにもならなくなる。

きりかぶ【切羽詰る】(動ラ五) 切羽詰まる。

きりかぶ【切羽詰る】(動ラ五) 切羽詰まる。

きりかぶ【切火】(名) 火打ち石で打ち出す火。

きりかぶ【切火】(名) 切り火。

きりかぶ【切火】(名) 切り火。

きりかぶ【切火】(名) 切り

（あいさつ）［挨拶］（名）（する）人と会ったり別れたりするときに、礼儀として言葉や動作をかわすこと。❶（―する）物ごとをうまくさばくこと。「―に困る」❷（―する）訪問や来客に対して、口上を述べること。「―回り」❸（―する）手紙や文書で、時候や安否などについて述べること。「―状」❹（―する）仲裁すること。「―に入る」

（あいさつ）［挨拶］（感）人と会ったり別れたりするときに、礼儀として言葉をかわす。「―をしなさい」

ぎんいろ　ぎんいん　ぎんこう　ぎんしゃ　ぎんじょう　ぎんせん　ぎんぞう　ぎんだか　ぎんちゃ　ぎんてつ　ぎんなん　ぎんのさじ　ぎんばえ　ぎんぱく　ぎんぱつ　ぎんぴょう　ぎんぷう　ぎんぷら　ぎんぺい　ぎんぽう　ぎんまく　ぎんめし　ぎんめん　ぎんもう　ぎんや　ぎんゆう　ぎんよう　ぎんりょう　ぎんろ　ぎんわん　ぎんをきる　ぎんをする　ぎんをつぐ　ぎんをつぐ　ぎんをつぐ

ほんかく【本格】（名）❶本来の格式。❷本来の資格。

ほんかくてき【本格的】（形動）❶本来の格式にかなっているさま。❷本来の資格にかなっているさま。

ほんかくてき【本格的】（形動）❶本来の格式にかなっているさま。❷本来の資格にかなっているさま。

ほんかた【本方】（名）❶漢方医学で、古典に基づいて治療すること。❷漢方医学で、古典に基づいて治療すること。

ほんかた【本方】（名）❶漢方医学で、古典に基づいて治療すること。❷漢方医学で、古典に基づいて治療すること。

ほんかん【本官】（名）❶本来の官職。❷本来の官職。

ほんかん【本官】（名）❶本来の官職。❷本来の官職。

ほんがん【本願】（名）❶仏語。仏・菩薩が衆生を救うために立てた誓願。❷仏語。仏・菩薩が衆生を救うために立てた誓願。

ほんがん【本願】（名）❶仏語。仏・菩薩が衆生を救うために立てた誓願。❷仏語。仏・菩薩が衆生を救うために立てた誓願。

ほんがんじ【本願寺】（名）❶浄土真宗の本山。京都にある。❷浄土真宗の本山。京都にある。

ほんがんじ【本願寺】（名）❶浄土真宗の本山。京都にある。❷浄土真宗の本山。京都にある。

ほんき【本気】（名）❶まじめな気持ち。❷まじめな気持ち。

ほんき【本気】（名）❶まじめな気持ち。❷まじめな気持ち。

ほんぎ【本義】（名）❶本来の意味。❷本来の意味。

ほんぎ【本義】（名）❶本来の意味。❷本来の意味。

ほんきょ【本拠】（名）❶活動の中心となる場所。❷活動の中心となる場所。

ほんきょ【本拠】（名）❶活動の中心となる場所。❷活動の中心となる場所。

ほんきょち【本拠地】（名）❶本拠のある土地。❷本拠のある土地。

ほんきょち【本拠地】（名）❶本拠のある土地。❷本拠のある土地。

ほんきん【本金】（名）❶利息に対する元金。❷利息に対する元金。

ほんきん【本金】（名）❶利息に対する元金。❷利息に対する元金。

ほんぎん【本銀】（名）❶銀貨の本位。❷銀貨の本位。

ほんぎん【本銀】（名）❶銀貨の本位。❷銀貨の本位。

ほんきんぽんい【本金本位】（名）❶金貨を本位貨幣とする制度。❷金貨を本位貨幣とする制度。

ほんきんぽんい【本金本位】（名）❶金貨を本位貨幣とする制度。❷金貨を本位貨幣とする制度。

ほんぎんぽんい【本銀本位】（名）❶銀貨を本位貨幣とする制度。❷銀貨を本位貨幣とする制度。

ほんぎんぽんい【本銀本位】（名）❶銀貨を本位貨幣とする制度。❷銀貨を本位貨幣とする制度。

ほんく【本区】（名）❶本来の区域。❷本来の区域。

ほんく【本区】（名）❶本来の区域。❷本来の区域。

ほんぐう【本宮】（名）❶本社。❷本社。

ほんぐう【本宮】（名）❶本社。❷本社。

ほんぐち【本口】（名）❶本来の入口。❷本来の入口。

ほんぐち【本口】（名）❶本来の入口。❷本来の入口。

ほんぐみ【本組】（名）❶本来の組織。❷本来の組織。

ほんぐみ【本組】（名）❶本来の組織。❷本来の組織。

ほんぐら【本蔵】（名）❶本来の蔵。❷本来の蔵。

ほんぐら【本蔵】（名）❶本来の蔵。❷本来の蔵。

ほんけ【本家】（名）❶一族の中心となる家。❷一族の中心となる家。

ほんけ【本家】（名）❶一族の中心となる家。❷一族の中心となる家。

ほんけい【本形】（名）❶本来の形。❷本来の形。

ほんけい【本形】（名）❶本来の形。❷本来の形。

ほんけがえり【本家返り】（名）❶祖先の性質が現れること。❷祖先の性質が現れること。

ほんけがえり【本家返り】（名）❶祖先の性質が現れること。❷祖先の性質が現れること。

ほんけん【本件】（名）❶本来の件。❷本来の件。

ほんけん【本件】（名）❶本来の件。❷本来の件。

ほんけん【本県】（名）❶本来の県。❷本来の県。

ほんけん【本県】（名）❶本来の県。❷本来の県。

ほんけん【本権】（名）❶本来の権利。❷本来の権利。

ほんけん【本権】（名）❶本来の権利。❷本来の権利。

ほんけんしょ【本検所】（名）❶本来の検所。❷本来の検所。

ほんけんしょ【本検所】（名）❶本来の検所。❷本来の検所。

ほんこ【本戸】（名）❶本来の戸。❷本来の戸。

ほんこ【本戸】（名）❶本来の戸。❷本来の戸。

ほんこう【本校】（名）❶本来の校。❷本来の校。

ほんこう【本校】（名）❶本来の校。❷本来の校。

ほんこう【本港】（名）❶本来の港。❷本来の港。

ほんこう【本港】（名）❶本来の港。❷本来の港。

ほんこく【本国】（名）❶本来の国。❷本来の国。

ほんこく【本国】（名）❶本来の国。❷本来の国。

ほんこくせき【本国籍】（名）❶本来の国籍。❷本来の国籍。

ほんこくせき【本国籍】（名）❶本来の国籍。❷本来の国籍。

ほんこん【本婚】（名）❶本来の婚姻。❷本来の婚姻。

ほんこん【本婚】（名）❶本来の婚姻。❷本来の婚姻。

ほんさい【本妻】（名）❶本来の妻。❷本来の妻。

ほんさい【本妻】（名）❶本来の妻。❷本来の妻。

ほんさく【本作】（名）❶本来の作。❷本来の作。

ほんさく【本作】（名）❶本来の作。❷本来の作。

ほんさん【本山】（名）❶本来の山。❷本来の山。

ほんさん【本山】（名）❶本来の山。❷本来の山。

ほんし【本支】（名）❶本来の支。❷本来の支。

ほんし【本支】（名）❶本来の支。❷本来の支。

ほんし【本紙】（名）❶本来の紙。❷本来の紙。

ほんし【本紙】（名）❶本来の紙。❷本来の紙。

ほんしき【本式】（名）❶本来の式。❷本来の式。

ほんしき【本式】（名）❶本来の式。❷本来の式。

ほんしつ【本質】（名）❶本来の性質。❷本来の性質。

ほんしつ【本質】（名）❶本来の性質。❷本来の性質。

ほんしゃ【本社】（名）❶本来の社。❷本来の社。

ほんしゃ【本社】（名）❶本来の社。❷本来の社。

ほんしゃく【本尺】（名）❶本来の尺。❷本来の尺。

ほんしゃく【本尺】（名）❶本来の尺。❷本来の尺。

ほんしゅ【本主】（名）❶本来の主。❷本来の主。

ほんしゅ【本主】（名）❶本来の主。❷本来の主。

ほんしゅう【本州】（名）❶本来の州。❷本来の州。

ほんしゅう【本州】（名）❶本来の州。❷本来の州。

ほんしゅく【本宿】（名）❶本来の宿。❷本来の宿。

ほんしゅく【本宿】（名）❶本来の宿。❷本来の宿。

ほんしょ【本所】（名）❶本来の所。❷本来の所。

ほんしょ【本所】（名）❶本来の所。❷本来の所。

ほんしょう【本性】（名）❶本来の性。❷本来の性。

ほんしょう【本性】（名）❶本来の性。❷本来の性。

ほんしょう【本証】（名）❶本来の証。❷本来の証。

ほんしょう【本証】（名）❶本来の証。❷本来の証。

ほんしょく【本職】（名）❶本来の職。❷本来の職。

ほんしょく【本職】（名）❶本来の職。❷本来の職。

ほんしん【本心】（名）❶本来の心。❷本来の心。

ほんしん【本心】（名）❶本来の心。❷本来の心。

ほんしん【本震】（名）❶本来の震。❷本来の震。

ほんしん【本震】（名）❶本来の震。❷本来の震。

ほんすじ【本筋】（名）❶本来の筋。❷本来の筋。

ほんすじ【本筋】（名）❶本来の筋。❷本来の筋。

ほんせい【本性】（名）❶本来の性。❷本来の性。

ほんせい【本性】（名）❶本来の性。❷本来の性。

ほんせき【本籍】（名）❶本来の籍。❷本来の籍。

ほんせき【本籍】（名）❶本来の籍。❷本来の籍。

ほんせん【本線】（名）❶本来の線。❷本来の線。

ほんせん【本線】（名）❶本来の線。❷本来の線。

ほんせん【本船】（名）❶本来の船。❷本来の船。

ほんせん【本船】（名）❶本来の船。❷本来の船。

ほんそう【本葬】（名）❶本来の葬。❷本来の葬。

ほんそう【本葬】（名）❶本来の葬。❷本来の葬。

ほんそく【本則】（名）❶本来の則。❷本来の則。

ほんそく【本則】（名）❶本来の則。❷本来の則。

ほんそん【本尊】（名）❶本来の尊。❷本来の尊。

ほんそん【本尊】（名）❶本来の尊。❷本来の尊。

ほんた【本田】（名）❶本来の田。❷本来の田。

ほんた【本田】（名）❶本来の田。❷本来の田。

ほんだい【本題】（名）❶本来の題。❷本来の題。

ほんだい【本題】（名）❶本来の題。❷本来の題。

ほんだい【本体】（名）❶本来の体。❷本来の体。

ほんだい【本体】（名）❶本来の体。❷本来の体。

ほんだい【本代】（名）❶本来の代。❷本来の代。

ほんだい【本代】（名）❶本来の代。❷本来の代。

ほんだい【本台】（名）❶本来の台。❷本来の台。

ほんだい【本台】（名）❶本来の台。❷本来の台。

ほんだい【本大】（名）❶本来の大。❷本来の大。

ほんだい【本大】（名）❶本来の大。❷本来の大。

ほんだい【本内】（名）❶本来の内。❷本来の内。

ほんだい【本内】（名）❶本来の内。❷本来の内。

ほんだい【本日】（名）❶本来の日。❷本来の日。

ほんだい【本日】（名）❶本来の日。❷本来の日。

ほんだい【本入】（名）❶本来の入。❷本来の入。

ほんだい【本入】（名）❶本来の入。❷本来の入。

ほんだい【本年】（名）❶本来の年。❷本来の年。

ほんだい【本年】（名）❶本来の年。❷本来の年。

ほんだい【本能】（名）❶本来の能。❷本来の能。

ほんだい【本能】（名）❶本来の能。❷本来の能。

ほんだい【本能】（名）❶本来の能。❷本来の能

（新カナ表記）[名詞]　（名）　（新カナ表記）[名詞]　（名）　（新カナ表記）[名詞]　（名）　

（新しい言海—新しい言海）

（新しい言海）（名）新しい言海。

（新しい言海）（名）新しい言海。

（新しい言海）（名）新しい言海。

ほんぱ　[形動]　公平で偏らないこと。「―な態度」

ほんぱつ　[名]　一本の木から枝分かれして出ること。

ほんぴょう　[名]　❶本当の評判。❷本当の投票。

ほんぷ　[名]　本妻。

ほんぷ　[名]　本当の富。

ほんぶ　[名]　❶本当の部分。❷本当の武士。

ほんぷう　[名]　その国の代表的な風習。

ほんぶき　[名]　本当の武器。

ほんぶく　[名]　❶本当の服。❷本当の服従。

ほんぶり　[名]　本当の振り。

ほんぷん　[名]　❶本当の分。❷本当の分別。

ほんぺい　[名]　本当の兵。

ほんぺん　[名]　❶本当の便。❷本当の便利。

ほんぽ　[名]　❶本当の歩。❷本当の歩兵。

ほんぽう　[名]　❶本当の方。❷本当の方法。

ほんぽう　[名]　❶本当の法。❷本当の法律。

ほんぽう　[名]　❶本当の報。❷本当の報酬。

ほんぽう　[名]　❶本当の方法。❷本当の方向

ぐんかん【軍艦】(名) 海軍の艦船。

ぐんかん【軍官】(名) 軍人である官吏。

ぐんかん【軍監】(名) 軍隊の監督官。

ぐんかん【軍艦】(名) 軍隊の監獄。

ぐんかん【軍艦】(名) 軍隊の監獄。

ぐんかん【軍艦】(名) 軍隊の監獄

ことばの泉 【言葉】(名) 言語。また、言語の一単位。単語。「―を交わす」「―が通じない」「―の壁」「―の問題」「―の遊び」「―の魔術」「―の綾」「―の端」「―の花束」「―の暴力」「―の森」「―の林」「―の海」「―の宝石」「―の錬金術」「―の洪水」「―の氾濫」「―の闘い」「―の戦争」「―の革命」「―の解放」「―の政治」「―の経済」「―の社会」「―の文化」「―の歴史」「―の哲学」「―の科学」「―の芸術」「―の美」「―の論理」「―の倫理」「―の神学」「―の形而上学」「―の数学」「―の物理学」「―の化学」「―の生物学」「―の地質学」「―の天文学」「―の気象学」「―の地理学」「―の人類学」「―の考古学」「―の民族学」「―の心理学」「―の精神分析」「―の医学」「―の薬学」「―の農学」「―の工学」「―の建築学」「―の音楽」「―の絵画」「―の彫刻」「―の舞踊」「―の演劇」「―の映画」「―の写真」「―の放送」「―の出版」「―の新聞」「―の雑誌」「―の広告」「―の宣伝」「―の教育」「―の学問」「―の研究」「―の発明」「―の発見」「―の技術」「―の産業」「―の経済」「―の貿易」「―の金融」「―の保険」「―の証券」「―の商業」「―の流通」「―の交通」「―の運輸」「―の通信」「―の観光」「―の娯楽」「―の遊戯」「―の競技」「―の体育」「―の軍事」「―の警察」「―の司法」「―の行政」「―の立法」「―の政治」「―の外交」「―の国際関係」「―の国家」「―の社会」「―の家族」「―の個人」「―の人間」「―の生命」「―の自然」「―の宇宙」「―の神秘」「―の哲学」「―の宗教

ろくがつ　ろくじゅう　ろくぶんぎ　ろくまい　ろくめんたい　ろくよう　ろくりょう　ろくろく　ろくろくしょう　ろくろくにち　ろくろくぶし　ろくろくぶんのいち　ろくろくまる　ろくろくまるがた　ろくろくまるがたもじ　ろくろくまるもじ　ろくろくまるもじばん　ろくろくまるもじばんがた　ろくろくまるもじばんがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがた　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじ　ろくろくまるもじばんもじがた　ろくろくまるもじばんもじがたもじ　ろくろくまるもじばんもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじもじ